大正六年九月十四日（第三種郵便物認可）
昭和六年七月廿七日印刷納本
昭和六年八月一日發行（毎月一回一日發行）
（第拾四輯第八號）

建築と社會



特輯記事

建築と都市問題

第十四輯第八號
昭和六年八月一日
日本建築協會

商標 OHNO SHUTTER PATENTED 登錄

特許第七九三五號（延長許可）外十數件併用

大野式防火捲上ヶ戸

〔特許大野式シヤッター〕

主要製品

大野式シヤッター
大野式自働防火鎧戸
大野式工場用軸承
大野式轉子入軸筐
大野式轉子入戸車
大野式廻轉軸抵抗測定機
各種防火扉
應用特殊機械類
特許不二式サッシ受托販賣

合資會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地・電話三田(45)七三三七三八番

八八五(45)島福電話・二中島福上區花此市阪大・所詰員張出付取

建築學會では次の規程によつて第五回建築展覽會を開催の由であります。

第五回建築展覽會規程

第一條　本會の會期、會場及事務所は次の如し

會期　昭和六年　自十一月一日　至十一月十日

會場　東京朝日新聞社展覽會場（麹町區數寄屋橋畔）

事務所　建築學會（東京市京橋區銀座西三ノ一）

第二條　出品を次の二部に分つ

第一部　自由出品

第二部　懸賞競技應募出品

第三條　出品は建築學會々員の作品に限る、但し建築展覽會委員會に於て適當と認めたるものは此の限りにあらず

第四條　第一部に出品すべき作品は下記のものとす

イ、建築圖案

ロ、室内裝飾圖案又は作品

ハ、都市計畫、橋梁、庭園の圖案

ニ、前各號に關係ある工藝品の圖案又は作品

ホ、前各號の寫眞又は模型

ヘ、高等工業學校程度以上の學校に於ける建築科學生の卒業計畫

第一部の出品に對しては審査を行はず、全部陳列するを原則となせども會場の都合によりては止むを得ず取捨をなすことあるべし

第二部に陳列すべき作品は懸賞競技應募圖案にして鑑査に合格したるものとす

第五條　第一部出品につき定むる所次の如し

一、出品は陳列に適當なる裝置をなすことを要す

二、出品せんとするものは別記書式の出品申込書により昭和六年九月三十日迄に本會事務所に申込まるべし

三、出品は總て昭和六年十月二十日迄に本會事務所に到達する樣搬入せらるべし

四、出品を受理したるときは直ちに預り證交付す

第六條　第二部懸賞募集につき定むる所次の如し

一、課題　市街地に建つ「アパートメントハウス」

イ、敷地面積六百平方米以内

住宅地域内の角地にして二方は隣地に接し、南側には道路を隔てゝ小公園あり、敷地の形狀及道路の幅員は任意とす

ロ、程度　中流階級向とし經濟的且保健的にして、夫婦者並に小供一、二人ある家族を收容す

收容世帶數、建築面積、階數等は任意とし、構造は耐火構造とす

但し設計は市街地建築物法に準據するを要す

二、所要圖面

平面圖、立面圖（二面）、斷面圖縮尺各 1/100 並に透視圖とす

但し一階平面には敷地關係を明示すること

用紙は製圖原紙半切四葉以内、圖面の仕上は隨意とし、寸法は總てメートル法による

簡單なる説明書を添付するも差支へなし

三、應募者氏名　應募者は必ず住所氏名を明記したる紙片を封筒に入れ圖案と共に嚴封するものとし、圖案又は説明書には氏名、暗號等を記すことを得ず

四、締切期日　昭和六年九月十五日午後四時迄に建築學會事務所に提出するものとす

五、審査員大江新太郎　下元　連　中村　傳治　山下　壽郎　吉田　享二（五十音順）

六、賞牌　應募圖案にして鑑査に合格したるものゝ内特に優秀なるものに對しては金牌又は銀牌を贈與す其の數は審査の結果之を定む

第七條　出品の保管は最善の注意を拂ふと雖も火災其他の場合に於ける出品の紛失又は損害に對しては一切其の責に任ぜず

第八條　出品の荷造及運搬の費用は出品者の負擔とす

但し在京會員以外の出品者の圖面及寫眞に限り本會の費用を以て返送す

第九條　出品の陳列法及場所の區劃等は本會に於て之を定むるものとす

第十條　陳列したる出品は閉會後に非ざれば之を撤出することを得ず

第十一條　出品は閉會の翌日午後五時迄に會場に於て受領せらるべし

第五回建築展覽會第一部出品申込書

昭和　年　月　日

建築學會御中

出品者　氏名　　員

住所

下記の通り出品申込を致しますから御承認の上は規定に依り出品せしめられんことを

製作者	會員及別	員
	氏名	
	住所	
	勤務先	
題目		
出品物の種類		
數量	寸法	
備考		

社團法人 日本建築協會々報

法制委員會第二分科會

時　六月二十日午後五時三十分―同十時五十分
所　清交社
出席者　委員長池田、主査玉置、委員石川、小川、佐藤松、武田、毛利
日本エレベーター　多田
記事一、玉置主査座長となり開會し、豫て數回に亘り審議せし昇降機取締規則修正案に付疑問として保留しありたる點並更に修正を加ふべき點等に關し最初より今一度審議をなし、別紙の通り修正案を得たり（別紙略）

常務會

時　六月二十二日午後五時三十分―同八時三十分
所　本協會事務室
出席者　會長片岡、主記小川陽、小川安阪井、松本、森本
主計　大原、岡部、德政
編輯　小西、高橋、本田、村野
監事　光安
報告
一、五月分會計報告
一、春季大會終了報告
一、兩住宅展覽會經過報告
一、第七回建築講習會終了報告
一、東京帝室博物館當選圖案刊行報告
議事
一、六月例會に關する件
一、當會誌特輯計畫中變更に關する件
一、學校建築圖集第三版發行の件
一、諸建築懸賞當選圖案集發行の件
一、職員上半期賞與に關する件
一、會員詮衡
一、其他

住宅委員會第一分科會

時　七月六日午後六時―同十時
所　ライオン食堂
出席者　主査富士岡、委員淺野、小山、佐々木、赤松、渡邊
記事一、前回に引續き本夕は左の通り研究を進めたり
(1)左官工事、(2)錺工工事、(3)鐵物工事
(4)敷物工事、(5)塗師工事、(6)建具工事
(7)附屬金物等

資料委員會

時　七月七日午後五時三十分―同八時
所　ライオン食堂
出席者　第二分科、山田、南京、松尾
第四分科　伊東、山中、須賀
記事、第二分科、松尾委員より疊の見本提出あり右に關し種々打合せをなし、次回より調書の作成をなすことを申合せたり
第四分科一、手洗器L5以外に楕圓形のものを選ぶ必要なきや
一、同をL5大小の二種としては如何
一、以上の手洗器の排水栓及オーバーフローを廢しては如何
一、丸鉢の種類も大小の二種としては如何
一、前回の持送りの件は持越
右次回迄に研究すること

災害强度委員會

時　七月九日午後六時―同九時三十分
所　住友倶樂部三階大集會室
出席者　幹事　古川
委員　落藤、佐野、堀田、青柳、黒田
篠原、三浦
概記
一、建築規則改正に關し協議をなす
一、鐵矢板に付研究の件
大野幹事より地下鐵第二建設所長武井氏に交渉の結果に付古川幹事より報告ありて結局質問事項は考慮の上次回委員會に於て協議することゝなる
一、鎔接に關し實地見學延引に付大西委員より其の理由電話ありしを以て報告
一、其他鎔接に關し意見の交換

常務會

時　七月十三日午後五時―同六時
所　本協會事務室
報告
一、六月分會計報告
一、香里園住宅展に關し經過報告
一、鈴蘭臺住宅展に關し經過報告
議事
一、七月例會に關する件
一、鑑定人選定に關する件
一、屋（編輯係）採用に關する件
一、會員詮衡

例會

時　七月十三日午後六時三十分―同八時四十分
所　大同生命ビル八階集會室
出席者　會員　石川寛三氏外四十九名
概記一、午後六時三十分開會、先づ片岡會長より本夕例會として講演會を開催したる簡單なる挨拶あり次で講演者林學士江崎政忠氏を紹介す
江崎氏演壇に立ち左の演題の下に二時間に亘る長講演あり（同氏講演は會誌に掲載の豫定）
『建築用の木材に就いて』
尙同氏より講演後陳列したる各種の材鑑に付說明あり次で質問應答の後一同拍手を以て謝意を表し解散せり

法制委員會第二分科會

時　七月十四日午後六時―同九時
所　本協會事務室
出席者　石川、小川、佐藤、酒井、武田
概記一、本夕は主査缺席なるも合議にて先般來急遽昇降機取締規則研究完了したるを以て從前より研究を始めありしアパートメントハウス建築取締規則成案に付研究を進むるや否やに付協議の結果引續き研究することに決し、先づアパートメントハウスの名稱及定義に付研究を始めしも疑義の點多く本問題を研究するに先ち實地見學必要說起り大阪府及兵庫縣下の重なるアパートメ

ントハウス實地見學することに決す
依つて別紙案により先づ市内の市營下寺町及今宮住宅を見學し一面兵庫縣建築課長に同縣下に於けるアパートメントハウスの所在地並建築主等の教示方を依頼することゝせり

轉勤轉居

會員

野上登米二君　兵庫縣飾磨町細江六七一
池田梅親君　兵庫縣武庫郡住吉村字松本一七七一番地ノ二
山田亟平君　大阪府中河内郡小阪町大字下小阪六〇八（東區横堀三丁目四〇山田工司店）
谷川勝次郎君　東淀川區十三東ノ町三丁目四四

會員（地方在住）

高井久治君　岡山市岡町岡山醫大化學教室新築工事場大林組醫大出張所
黒住福三郎君　靜岡市鷹匠町二ノ三九
普通賛助員
末本豐吉君　金澤市上柿ノ木畠三〇
荒井龍吉君　金澤市穴水町二番丁ノ四第一高女前
木島德太郎君　名古屋市東區千種町北裏七五ノ一
大野竹一君　東京府下代々幡町代々木初臺五七七
安田繁藏君　大阪府柏原町東若通り
大野健次君　東區瓦町一丁目九藤木工務店内
樋渡純良君　大牟田市三井染料工業所内
大浦發電所大林組出張所
原定君　神戸市西須磨上池下一〇

改姓

今井英雄君（舊姓清水）

退會者

會員
福田政治君　和田信君

寄贈雜誌

建築雜誌　毎號　建築學會
日本建築士　毎號　其
建築世界　毎號　其
建築新潮　毎號　洪洋社
建築學研究　毎號　其
建築畫報　毎號　其
建築　毎號　中央建築會
住宅　毎號　住宅改良會
インターナショナル建築　毎號　其
滿洲建築協會雜誌　毎號　其
新建築　毎號　其
朝鮮と建築　毎號　朝鮮建築會
國際建築　毎號　其
土木建築　毎號　其
土木建築材料商報　毎號　其
土木建築工事畫報　毎號　其
臺灣建築會誌　毎號　其
都人　毎號　其
大阪工業倶樂部　毎號　其
建築業協會々報　毎號　其
東京土木建築業組合報　其　組合
大阪土木建築業組合報　毎號　其　組合
庭園と風景　毎號　日本庭園協會
日刊工業新聞　毎號　其　社
東洋建材時報　毎號　其　會
名古屋工業會々報　毎號　其　社
日本建材新聞　毎號　其　社
木材彙報　毎號　大阪木材協會
木材新聞　毎號　關西木材商報社
工業評論　毎號　其　社
工業要錄　毎號　大阪工業會
工業　毎號　其發行所
大阪政　毎號　大阪都市協會
都市問題　毎號　東京市政調査會
學士會月報　毎號　學士會
工政　毎號　其　會
國立公園　毎號　其　社
關西園藝　毎號　其　社
塗料　毎號　日本ペイント株式會社
塗工の魁　毎號　其　社
工業　毎號　其　會
電氣學會雜誌　毎號　其　會
超科學　毎號　大阪鋼島工業會
電氣評論　毎號　其　社
帝國鐵道協會報　毎號　其　會
朝鮮鐵道協會會誌　毎號　其　會
鐵道軌道經營資料　毎號　鐵道同志會
趣味の園藝　毎號　關西園藝會
セメント界彙報　毎號　日本ポートランドセメント同業會
エンヂニヤリング　毎號　其　社
經濟資料　毎號　東亞經濟調査局
通俗衛生　毎號　大阪府衛生會
京都の實業　毎號　京都商工會議所
都市創作　毎號　其　會
產業　毎號　其　社
日本美術協會報告　毎號　其　社

役員

會長　理事　評議員　片岡安
副會長　理事　評議員　古宇田實
副會長　理事　評議員　日高胖
監事　波江悌夫
監事　光安梶之助
常務（主記）評議員　小川陽吉
常務（主記）評議員　小川安一郎
常務（主記）評議員　阪井米吉
常務（主記）評議員　松本儀八
常務（主記）評議員　森本藤吉
常務（主計）評議員　大原芳知
常務（主計）評議員　岡部顯則
常務（主計）評議員　德政金吾
常務（編輯）評議員　小西一眞
常務（編輯）評議員　高橋榮治
常務（編輯）評議員　本間乙彦
常務（編輯）評議員　村野藤吾
評議員　池田實　伊東宗太郎
評議員　岩尾保術　小笠原朗
評議員　岡本新次郎　加藤誠二
評議員　籠田定憲　木村寛一
評議員　久保田筆雄　小寺彌一
評議員　酒井勇三郎　白石登喜男
評議員　芝田知重　篠原太郎
評議員　須川廉太郎　須藤隼人
評議員　武田經一　高田利一郎
評議員　永田三次郎　原科準平
評議員　前内文二郎　三木來三
評議員　村上徹一　八木幸次郎
評議員　山田亟平　山田初次
評議員　山中茂一　渡部圭吾



大 阪 ・ 水 邊 風 景　（土佐堀川のダム）

都市問題と建築

社會建築

第十四輯第八號　昭和六年八月發行

目次

卷頭插畫・水邊風景（土佐堀川のダム）……（一）
『建築より見たる都市の諸問題』座談會……（三）
住宅改良と都市計畫……藤田進一郎…（二六）
大阪の區劃統制の過去と現在……玉置豐次郎…（二八）
東京と大阪とを比較して……黒田鵬心…（三八）
都市と住地と住宅……加藤善吉…（四〇）
濠洲シドニー港の對岸連絡計畫に就いて……宮飼克二…（四三）
つひへ往くモスクワの大伽藍……德政金吾…（四九）
「新興建築」特輯號を讀みて……大須賀巖…（五二）
七十一階の建物が三十三週間で出來上つた工事の施工概況……小山九市…（五五）
新興建築材料としてのアルミニウム…（中）……葛野壯一郎…（五九）
建築工事の計劃と實施…(3)……渡部圭吾…（六一）
都市・建築・音響…(11)……佐藤武夫…（六六）
中野勉…（六六）
國際新建築集……（附三九）
京阪神新建築集……（附四三）

『建築より見たる都市の諸問題』座談會

内山新之助　小川市太郎
片岡安　葛野壯一郎
古宇田實　津田敏雄
鳥井信一　藤井厚二
（五十音順）

高橋榮治
本間乙彦
村野藤吾
鷹取陽

――七月九日、清交社に於て掲記した都市問題に對する權威者にお集りを願つて次のやうな話題項目に就いて大變有益なる御説を拜聽致しました、これ等の御意見は會員並に讀者諸氏にとつて絶大な御參考になることゝ確信致します。

一、**都市の改善運動**
一、**都市建築の改善**
一、**强制に依る防火地區の實現――防火と建築の問題**
一、**都市建築行政運用の改善**
一、**廣路に沿ふ建築敷地整理の問題**
一、**地價と建築物高さの問題**

尙當日府市の御方で出席の御通知に接して俄かの事故即ち大阪府廳からは柴田知事親任官祝賀會開催のため大阪市廳からは市會開會のため夫々御缺席のやむなきに到つたことは遺憾でした　（記者）――

本間　一寸御挨拶を申上げます今日は大變暑さの砌り、さうして御多忙の所、御差繰り御出で下さいまして誠に有難く存じます。本日の催しは建築より見たる都市の諸問題の座談會なのでございますが、當會發行の『建築と社會』に載せる爲に皆樣の御意見を伺ひたいと云ふ意味で催しました譯でございます。何分暑い時分で、お疲れでございませうが、色々と御意見をお聽かせ下さらんことをお願ひ致します。編輯の者に代りまして、一言御挨拶を申上げて置きます――それで今晩の會の進行に就きましては、片岡先生にお願ひ致したいと思ひますが如何でございませうか（「異議なし」と呼ぶ者あり）

本間　それではどうぞお願ひ致します。

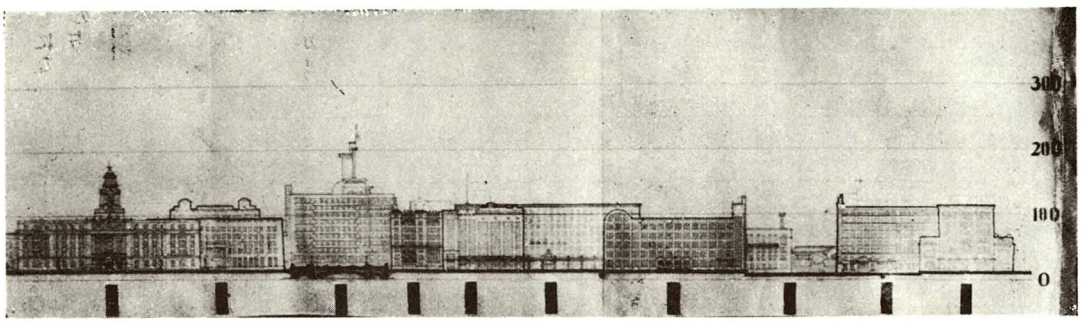
片岡　私が纏めることが適當であるか、不適當であるか分りませぬが、マア暫時やつて、後で又更に適當な人を適當にお選びになるが可いと考へましたなら、其の機會にお願ひすることに致します。第一此の問題に就て御相談があつた時に私は主催者たる編輯の方に申上げたのでありますが、都市の諸問題と云へば、なか〳〵事廣汎に亘り、都市計畫から都市の一般行政及び都市の社會政策にまで擴がる非常に大きな問題であるから其の都市の諸問題中、建築と云ふ一つの眼鏡から覗いた都市の諸問題をお互に話し合つたら非常に有益なことであらうと云ふので、初は斯う云ふ命題でなかつたのでありますが、私からお願ひして、斯んな風に命題を變へて貰つたのであります。所で命題が斯う云ふ風になつて見ても、然らばどう云ふことを話し合つたら可いかと云ふことになると、是亦なか〳〵其の方面が廣く、捉ふべきポイントが隨分澤山あつて、お互に困るだらうと云ふので、試に其の項目を擧げて見ますと、此の印刷物に掲げましたやうに、順序は違ひますが或は都市の美觀と云ふ問題もあれば、廣告の取締問題、或は建築物の高さの問題、或は建築と交通の關係や地價との關係、或は敷地造成の諸問題とか、建築行政運用の改善、或は防火地區の實現等、色々な問題があるのでありまして、試に茲に掲げた項目の唯一つに話を集中するとしても種々有益な御意見があるだらうと思ひますが、今日は座談會ですから、どの問題

と云ふことなしに、先づ誰かお話しになれば、其の問題に對して他の方が意見を加へられ、次に又第三者の方が更にそれに對してお話をせられ、其の中に自然他の項目に移ると云ふことになつても一向構はぬので、そんな風にお話を願つたら、お互に利する所が多くないかと考へます。私の記憶して居る所に依ると、今から四年前でしたか、第一回の全國都市問題協議會と云ふものが大阪に開かれ、二日間に亘つて都市の問題を論議しやうと云ふ時に、主として私が、其の第一日であつたか、第二日であつたか、兎に角其の一日を交通或は土木方面に限つて、他の一日は建築に限定して貰ひたい——簡單に言ふと、詰り都市問題協議會の總ての問題の半分を土木交通方面、他の半分を建築方面より見たる問題にして貰ひたいと云ふことを主張して、さう云ふ風に運ばれたことを記憶して居ります。所が善いことか、悪いことか知らぬけれども、建築家と云ふものは、大體自己の立場から自己本位のことを述べ、大局を看過するやうな嫌ひが非常に濃厚でありまして、其の後都市計畫、或は都市の復興、或は都市の諸問題、斯う云ふ都市關係の色々の問題が起つた時分に建築と云ふ方面から見た意見が極く少い。お互ひ同志は多少考へ、又多少意見の交換はするけれども對社會的にはどうも其聲が徹底せぬ。悪く言ふと、杳として聲なしと云ふやうな嫌ひが非常にあつて是は我々非常に遺憾として居る所である。此建築協會の會員の如き團體としての對社會運動としては矢張り都市の諸問題を常に建築と云ふ眼鏡から見て或る意見を立てゝ、之を社會に公告すると云ふことが必要ではないかと考へて居ります。今日御集りの諸君には色々御意見があると信じますから、どの問題かを切掛けに御話をして戴けば、雜誌を通じて、少くとも會員、或は雜誌を讀む人には其意見が廣く徹底して、大いに利する所があらうと思ひます。今日津田さんは直ぐお歸りになるさうでありますが、此中の都市建築行政運用の改善と云ふのはどうしても津田さんを中心としてお話を願はなければならぬ問題でありますから、順序は宜いか悪いか知りませぬが之に就て何方かお話が願へれば大變都合が好いかと思ひます。もう既に座談會に移る前にも此話は出て居つたのであります。

津田　此建築行政運用の改善と云ふやうな問題でありますと、實際其衝に當つて居る私共から問題を出すよりか、外部より御覽になつて居る方から御意見を伺ひまして、それに私の意見を附けて申上げるやうにしたら宜からうかと思ひます。

片岡　其の方が結構ですネ、葛野君　斷片的な御感想で宜しいから、一つ。

葛野　別に是と云ふ意見はありませぬけれども、先刻片岡さんも言はれた様に、我々もさう云ふ經驗がありますが、兎に角第一出願から認可迄の期間が割合に長いやうです。我々の經驗では、どうも出願してから彼是一ケ月、場合に依つては一月半も要かる。無論書類に多少不備な所があり、法に違反するやうな點がありませうけれども、それは先刻片岡さんのお話しになりましたやうに、出願すると、大部分は數回に亘つて附箋が附て來る。是で可いかと思うて出すと、又お呼出がある。出掛ける又お呼出があると云ふやうなことを今まで度々經驗して居る。さう云ふ點も多少遲れる原因になつて居るかと思ひます。今一つは先刻も申上げたやうに、努めて善意に解釋されれば可なり手つ取早く解決の付くことも、どうも法を中心に考へられ、それを非常に重く視られて、それが爲に處理が遲れると云ふやうなこともあり得ると思ひます。段々大變便宜なお扱ひを受けて我々も非常に嬉しく存じて居るのでありますが、遲れる主たる原因は、之を取扱はれる方に於ては餘り調査を細かくされ、それが又各係それ〳〵の機關を通してさうして愼重に御取扱ひになる爲だとは思ひますけれども、内容の物其ものに依つてそこに多少御斟酌を願つたら、どうでせうか。或は一つの工事の變更とか又追加とか云ふやうな場合に、非常に愼重な研究を要するものと、先刻御話のやうな極く簡單なものとある譯ですが、どうも係りの方ではどれも是も一列に同じ規則を楯になすつて、其物の輕重或はさう云ふ斟酌が餘りないやうなことがありは

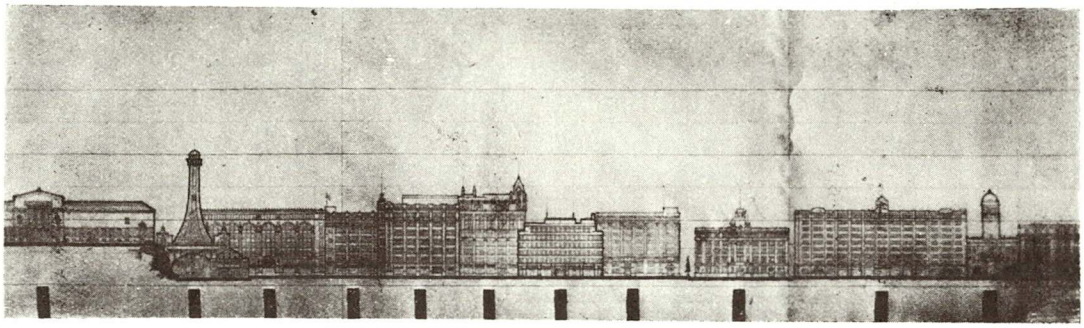


（會覽展念記年周十畫計都市阪大）　一の　（べ〻競背物築建築内市）」築建の阪大く行び延に空

しないかと思ひます。簡單なものは簡單なやうに、重要なものは重要なやうに、其間多少取扱上の御斟酌を願へば、或はもう少し事が簡單に濟むのではないかと思ひます。

津田　御趣旨は能く解つて居りますし、自分も誠に痛く感じます點が大分ございます。今の附箋の問題でありますが、仕事の能率を擧げる爲に、内部の事務を或は建築線係であるとか、或は特務であるとか、或は監査であるとか云ふやうな風に分けて居ります。それは能率を擧げる爲ではありまするが、其個々が獨立して、或は呼出したり、或は自分の所だけで解決を付けて行かうと云ふやうな事柄が得て起り易いので、是が今御話のやうな弊害を起して居るのではないかと思ひます。此點も實は不斷から非常に注意して居りますので、必ず附箋が統一せぬことには呼出しなどせぬことにして居りますが、併し數多い中には必ずしもそんなことがないとは言へませぬ極く最近に此所に御出でになる御方の關係のものにも其實例がありましたが、是は努めて十分御趣意に副ひたいと考へて居ります。それから尚一つは　警察部の内部に於ては、或は保安課、交通課、工場課と云ふやうに、建築課以外にそれ〴〵主管の課があります、其他内務部の方では庶務課、土木課、都市計畫課、學事課と云ふやうに、色〻獨立した別々の命令、取締りをやつて居る方面があるのであります。是等が成るべく統一してやる方法を執つて居るのでありまするが、仕事の性質上どうも今のやうに統一してやれぬ場合があるのが普通なことになつて居ります。是は洵に遺憾とするのでありますが、唯今の御趣意は今後何かの會議の時にでも持出し、他の課長とも能く話合ひまして、十分御趣意に副ひたいと考へて居ります。それから施工の大局を見て、枝葉は餘り嚴しく見ぬやうにと云ふことで事實やつて居るのでありますが、それが先程申上げた通りに、技手の方で申しますと、一つの書類を受取つて、それを見る衝に當りますれば、どうしても其仕事の上から先づ不適當な、法に合はぬ所のものを成るべく澤山發見しやうと云ふやうな、欲望と申しますか、興味と申しますか、是が一番先に出るのであります。是は私共の方の仕事としては却つて利用すべき事柄でありまするが、さう云ふ結果から出た附箋を主任なり又監査なり、私共の所で十分こなさずにやりますと、得て今の御趣意のやうな缺陷が出て來る譯であります。是等は更に今後それぞれの係を十分鞭撻して御趣旨に副ふやうに努めたいと考へて居ります

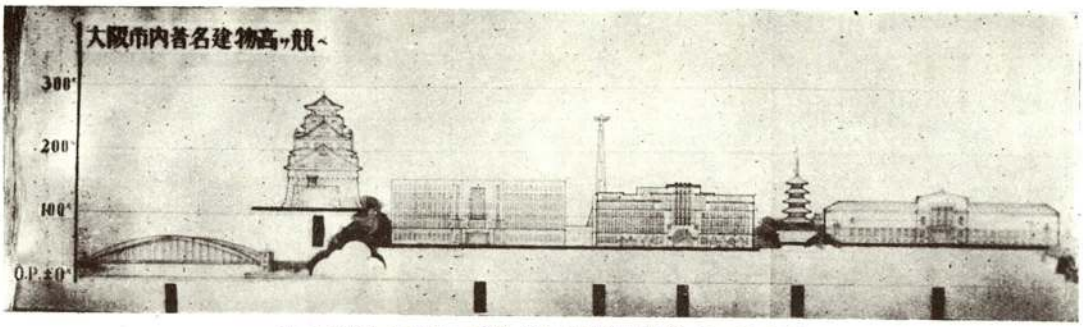
村野　技術者の方で監督官の方の解釋の實例などを能く知らない場合が大分にあるやうです　唯法律の文面に現はれた以前の、例へば積極的に解釋した實例だとか、消極的に解釋した實例とか云ふやうなものを能く知つて居ると、願を出す時に、是は斯う云ふやうにしたら通るであらうと云ふ風に考へて、附箋の數も自然少くなり、御迷惑を掛ける點も割合に少くなりはしないか、さうでないと、初め係りの所で調べられて、そこで押し詰つてしまふと、二進も三進も行かないやうになつて、其の人の解釋が進まなければ、それから上には通過しない、と云ふて、其



二の二　（べ競背物建築内市）　建築の阪大く行び延に空

の人を措いて上の人に解釋を頼むやうな態度に出ると、人間ですから、感情的にやられてはと我々は色々臆測をしたり遠慮したりして大變手間取ることが多いやうに思ひます　ですから私等の考としては成べくさう云ふ解釋の實例と云ふやうなものが一般に分つて居ると、大變都合が好いと思ひます。又度々さう云ふことにブツ突かることがありますが、何かさう云ふ點が分るやうな方法はないものでございませうか。

津田　御存じの通り今の建築物法規は法律から細則に至る迄所謂行政官廳の認定と云ふやうなものを規定する條項が非常に多いのでありますが、それは何とかして御希望のやうな風に内規とか方針とか云ふものを拵へ得るものでございまして、之を拵へましたならば何かの機關を通して發表して宜からうと思ふのであります。それから御話の序に申すので、斯う云ふことを私共建築監督官の口から言ふて宜いかどうか分かりませぬが又片岡さんなど創案當時から御關係の方が御出でになる前で申上げるのは甚だ何でありますが、得て建築物法の條文の中には餘り私生活に世話を焼き過ぎるやうな條項が澤山あり過ぎるのではございませぬか。それで一般の統制と云ふ方面から考へて、是は利害錯綜して居る中をやつて行くのでありますから、勿論法律の力もなければならぬのでありますが、個人の家を建てるのに、衛生上どうであるとか云ふやうな問題は、極く幼稚な市民を導いて行く上には、教へて居つては間に合はぬから、法の力で引張つて行くと云ふやうな事柄も必要でありませうが、衛生と云ふのは多少例が悪かつたかも存じませぬけれども、寧ろ市民の自治に俟つても可いやうな、又それが個人に取つても都合の好いやうな條項が往々あるのではなからうかと存じます。それで實際其の衝に當つて居る自分の覺悟と致しましては、左様な條項は成べく輕く取扱つて行かなければならぬと考へて居ります。無論是非統制を採つて行かなければならぬ地域の問題であるとか建築物の密度の問題であるとか云ふやうなものは、是はどうしても法の力でガンとやつて行かなければならぬものと思ひますが、それかと申して條文の上にある以上は、私生活の問題にしても、見す〳〵違反になつて居る問題を、左様な問題はどうでも宜いと云ふ風な取扱方も一寸やれぬのでありまして、其所の衝に當る者も非常に苦心して居る譯であります。そこへ持つて行つて下僚の方の技手邊りで左様なものゝ餘り色々と工夫したり或は咀嚼して仕事をすることが却つて仕事の結果の上に害が起るのではないかと考へて居ります。マア技手あたりの下僚の方面に於ては事の大と小とを問はず成べく機械的に働かしまして、其の方面々々での主任が多少之を咀嚼することにして居りますが、方面と申しましても澤山ございまして、どうしても亦是が統一を取らなければなりませぬので私共の課では之を統一する爲に監査を置いてございます。是も監査一人でやつて居りますと、詰り其の監査の氣分に依つて一寸した誤りが全部に亘つて誤りを起すやうなことがあつてはなりませぬから四人の監査を置きまして、是が互に仕事を締め合ふやうな仕組に致し、さうして是等の統一を取つて



空に延び行く大阪の建築（市内建築物背競べ）その三

居るのであります。斯う云ふ風にして篩を掛けて行く中に、其の督促なり主任あたりまでには自分等の考は能く徹底して仕事をして居る積りで居ります。又斯う云ふ方面でありますと、徹底さすこともし易いし、弊害も無いと考へます斯様にして一般の仕事に臨んで居るのでありますが、澤山の者でありますから、十分さう考へて居りますけれども、やり損ひが隨分あるのでないかと危ぶんで居ります、そこへ持つて行つて、今の感情と云ふ問題があります、成る程私共の方では感情に驅られなと申しては居りまが、人間がやつて居ることでありますから、矢張り感情と云ふやうなものを下僚邊りで決して持たないとは申されまいと思ひます。若し技手などが申すことで御得心が行かぬ時には、御遠慮なしに主任の所へ持つて行つて戴きたいし、又私と直接前に御打合せしたやうな事柄が、主任の所へ行つて、私の申したことゝ違つて居るやうなことがありましたら、御遠慮なしに私に『主任が斯う々々言ふのだが、あなたの言ふのと違ふがどうか』と云ふ風に、あつさり直接に當つて戴きたいと思ひます是も十分其點は監査あたりにも徹底さしてある筈なので、取調べた所は、書類にして各方面に渡して居ると思ひますが、主任の所までは徹底して居りまして、遺憾ながら係の下僚まで徹底して居なかつたやうな事柄があつた爲に、此の間のやうな問題が起りまして、是は内部の仕事に十分命令が徹底して居なかつた結果からで、甚だ申譯ないことでありますが、今後は左様な缺陷を起さないやうに努めたいと思ひます。どうか左様に御諒承を願ひます。

村野　解釋の實例と云ふやうなものは、建築士などと云ふて、建築を以て職業として居る者は能く知つて居らないと困ることがある。例へば施主から頼まれて仕事をやる場合、非常にデリケートな質問を受けて、それが建築士の職業の重大な部分を占める場合が往々にしてありますが、それに此方が返事をして、願を出しても通過しないと云ふやうなことになると、建築士としては大變不名譽なことである。今後も建築が段々デリケートな問題に觸れて行くと云ふやうな場合を想像すると、其點をはつきり知るか或は解釋の方法に就て可なり自信の持てるやうな風にして置きたいと思ふ。其爲にはどうしても不明瞭な點の解釋の實例などを何等かの方法で御發表を願ふと云ふやうになれば大變結構と思ひますが……

津田　それは何時も私共考へて居りますが、實は理窟から申しますと、地方令の細則はさう云ふ意味で出して居るのでありますが、何しろ澤山複雜な認定と云ふものがありますから、其の細々しいことはどうしても細則には出せませぬ、從つて大阪府では伺ひ定めと云ふものがあります。是は各警察署邊りから解釋を求めて來て、一警察署に解釋を與へました時には各警察署へ其解釋を通達して居ります。是を今例規としてやつて居ります。從つてさう云ふものは細則に準ずるやうなもので、是は私は發表して宜からうと思ひますがそれかと申して、それ等の範圍だけでは、只今の御希望のやうな點は十分充たされまいと思ひます。で、私の方から斯う云ふことを發表したら宜からうと云ふので、唯

私の方から斟酌しながら發表すると云ふのでは、どうも適切でないのではなからうか、それよりか今日のやうな御希望がございましたならば、斯う云ふ建築協會邊りで時々座談會でも催して戴きまして平常扱ふ條文の解釋上の質疑などをどし〳〵出して戴きましたならば、出來るだけ明確に說明を致しまして、それ等を記述して建築協會の雜誌に御載せ下さると云ふやうな事柄は非常に宜いことではないか。—（非常に宜いですな）——さう云ふやうな方法を執つて戴かなければ仕方がないのではないか若し左樣な御希望がございましたならば、課の方に於きましても、私は勿論、それ〳〵其衝に當つて居ります者を成るべく多數に出席させまして、御希望に副ひたいと思つて居りますが、そんな風に御計畫を願ひたいと思ひます。

本間　それから裁判所の方でも判決例と云ふものを發表されて居るやうですネ、あゝ云ふ風に特殊と言ふか、特に難かしい解釋の場合には、斯う云ふものを斯う云ふ風に解釋したと云ふことを實例として御發表願ふやうなことは出來ないでございませうか。

津田　其發表の手段でありますがネ。

村野　協會の雜誌に載せても宜くはないかと思ふのですが……

津田　さうでございますネ、若し協會で座談會のやうなものをお催し下さいまして、細かい認定とか、解釋とか云ふやうな方面の御質疑の機會を御造り下さいましたら、其當時の最近に起つた時事問題として、斯う〳〵云ふ問題があつたが、之に對しては斯う云ふ解決をしたと云ふことを申上げて宜からうと思ひます。例へば過日新聞などで、停車場の前に地下街を造るとか云ふやうな問題が報道せられましたが、其結果がどうなつたかと云ふやうな方面は私の方から新聞に發表する限りのものでない爲に、其儘になつて居りますが一部の方は御存じであらうと思ひます、是は內務省との交涉を斯う云ふやうに進めて、斯う云ふ結果を得て居るのである。或は其結果は此所迄進んだのであると云ふやうに、發表することが出來ると、非常に都合が好いと思ひますのでさう云ふ機會を御拵へ下さると非常に結構だと存じます。

本間　座談會も結構でありますけれども、座談會もさう度々開くことが出來ないと思ひますから、適當の時期に、月々二つでも、三つでも結構でありますから、お選び下さいまして、是非建築家に知らして置きたいと云ふやうなものを御發表にはなれないものでありませうか。

內山　私共の方の雜誌では斯う云ふことをやつて居ります。質疑應答欄を設けて置きまして、時々建築のことなら建築課長に私信でも可いから問合はし、御回答を得て其解釋を雜誌に出して居りますが、是が非常に手つ取り早くて參考になるだらうと思ひます。

片岡　今津田君の御話の中に、法が世話を燒き過ぎると云ふ御話があつたが、私は反對に思つて居る。あれは私共の甚だ意外とする結果になつて、法は原則を論じて居るやうなことばかり書いて居る何所の國の建築取締規則を見ても日本のやうに四段になつて居る所はない。建築の如き、理論ではなく實際此家をどうするかと云ふ其クエツションに對して法律あり、勅令あり、省令あり、地方命令あり、四段に行く爲に其解釋の複雜さは非常なもので、見樣に依つて其輕重が區々である。法律であれば之に從はなければいかぬ　勅令では之に從はなければならぬ。內務省令ではもう少し輕いと云ふやうに、そこらが實に複雜極つたものであるが、何故に斯う云ふやうにするのかと云ふことを、私は其の時の法制局長官であつたかに聽いて見たが、日本では法律を制定するのは素人で何も分らぬから、原則を書いて置けば、何でも皆オーライ、オーライで通過する。勅令であれば專門家が寄つて、適當だと思ふものを書くが、それは何も立法府の協贊を經る必要はない法律には成べく書かないやうにするのだと云ふとで、家の高さも何も書いてない。極端に言ふと法律は唯原則が書いてあるだけで、他は皆勅令や地方命令に讓つて居るは是が大體禍の因だと思つて居る。私共初め案出した案には、空地だとか、家の高さと云ふやうなものは、是は地方長官などが彼是言ふべき筋合のものでない。法に書いて置かうぢやないかと云ふので、

法に書いて置いた所が、皆削られて、勅令、省令に讓られて仕舞つた。斯んな不都合千萬な法律は世界中何所にもない。所が其運用は非常に巧く行くかと云ふと、運用になると、地方の細則が法律以上の强さを以て出願に當つて來る。だから、日本の法律は非常に寬大だ、唯原則論だけを書いてあるやうに見えて、實際は法律以上の非常に細かい厄介なもので取扱はれて居るやうに思ふ。殊に地方細則に至つては殆ど知事の絶對命令で法律の方では何も考へて居らぬ所までもぴし〳〵やつて居る。現に大阪の如きは昔の木造建築に於ける寄席などの危險を想像して書いてあるやうなことを鐵筋コンクリートに適用せんとする傾向がある是は實に驚くべき思想の錯誤なんだ。是などは私共から考へて見ると どうも法の立前から變へて行かぬと、面倒だと思ふことも其の運用者が悪いからだと云ふ風にのみ考へる譯には行かない。唯驚くべきことは、地方長官に委任された可なり重大なものが澤山遺されて居る。それは何故かと云ふと、法律は原則だからであるが、勅令も地方長官に可なり大きな權利を讓つて居る。地方命令の細則に至つてはまるで地方長官が大審院の判決みたやうになつて居る。だから地方長官もなか〳〵辛いから、うつかり俺は斯う決めるんだと云つて、最後の判決はしない。だから朝日新聞社が初し百二十尺の建築をやつたが、あれを許した柴田知事はなか〳〵糞度胸を有つたものだと思ふ。勅令では百尺と書いてあるから、百尺として置けば、間違ないと云ふ消極的考から、成だけ內輪にやつて置けば、無事であると云ふやうな官史氣質、事勿れ主義で、建築をうまくやらしてやらうと云ふことよりも、自己が失態をせぬやう、批難の起らぬやうにする 是も已むを得ぬとは思ふが、法律にはつきり書いてあれば何も問題は無い。地方長官に委任してあるあの法律全體を通じて見ると、地方長官がなか〳〵絶大な權力を有つて居ると見られ、又見樣に依つては何もしないで可いと云ふやうにもなつて居る。是は事の輕重大小が非常にアンクリーヤネスの法律であつて、地方長官は絶大なる權力を揮はなければならぬやうになつて居るが、又揮はなくても可いと云ふ風になつて居るので、地方長官が其の權力を揮はぬと云ふと、技手などの考が法以上の力となつて現れて來る。是は强ち地方長官のみを責める譯にも行かぬし、當局者を責める譯にも行かぬと云ふ嫌ひが可なりある。法はさうであるが、況や此の法律勅令、規則を制定する際には、私等も參加して居つたのだが、今日の如き建築を想像せぬで作つたものであると云ふことは確に申上げることが出來る。エレヴェーターでも昔のやうな小さなものでなく今のやうに幅が十八尺長さが三十尺もあると云ふやうなものになると、造ることが出來ぬ、大阪でもさう云ふのが多少出來て來たが、東京邊りでは建築課長が四苦八苦である。さう云ふエレヴェーターを造ると云つても、それは勅令に觸れる、何か觸れぬやうに出來ぬかと云ふことで、非常に苦んで居られるけれども、實に滑稽千萬な狀態に在る、勅令を誠實に守つて仕事をしやうと思へば許されぬ、どうしやう、何れ勅令は改正になるのだから、マア〳〵と云ふので設計者も監督官も悪く言ふと勅令を無視した形である。善く言へばどうせ勅令に無理があるのだから改正されるに決つて居ると云ふアンダースタンドの下にやつて居ると云ふことになるのだが、其處に法律以上の大きな手加減があり、勅令を侵す手加減が行はれて居る是は私が考へるのに、恰度軌道法に依つて——どう云ふ名になつて居るか知らぬが、電車は八哩以上の速力は出せぬと云ふことになつて居つて、電車がサボタージュをやつて居るやうな速力でなければ許されぬ。所が現に從業員は殆ど皆十五哩も速力を出して、法に觸れるやうなことをして居るが、是は時代の要求がさうなつて居つて時代は其處まで進んで居るのに、法律の方が後れて居るので、法律が悪いのだから、電車の速力が速いと云ふて彼是苦情を言ふ人は一人も無い。偶々さう云ふことを言ふ人があつても、それは時代に後れて居ると云ふて顧られぬ。此の實例に徵しても、法律が古く、世の中の要求はそれ以上に進んで居ると云ふことは何等疑が無い。だから法律は當然改正さるべきで、

改正が遅れて居るのだと云ふ意味で、勅令違反が續々起つて居る。何等かの口實を以て勅令は斯んな風に見るのであると云ふやうな解釋を目つけるべく監督官が努力されて居るが、僕は其の苦慮を多とする。斯う云ふ狀態に在る、だから是は法律の改正が必要であるが更に根本に遡つて、法の立前を變へたらどうか、又建築監督官も法律を首め細則に至るまで時代に後れて居るのであるから、そんなものに拘らずに、寧ろ實際問題に就て解釋しやうと云ふ考でやられて私は些とも差支ないと思ふ。さう云ふ風にやられても、誰も不平を言はなければ告發もしない。何故ならば、時代は進歩して居る、法律が悪いと云ふ諒解がある。エレヴエーターの豪は六尺角と思うて居るのが抑も誤りである。又旗竿は上の太い所を一尺に制限すると云ふことは餘りに滑稽だ。何故にさう云ふものを許さぬかと云ふと其のキヤスト・シヤドウが光線を妨げて市民に衛生上の損害を與へると云ふのが法の根源である。所がタツタ一尺位の太さのものが投げたシヤドウがどれだけ光線を市民から奪ふかと考へると、滑稽である。だから、そこらは恐らく何尺以上は避雷針と看做して許して可い。手摺の上が太い、是は建築上斯うでなければならぬと云ふやうなことも言へるではないか、其の法律の基礎はキヤスト・シヤドウが光線を奪ふと云ふことから來て居るのであるが、其の根本を考へれば、其の法律を作つた時の考が既に千慮の一失で、どうせ眼を開けて見れば、改正しなければならぬものである　だから之を現代の要求に即してやると云ふことになれば、事が非常に簡單に運ぶ、構造物に就ても今葛野君が言はれたやうに輕重大小の區別なく、味噌も糞も一緒で、鯨も鰯も魚は魚だと云ふやうな考が可なりある。だから五百本で持つて居る柱も、僅か四本で持つて居るやうな柱も同じやうな考でやつて居る。即ちそれが破壞した場合、一本の柱で數百人の人が怪我をして、大災害を起すと云ふやうなものと、それが壞れてしまつても、物置の棚が曲つただけで濟む位のものと、同じ考でやつて居るやうな嫌ひがなきにしもあらずである。是は今のお話を咎めるのではないが、成るべく機械的にやらすと間違ひがないと云ふやうなお話があつたけれども、成るべく機械的にやらすと云ふのでなしに、寧ろ生きた考でやらすやうにする方が可いのではないか、又今の建築法では柱一本根太一本を皆檢査して許可すると云ふことが法の立前であるが、少し大きな建物になつたら、柱の種類だけでも、少くとも百五十種か二百種位ある。地下から八階までも行つたら、千種類もある、此の千種類の柱を皆適當に檢査すると云ふ必要は無い。又やらうたつて出來ない話である、だから主要部と云ふことが書いてある、所が小さい建築物は主要部と云ふものが殆ど無い。だから檢査をする必要が無いと云ふ風に解釋することも出來る。さう云ふ風に私は考へて居る。少し是は言ひ過ぎた話だがあなた(津田氏へ)を監督官と看做して話した譯ではない。唯同志として申上げたので、左樣御承知を願ひたい

津田　イエ御尤もなお話だと思ひます。唯實際仕事に當つて見ますと、確に今お話のやうに、八哩制限が時代の進歩に伴ふて居らぬ爲に、電車の方が先へひつぱつて行つて、速力を速める規定を生み出すやうな狀況になつたと云ふ事柄は確に建築物法の中にもありますネ。

片岡　實際立案者が想像して居らなかつたやうなことが實現して來て居るのだから、それを想像して居らない時の規則々々で欲めやうと云ふ所に無理がある。

津田　それも又都市の狀況に依りまして大阪のやうな所では特に考へて戴かなければならぬやうな問題で、他の都市では大して問題ではないやうなものもあります。さう云ふやうな問題に打つ突かりました時には一地方長官が法に規定してあるに拘らず、強ひて之をやれば必ず朝日新聞社の高さの問題のやうに、内務省からポンと一本受けるやうなことになります。

小川　あれはどうなつて居るのですか、規則は詰り百尺なら百尺と云ふ制限があつて、地方長官の權限内で加減が出來るのですか。

片岡　それは斯うだ、前に廣場があると云ふやうな特殊な場合には地方長官が之を加減する事が出

來ると云ふ絶對の權力を有つて居るから、百五十尺にも出來る。

小川 僕は建築家でないから、建築の話には全く緣が無いが、今の電車の速力の話だネ、あれは實に不思議だなア、日本の交通機關の速力と云ふものは、一時間になんぼ以上の速力を出しては可かぬと云ふことで、速い方は制限して居るけれども、遲い方は些とも制限してない、亞米利加あたりでは遲い方を制限して居る、實際軌道を走るのに、のろ〳〵うろついて居るやつが一番危い、速い方だけ止めて、遲い方を止めないと云ふやうな馬鹿なことはない。

津田 今日は交通課長も出る筈でありましたが、他にもう一つ止むを得ぬ會が突發いたしまして、尤も其の間の時間を割いて一部分でも此方へ出たらと云ふ話もありましたが、仕事がズツと滯つて居りまして、今に役所に殘つて仕事をやつて居るやうな譯で、能う出ませぬ、保安課長も同樣さう云ふことになつて居りまして、洵に申譯ありませぬ、此の交通問題はまだ〳〵論議すべき所があるのでありますが、前は八哩であつたのが今は規則が變つて、確か十五哩とかになつて居ります。

片岡 パーキングが許されたから、辻ものろく、ひどいやつはパーキングをして居るやうな面をして、お客を待つて居るのもある——津田さん、時間があるでせうから、此の都市行政の問題は是で一先づ打切りまして、他日更に他の機會を以て座談會を開くことに致します、有難うございました——それでは時間が參りましたから、一寸食事をしてから、又他の問題に移ります。

（休　憩）

片岡 これから斯ふ云ふ問題を考へて貰ひたいのです。强制的に防火地區の實現を期することが必要ではないかと云ふクエツションであります。今の防火地區と云ふものは、東京と横濱は地震の結果に依つて非常に徹底的に防火地區の設備が出來たが、大阪、京都其他はどうも防火地區其ものが甚だ不徹底で感心しないことになつて居りますが、是は都市計畫委員會で原案が出れば、修正して適當なものになるだらうと思ふが、唯今日一番不可思議に考へて居るのは防火地區內に建築をしやうと思へば、建築物法でちやんと燃えない家にするやうに法が命じて居るから宜い譯です。所が其地區內に於ける現在の家はどうかと言へば、是は何時迄も現在の儘で、燃えない家になるであらうか、詰り新しく家を造らうと思ふと此法に據つてやるけれども、是が全部新しい家になると云ふことは、其所有者の任意だから、大阪、京都の如き古い家は百年も二百年も經つて居る家がある位だから、是ではどうも百年經つても防火地區の實質を實現しないだらうと思ふ　是は建築物法にちやんと法規があつて、補償をすれば何時でも實現を命ずることが出來る樣になつて居る。併しながら是も中々出來ない話でお前の家を防火建築にせよ、補償してやると言つて、强制的にやることは出來ない、だから或地區を限つて是から是迄の間は今後五年間に防火建築をせよとか、是から是迄の間は今後十年間に防火建築をせよと云ふ何か明な强制法がなければ、折角都市計畫法に依つて防火地區が設定され、其處に絶對に大火がないのだと云ふ案が出來て居つても、辻も其の實が擧りさうにない、之を實現せしむる方法如何を云ふのが今殘つて居る問題である。

小川 今案が出來て居るのか、是から法律を變へなければ出來ないのか。

片岡 イヤ法律を變へなくても出來る。

小川 別に法律が出來なくては出來ぬのか。

片岡 防火地區內の家は現在既に建つて居る家でも燃えないものに之を改めなければならぬと云ふ風には云つてない、將來建つべき家に就て……

鳥井 さう云ふ風には出來て居らないのです、防火地區だけは、『防火地區內の建築は耐火構造にすべし』斯う云ふ風に出來て居る他のものですと、唯建築をする時には斯うしろと云ふやうに出來て居りますが。

片岡 だから運用が其處に行けるやうに書いてある、法の精神は强制出來ることを豫想して出來て居る。

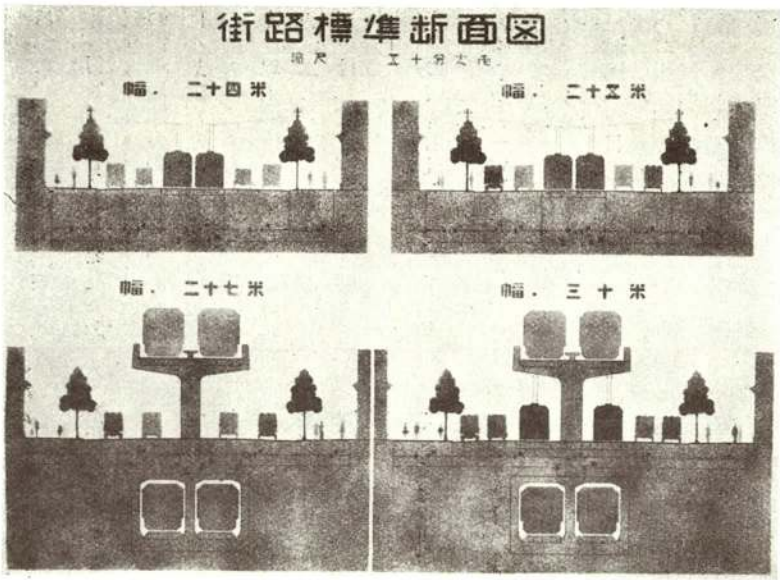
小川 僕は此の問題は一寸も調べて居ないが、要するに補償の問

題だな。

片岡　イヤさうではない。

小川　手加減と云ふことになつて居るので、法規の立て方が強制してやると云ふ處までは行つて居ないのだらう。

鳥井　イヤ斯うしろと、當然やらなければならぬやうに出來て居るのです。そして一方に補償する條件としては建築物の主要構造物の除却を命じた時には補償を出すと云ふ風に出來て居るのですが、實際それが運用されて居らぬ譯です。



大阪市街路標準斷面圖

小川　運用されて居らぬとすれば、是は行政權の發動を促すより仕方がない。

片岡　一體政府に誠意が無いのだ　地方長官は成べく政府にも好く、人民にも反感を懷かれぬやうにしやうと云ふ考が濃厚で、どうしたら之を現代化したる都市に出來るか如何なる方法でも出來るならば之をやつて見やうと云ふ誠意が無いことは確かだ　又此の問題を考究しやうともしない。

葛野　だから色々な面倒がある譯ですが、防火地區に從前からある家を修するとか、或は規則に合はない所を直すと云ふやうな時に何年以內には改築すると云ふやうな一札でも入れさして、成べく防火建築を促進すると云ふ風にしなければ、手緩いですなア。

小川　それだから矢張行政權の發動に俟たなければならぬ。けれども、法律がもう一步進んで、斯う云ふ防火地區內に在る家は何年以內に之を改造しなければならぬと云ふ規定を、或は單行法でも宜いから加へることにしなければ、私は實行出來ないだらうと思ふ。

片岡　今茲に條文を持つて居らぬが、確か第十三條ではそれが出來るやうになつて居る。是は左程手緩いものではないが、要は運用者の度胸如何ですネ。法第十三條に依つて內務大臣が其權能を有つて居る。

本間　確かあれは修繕の大變更の時などでも一筆書かせる譯ですな。

片岡　だから、それが恐いので成べく修繕に觸れないやうにする

本間　書かせても、除却を命じると云ふことにしなければ、何もしないやうですネ。

片岡　內務大臣に何とか防火地區と云ふものを都市計畫の案の如く完全なるものにしやうと云ふ誠意ある腹が無い。

小川　僕は誠意の有無に拘らず是非やらねばならぬやうな法律の規定を設けたら可いと思ふ。

鳥井　十三條でありますが『主務大臣ハ火災豫防上必要ト認ムルトキハ防火地區ヲ指定シ其ノ地區內ニ於ケル防火設備又ハ建築物ノ防火構造ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得』とある。

小川　其「得」がいかぬのだ。

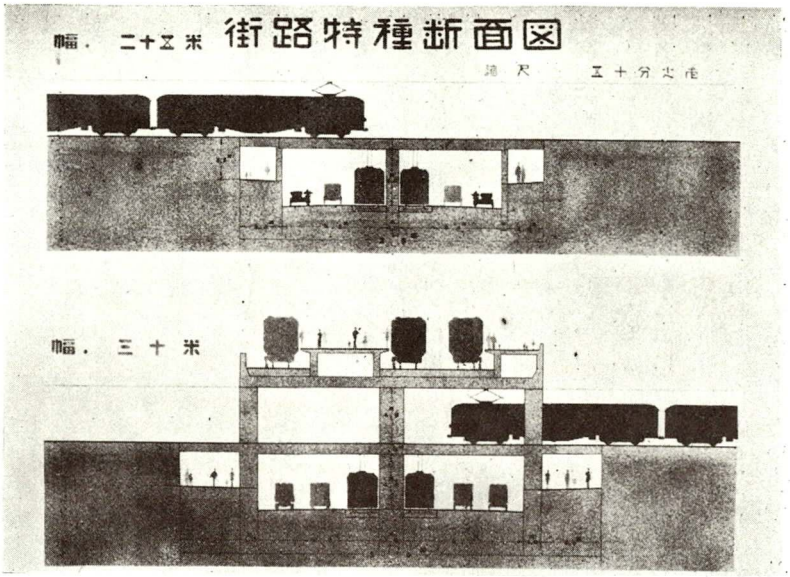
片岡　やつてもやらぬでも權能はある。

小川　『得』だから、誠意がなければ何時迄經つてもやらない。

片岡　けれども、建築物はさうはいかぬよ、權能を與へてあれば可い。

小川　僕は斯う云ふものに對しては之を何とすべしと云ふ所まで行かなくちやいかぬと思ふ。

片岡　さうなれば、內務大臣は馬鹿でも阿呆でも構はぬと云ふこ



（會覽展念記年周十畫計市都大阪）　圖面斷種特路街市阪大

てある。

小川　それはなんぼ權能を與へてあつても『何々することを得』では、何年經つても誠意が無くちや出來ない。

片岡　だから誠意を促さうと云ふのだがネ。防火地區と云ふのは唯横濱、東京の如きバラツクで出來て居る所は、其のバラツクの出來る時に、何年以後にはバラツクを除去しなければ可かぬと云ふことになつて居るから、防火地區を設定しなくてはならぬやうになつて居るが、舊都市では、古いのは元祿時分から改造せずにあつて、それを却つて喜んで居る所がある。又立派なものだと云つて皆それを禮讃して居ると云ふ譯で、何時までも改造せられぬと云ふ狀態だ。

小川　是は矢張り必要なる規定を設くることを得、じや下手にやると時機を失つて仕舞ふことになるからネ。

片岡　都市には此防火と云ふことが非常に必要になつて居りながら其防火地區と云ふものを制定して置いて、其實現は何時來るか分からぬ。

鳥井　其防火地區も大阪に於ては非常に少いです。

片岡　大阪の防火地區と云ふのは子供の小便のやうなもので問題にならない。

小川　けれども大阪で一番必要なことだ。

片岡　其の一番必要なことに對して大阪市民の自覺なきこと驚くべきものだ。

村野　それは市民に反對があるのですか？

片岡　反對ぢやない、聲が起つて來ないだけだ。

鳥井　それは斯う云ふことであつたのです。前の委員會のものを見ると、例へば廣道なら廣道の道路を擴げると、其の時に大概の者とになるが、日本の法の立前と云ふものは大臣が一番偉い者と云ふことになつて居る。それに委かして居るのだから……

小川　それは可かぬ。

片岡　可かぬと云ふと、日本の法律を皆變へなければならぬが、地方長官にもさう云ふ權能を與へは建築するだらうから、其の擴げる所へ指定して置いたら宜からうぢやないかと云ふやうな考で案を造つた譯ですな。さうした所が、市役所の方では、そいつは困る、建物は後へ引つ込まされる。其所へ防火建築をやると補償の費用が困る。斯んなことから市役所では非常に反對した。それで今後取擴げて行く所のものをすつかり削つて仕舞つて、原案の三分の一程になつて仕舞つた。

小川　それは家主に氣兼しての話でせう。家主に費用が掛かるからと云ふので……

鳥井　いや市役所が補償を餘計出さんならぬからです。

小川　だから、補償を出さなければ家主の反對を受けるから、それに氣兼して、當り前の定石から言ふと、此所迄やらなければならぬと云ふやつを段々約めて仕舞つて、小さいものにして仕舞つたのでせう。

鳥井　それで現在に於ては東京の防火地區の約九分の一です。

葛野　九分の一とは問題だネ。

小川　九分の一ですネ。

鳥井　九分の一です。それから

神戸と横濱は先づ同じですがネ、マア前の道路が擴がつたらやれと云ふやうな何もあるから、一つやりたいと思つて今原案を作つて居りますが、如何に緩漫なる方法に依らうとも、やつて行けばそれだけでも効力はあると思ひますが、先き片岡さんの言はれたやうに、其擴げたものを更に今度どういふ風にして促進して行くかと云ふ方法ですな。

小川　是は矢張り今片岡さんの言はれたやうに、聲を擧げるより仕方がないですな。

鳥井　そうです聲を擧げるより仕方がありませぬネ。

片岡　所で可怪しな話だが、總ての人は建築物の中で仕事をして居り、建築の改造、改善或は建築其ものに就ては恰度物を包むに風呂敷が要る如くに必要でありながら、餘り毎日建築に接して居る爲に、恰度空氣や水と同じやうに、神經が麻痺して何も考へない、だから矢張之を冷靜に扱ふ建築家が醫者の患者を扱ふ如く之を冷靜に扱ひ、大阪の建築家が之をリードして、聲を高め、注意を喚起して成程さうですか、御尤もですなア と云ふ所まで消極的に共鳴者を求めて、之を輿論とすると云ふことにならなければならぬと思ふ。我々は恰度醫者が患者を扱ふ如き立場に居るのだから、其の病氣の本體は我々が學理的、實際的に探究して、是が解決は我々建築家の團體が嚴正批判して之を叫ぶより仕方がないと思ふ。

小川　それから是は僕が一記者として云ふのだが、新聞記者の頭が建築についての智識が少ない。何とか建築に關しての智識を普及したいものである。

鳥井　さうでせうなア自分が造る資本を持つて居るやうな人が初めて考へる位なものですな。

小川　輿論を喚起する所の任に當る新聞記者で、建築、防火地區と云ふやうなことに對して理解を持つて居る人が甚だ少ない。從つて貴方々々專門家の人から其ことを聞いても、どうも感じが鈍い。鈍いからして、それを世間に向つて發表する氣にもならない、是が非常な缺點であると思ふ。

片岡　だから、僕は何かの機會にもう少し之を能く吹込んで行きたいと思ふ。是は小さいサークルで本當は建築專門家が寄つて相談して居るよりも、私が先程から淳々言ふやうに、ソサイテイか何かに機會を捉へて、其處に此の聲を擧げ、さうして熱を高めて、世間の人に分らせるやうに導いて行くことが一番必要ではないかと思ふ。

鳥井　さうですな、防火建築の必要と云ふことは無論ですが、今迄は費用が高かつた。木造が百圓する所は二百五十圓もすると云ふやうなことで、言ふ方も非常に言ひ難い狀態であつたのですが、現在は混凝土建築物が木造と相接近して來た。學校の如きはもう殆ど二割まで違はぬ、百圓以下で造ると云ふやうな狀態ですから、斯う云ふ機會に、まあ宜いと云ふことは皆知つて居るのですから、安く出來るのだ、大いにやるのだと云ふことを一つ宣傳して見たら可からうと云ふやうな考を持つて居りますが……

片岡　さうだ、要するに經濟問題が總てを動かす。所が之に對して建築する人々もまだ十分に理解がないが、我々の仲間にもさう云ふことを餘り考へない人が多いのだけれども段々之を研究して見ると、都の中心地帶では木造建築と云ふものよりも、絶對防火の家の方が五割、六割割安である。割安と云ふことは平方面積の價が割安と云ふのではないが、假に五百坪なら五百坪の土地を利用すると云ふ上に於てハイエスト・キヤパシテイは百尺よりないが、百尺あれば十階に使へる。土地はマア八割より使へないが、假にハンドレツト・パーセント使へるとすると十階なれば五百圓の土地が五十圓にしか當らぬ。建坪は二百五十圓か三百圓で出來る勘定だ。それを木造にしたならば三階にしか出來ぬ地下と共に四階になるとしても一階の地面代は百二十五圓を負擔しなければならぬ、其處へ二百圓の建築費が要かれば、三百二十五圓でマア大體同じだとしても、更に火災保險、償却、腐朽の修繕等色々なものを計算すると、木造の方の絶對價値が非常に少くなつて少くとも三割四割高くなつて來る。そんな馬鹿げたことをしないでも經濟上有利な途を採れば、自分の爲に可いばかりでない、都市全體が受ける利益も非常に大きい、火

事は自分の所まで燒けて來ても、其處で止つてしまふ、木造であれば、そんな譯には行かぬ 木造は火災を增進するものであるが、止めるものではない 鐵筋にすれば都市全體のメリットを非常に增して、自分自身の計算から云つても地代と建築費の總てに於ては大體何方も三百圓で、損得は無い、之を貸家とすれば、木造より高く貸すことが出來る。色々の利便が伴ふのに何故之をやらぬかと云ふやうな宣傳をして可からうと思ふ。

鳥井 先程小川さんの仰つたやうに何かさう云ふ協會のやうなものを造つて、やるのですなア。例へば消防協會だとか或は交通協會だとか、さう云ふ種類の、隨分可怪しなものだと思ふやうなものもある位に色々の協會が出來て來たのですから、一面にはさう云ふ協會を造つて段々擴めて行くやうにしたらどうでせう。

小川 あなた(片岡氏)の所で出來ないかな、あの工業會が中心になつてやると云ふことでも可いだらう。さう澤山な人を集めることは出來ないが、何か中心がなければならぬから……

片岡 それは此の日本建築協會でも可いのです。

小川 僕等が考へると、建築專門家たる人で防火地區と云ふものは何であるかと云ふことさへ能く分つて居ない人があるのではないか。第一僕等も生つ噛りに聞いて居るだけで、詳しいことは知らないが、防火地區と云ふものは何であるかと云ふことさへも普通の人は分からぬ人が多い、第一それから頭に入れて行かなければならぬ

片岡 實は多少やつて居るのだがネ。

小川 所が防火地區と云ふことに對しては頭がないよ 防火地區と云ふものは何であるかと云ふことを聞かれたら、專門の人は知つて居るが、大抵は知らない。

片岡 まあ講演會をやるとか、放送をするとかするのだネ。

小川 講演會と云つてもなかなかやつて來やしない、防火地區とか都市計畫と云ふやうな硬い話では人が集り悪くい。だから、小さいパーテイーで誰か集つた時に、防火地區と云ふものを解らせるやうにするのだ。どうして解らせるかと云ふと僕ゝ今腹案は有つて居ないがネ、第一新聞記者なんかでも失禮な話だけれども、防火地區と云ふものが解つて居る人は何程も無い。

片岡 新聞と云ふものはパブリシテイと云ふ、世の中に弘めると云ふことに就ては非常に大きな松明だけれども、是は無智な者を其の松明で照すと云ふことをしないで、世人が皆歡迎して居る所の提燈を集めて大提燈として引つ張ると云ふに過ぎないネ。

小川 一體日本人と云ふものはサイエンスとかテクニツクとか云ふ方面の頭が全く缺如して居る。西洋では新聞記者でもそれ〳〵のエツキスパートが居りますが、日本ではさう云ふ方面が非常に缺けて居る。

片岡 さうなると、根本論は新聞記者攻擊論になるネ。

小川 僕は敢て迎合する譯ではないけれども、僕等のやつて來た經路から考へて、それなんだ。

片岡 それはさうとして 根本論を言つても仕樣がないから、今の現狀に於てどうしたら可いかと云ふことだ。小川君から新聞記者教育論が出たけれども 僕は豫てから小川君其の他を通じて新聞に色々なことを書いても貰ふが、新聞に斯う云ふことを書いて貰ひたい、斯う云ふことは斯うしたらどうかと申し込んだ場合、最高幹部の意見はどうかと云ふと、際物でないと可かぬ、減俸問題の起つて居る時に減俸問題に關する意見なら直ぐ書く。或は朝鮮滿洲の問題が今起つて居るが、それに就ての對策と云ふやうなものなら大に書いて呉れるけれども、兎に角地味な都市を段々良くするには斯う云ふ思想から必要だと云ふやうな、科學雜誌が基礎として居るやうな材料を持つて行つても、そんなことは困るネ。さう云ふ太皷は打てぬぜと云ふことになる。

小川 所が今は幾らか變りつゝある、此の間も紐育タイムスに建築だけのセクションを設けてアパートメントの狀況だとか云ふやうなものを集めて出して居つたし、倫敦タイムスでも矢張り建築の方のエツキスパートが居つて、さう云ふものを出して居る。

葛野 日本の新聞でさう云ふ方面に就て時々特別號でも出して貰ふと云ふことになつたら可いネ。

小川　それは今片岡さんの言ふ通りなか〳〵出來ぬ。

片岡　僕も屢々勸誘を受けたことがあるが、大林とか竹中とか方々へ行つて、廣告料を集めて、ビルデイング・セクションと云ふものを出すが、あれは建築と云ふ目を通して社會を改良しやうと云ふのでなくして、唯廣告を一擧に集める爲にやるので、其のビルデイング・セクションの隅の方に竹中や大林の廣告がある。斯う云ふ紙面を犧牲にして廣告を取らうと云ふやうなことはやるが、新聞記者を口説めしめ、それに依つて社會を開發しやうと云ふやうな材料を持つて行つても、それは御免だと來る。

鳥井　秋頃でも可いから、さう云ふ宣傳をやりたいものですな。

小川　どうです、リーフレートを出しては……

片岡　それも一つの方法だが、僕は斯う云ふことを考へて居る。大都市と云ふものは中々厄介なもので、我々の意見が通り難い。だから先づ手頃の所から大いに我々の意見の徹底するやうに其の方へ運動を試みたらどうかと思ふ。それには矢張り建築協會が主體になつて、建築協會のやる事業の最大なもの〳〵一つなのだから、防火建築の促進運動をやるのだ。それで火災に最も惱んで居るのは、福井富山、新潟、米澤、山形等裏日本の諸都市及函館、札幌、岩見澤、小樽、斯う云ふやうな日本海に面した都市が非常に惱んで居る。北海道の如きは市自身も迚も宣傳して居る。だから夏季を利用して茲に一つ團體を組織して　社會奉仕的に火災に關するフイルム、或は統計とか、出來るならば一寸した陳列寫眞などを持つて行つて、さうして火災の恐るべきことを示し又其市の當事者とか、知事と云ふやうなものに講演して貰つて、有識階級の者に皆出て貰ふと云ふ風な講演行脚を試みやうと云ふやうなことを考へて、協會の方の人にも二三話して、それは可からう、お互に犧牲を拂はうと云ふことになつて居る。

鳥井　此の宣傳は一遍にぱつとやるだけでは可けませぬネ。結核豫防と云ふやうな式で、年々日でも定めてやらなければならぬですなア。

葛野　大體日本の國民性が、何千年來木造建築に住んで居て、家は燒けるものだとして、燒けた場合の消防の方には非常に力を入れるが、根本的に燒けない家を造ると云ふやうなことには一般に力が入らぬ。無論經濟上の關係もあるだらうが、家の燒けるのは恰度人が死ぬのと同じ位に考へて居る。だから少々損害が何うだ斯うだと云つても、さう感じないのだなアが死ぬのと同じ位に考へて居る。

小川　此の前新潟に火事のあつた時はひどかつたネ。

片岡　さうだ、あの時はひどかつたね、日本海岸の方は年中燒けて居るなア。

鳥井　今年はも少しひどかつたですネ。

片岡　日本海岸の都市が發展しない原因の一つは火災だね。函館の如き、僕が七八年前に行つた時は、大火災の二十年紀念とか云ふので、防火の大宣傳をやつて居つたが、其の晩火事をやつた、其の時の新聞記事を見ると、函館が過去二十年間に受けた火災の損害は何でも六千萬圓とか七千萬圓とか書いてあつた。是はどうして計算したか知らぬが、結局函館市民が商賣其の他で二十年間汗水垂して稼ぎ出したプロフイツトと火災の損害とが同じことであつて、市民は唯かつ〳〵生きて來ただけと云ふことになる。

小川　是は建築直接のことでないが、僕が倫敦で火事だと云ふので、早速飛込んで行つて見ると、彼方の消防の方法は三隊に分れて居て、一つは火を消すやつ、一つは建物が一般に高いから、梯子で人を救ふやつ、もう一つは保險會社が連絡を取つて居て、トラツクを持つて行つて荷物を運び出すやつだ。だから家の者は遠卷きにした儘で唯ぢつと見て居て　何にも手を着けない。僕は日本に居る時と同じやうな野次馬氣分で飛込んで行つて、巡査に度々叱られたが遣方は日本と全然違ふ。消す方は市が保險會社と連絡を取つてやつて居る。即ち市は保險會社にコントリビユシヨンを命じて、保險會社から金を出さして居る。で、僕は建築と消防と云ふやうなものは將來必ず保險會社と手を握つて歩かなければならぬものだらうと思ふ（さうなるなア）。だから今片岡さんが言はれるやうに、保險會

社としても市なら市、消防組なら消防組と連絡を取つて、さう云ふ場合に荷物を運び出すと云ふやうになれば、どうせ日本人の野次馬氣分と云ふものは止むまいけれども、慌てゝ自から荷物を運び出す必要もなし、泥棒の虞もないと思ふ。故に是も保險や消防、市の方と連絡を取つてやると可い　さう云ふ意味からして、皆さんが今度講演に行かれても、さう云ふ方面に一般の注意を向けるやうにして貰ひたいものだと思ふ。

片岡　僕は火災保險業者には屢々注意したことがある。所が日本の火災保險業と云ふものは甚だサイエンステイツクでない。極く散漫なる計算から來て居る危險分散主義で、危險があれば、其の危險を出來るだけ廣く散して行つたら可からうと云ふ極めて概算的な考を有つて居る、日本のやうな危險な家で、假に大阪が大火に罹かつたら君はどうする。船場で六千萬圓、此方で何千萬圓と云ふ金を出さねばならぬやうになるが、能く斯んな危險なことをやつて居るなアと言つたら、それは方々に分けてあるから、假令六千萬圓の所が燃えても、他の所は其の千分の一もないのだと言つて居たが、危險を色々な會社で分擔して居る。

小川　防火地區と云ふものを嚴重にやつて置けば、保險會社としても非常に利益だネ。

片岡　それは科學的に見れば、防火地區が段々完成すれば、防火地區に在るものに保險を付けるのと、從來の儘の所に在るものに保險を付ける者と、保險する方に於ても其の確實さの度が全然違ふ。所が火災保險業者を徒に非難する意味ではないが、唯危險分散主義で簡單に經營をして居て、其處に何も基礎的に考へて居ないので、是は問題にならぬ。だから我々は火災保險業者は相手にせぬ。

鳥井　保險會社は寧ろ時々燒けて貰ふ方が所謂得意の殖える方法らしいですな。此の頃能くある保險魔と云ふやつが宣傳になつて、其の周りのものが直ぐ入ると云ふやうな譯でネ。

片岡　それはロングランのことを考へないからで、大火と云ふものは三年に一遍、或は五年に一遍時に依ると、三十年に一遍位しか來ないこともあるが、來たが最後ぎやふんと參つてしまふ。保險會社の株券も一遍に下る。重役なんと云ふものは割方譯の分らない人が多いので、さう云ふことを考へない、譯の分つた者があつても、それはサラリーマンだと云ふことになる。

小川　さうなつて來れば、防火地區も何もあつたものではない。

片岡　だから保險會社とは一緒になれぬなア。

鳥井　前に私の所へ保險會社から聽いて來たことがあつた。協會では何か防火率の程度を研究して居られるさうだが、是だけの建物の種類に防火的の順位を付けて呉れと云ふのであつて、それを見ると迚もお話にならぬ。普通の木造もあれば、泥を一寸ばかり塗つたのもあつて、其の防火の程度がどうだとか、鐵筋コンクリートは何うだとか、三寸泥を塗れば何うだとか、怪しげなものを七十種ばかり列べてあつて、之に防火の順位を付けると云ふ譯ですが、そんなものに對して順位を付けることも何も出來やしませぬ、第一全然防火能力の無いものもあると云ふ譯です。

葛野　それ程頭の低いものかネ。

小川　單純なる現在主義なんだネ。

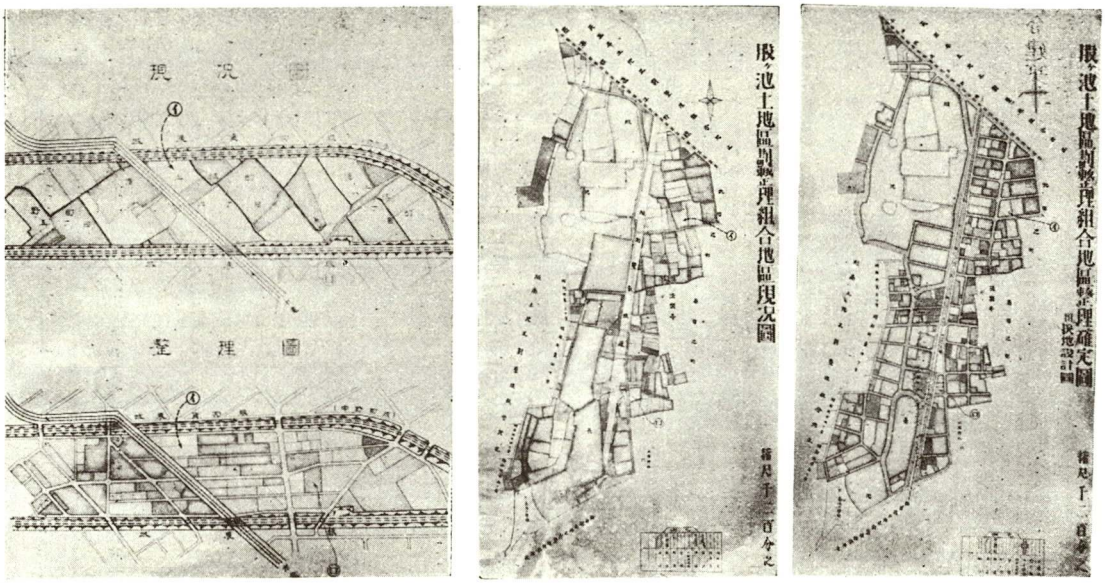
鳥井　是でもない、あれでもないと、唯保險率の駈引に使ふやうなものですなア。

葛野　加入者は又保險だけ付けて置けば、あとは火事があつても構はないと云ふやうなものですなア。

小川　僕の近所には保險を付けない家主が大分居ります。是はどう云ふ考か知らぬけれども、一時に金を拂ふと云ふことは詰らぬ。借家は貸して置いたら二、三年で元利金は回收すると云ふ積りらしい。それで僕は動產に保險を付けて居るけれども、僕の家主などは僕の家に保險を付けて居ない。

片岡　防火地區の問題は先づ此位にして置いて、今度は次の様な御意見を伺つて置きたいのだが、大阪で言へば幹線道路の開鑿が段々出來つゝあるし、廣道の如きは大體出來たが、之に面する建築敷地の造成と云ふか、整理と云ふか是は全然手を着けて居らぬが、併し是は實に重大問題だと思ふ。

小川　敷地よりは僕等素人が見



大阪の土地區劃整理現況（都島・股ヶ池各土地區劃整理組合設計圖）

て寧ろ道幅を擴げて綺麗になつた所で、兩側に立つた家を見ると云ふと、丸で道路と釣合はない。今迄奥行が相當にあつたやつが薄つぺらな煎餅見たやうなものになつた。何の爲に斯んなものが出來たかと云ふと資力がないから出來ないのだらうが、是は矢張り法律で以て信託か何かの制度を設け、其處に資本を一緒に集めて、一定の道に相應しい家を建てることが一番必要ではないかと思ふ。

片岡　所が其の元が君は分つて居らぬ。其の家を建てる敷地が出來て居ない。奥が四角で表口が三角になつて居たり、蒲鉾の切れつ端みたやうなものでは迚も問題にならない。是では家が出來ない。敷地が無いのに家を造れと云つても無理だ。

小川　だから、それは建築敷地の造成と資金の融通と兩面から行かなければならぬと思ふ。

片岡　資金とは關係は無い。

小川　僕は大に資金と關係があると思ふ。幾ら敷地を與へた所が家を建てる資金の無い奴には大きな家を建てることが出來ない。

片岡　僕が君の説に非常に誤りがあると思ふのは、自分が父祖傳來の地面を永久に手放しては可かぬと云ふ規則も無ければ、自分のものを他に賣つて、他の敷地を買ふと云ふことも出來るし、有力な人が其處を買つて家を建てたのを借りると云ふことも出來る　是は自由であつて、資金の問頭ではない。

小川　それは自由であるけれども、賣つた所が、個人の敷地としては、そんな大きな道路に相應しいやうな建築物を建てることは無い。

片岡　無いと斷定することは出來ないのだがネ。

鳥井　大體ありませぬなあ、自分の必要な位ならあるか知れませぬが……

小川　だから、是は信託か何かで以て資本を集めるのだ。建築敷地と云ふものは、是は無論必要なことであるが、それと同時に資本を集めて家を造らせる方法を講じてやらなければ可かぬ、之に對する日本の法律は無いのだ。

片岡　法律は無いネ。

小川　だから法律で以て拵えられるやうにしてやらなくちやならぬ。

片岡　それも大分行き過ぎた話で、出來れば、結構だが僕は敷地が造成出來たら、建築する者は澤山あると思ふ。

鳥井　さう云ふ人もありますネ

片岡　それは隨分澤山あるが、あつても、敷地が足らない。僕等の知つて居る範圍でも、廣道の敷

地を三つ四つ纏めると、漸く一つの建築敷地になるのがあつて、それを纏めやうと思ふても、迚も骨が折れて纏らぬ。大體日本では建築敷地を有つて居ると云ふても實際は金を借りて有つて居るのがあつて、而も蒲鉾の切れつ端みたやうなものばかりで、何の爲に有つて居るのかと云ふと、今に是が十萬圓に賣れるとか二十萬圓に賣れるとか云ふ考で、變挺な地面を唯ちつと有つて居つて、其の敷地を建築に使用せざるものがある。是は都市計畫法ですでに規定が出來て居つて、敷地造成に必要なものは公共團體が買收して、之を適當に第三者に賣ることが出來ると云ふことになつて居る。所が市は道路さへ造れば、後はどうにかなるだらうと云ふので、之に手を觸れない。所有者同志の妥協に委かして置くが、是が小さい間口十米奥行二十米と云ふやうな地面を有つて居つて、之を誰か高價に賣付けやうと思つて自分で家を建てる意志の無い者が大部分なんだ。

小川　其の點も御尤もだが、假令建築敷地を造成してやつても、僕は其道に相應はしいやうな家を建てるには、金融關係を巧く纏めてやらなければ、出來ぬと思ふ。即ち兩面から行く必要があるだらうと思ふ。

片岡　併し先づ敷地が原則だよ金が幾ら出來ても、蒲鉾の切れつ端のやうな所では家が建てられぬ金融は第二義だ、第一義は敷地だよ。

小川　僕は是が第一、第二と云ふより、敷地が出來、金があり、兩々相俟つて行かなければならぬと思ふ。

片岡　それは一寸話が違ふだらうと思ふがネ。實際問題から言ふと、あの日本生命が廣道にあるがどうも奥行が二間半で、間口が一間半では狹いから、裏の者が賣らぬかと思つて交涉したが、中々賣らぬ。それでは自分が家を造るのかと思ふと中々造らない。詰りまだ高くなるかと思つて有つて居るのでどの位交涉しても巧く行かぬそれから瓦斯會社があの地面を得る爲にどれ位苦勞したか朝日新聞の力で漸く得たのだ。朝日新聞があの敷地が欲しい爲に全力を注いでやつと纏めた。あの敷地はどうかと云ふと、廣道に對して居る關係上フレンテスが小さい。もつとフレンテスが欲しいのだが、どうしてもうまくいかぬ。さう云ふ例は澤山ある　是は都市計畫者がやれば法の權能で行けるが、個人の所有者の自由に委してあるから日本の個人の所有者と云ふものが唯何とかして高く賣付けてやらうと云ふことばかり考へて居るので何年經つても纏らぬ。買ふ方は少々高くても買ふけれども、甲乙丙丁と云ふ四人のものを纏めれば、一つのブロツクになると云ふ場合甲は承知しても乙は承知せぬ。又甲乙は承知しても丙丁がどうしても承知しない。是が假に甲乙丙は承知して、最後に丁だけが殘つたとして、これが一坪一萬圓と吹きかけると云ふやうな惡習があるから、小川君なんかは金が出來たら纏ると考へて居るやうだけれどもなか〳〵纏りはせぬ。從つて家を造らうと思つても、なか〳〵うまく行かぬ。

小川　さうぢやない、建築敷地の方は勿論それで行くのだが、建築敷地ばかり出來た所が、偖て相應な建築を造らうと云ふのには、資金を拵えてやることが必要だから、兩方から行かなくちやならぬと思ふ。

片岡　家と云ふものは近頃非常に合理的になつて來て延坪で三千坪の家を造つて、相當なコンパニーがそれを使用すると云ふことになれば、自分に借家をして居るのと同じだけの家賃でやつて、其他のものをコントロールして行けばちやんと算盤が持てると云ふ時代になつて來た。

小川　だが一般の者は中々其所迄行つて呉やしない。

鳥井　それから大阪では大きな事務所が散在して居るから、事務所を建てゝもどうにも借手がない東京なら丸の内邊へ建てさへすれば、彼所へ行かなければ商賣が出來ぬと云ふやうな情勢になつて居りますから、借手が大分あるらしいが、大阪ではそれを心配して居るやうですな。

片岡　それもあるが、僕の言ふて居る敷地が無いと云ふことが第一の惱みだ。例へば廣道で延坪三千坪位の纏つた家を造らうと思つてもどうしても敷地が無い。僕等の知つて居る會社で、平野町から梅田までの間でどうかして家を建

てたいと思うて居るが、どうしても無い。

藤井　大阪では兎に角敷地ですな、一番困る問題は……

小川　僕が資金を纏めなければならぬと云ふことを痛切に考へたのは御堂筋の下駄の問屋だ。あれは昔から彼處に居つたので、彼處に居りたいのだが、彼處の取拂ひで何程かの金は貰つたけれども、家を建てる資力が無い。そこで何處かへ退散してしまつた。あれは信託か何かで以て金を集めて、一つの大きな建物を造つてやつたならば、問屋であるから、店を出す必要はないので、一つのビルディングの中に何軒も店を持つて居つても、やつて行けるだらう、さうすれば、彼處に昔の問屋がちやんと遺つて行く譯だ。是なんかは私の最も痛切に感じた實例である。然るに日本には之に對して法律が無い。僕は一寸地所の方を閑却して居つたが、建築敷地の方と同時に、さう云ふやうな方法も一つ講じてやる必要があると思ふ。

片岡　それは出來ます。住友信託の或る首腦部の人は信託の資金をビルデイングに投じたいと思ふが、一つ考へて呉れぬか、さう云ふ希望者があつたら推薦して呉れぬかと云ふことを始終頼まれて居るけれども、良い所に敷地がない。

藤井　敷地が得られないと云ふのは何所の都市でもですが、殊に大阪では値段が餘り速く騰り過ぎて居ますから……

片岡　値段が上り過ぎて居る以外に、買はうと思ふと、足許を附込んで、無暴な高い値段を言ふので、どうにもならぬと云ふことになる。ビルデイングに一番適當な所はマーケツト・センターだ。さうでなければビルデイングは成立して行かぬ。マーケツト・センターでも建築費は同じことで、違ふのは地價だが、十階なら十分の一にしか當らない。そこで獨りに雜貨店、カツフエ、飲食店と云ふやうなものなら借家賃は一坪二十圓でも可い。それがオフイスならば十圓位で、半額になつてしまふ。だからメーン・ストリートの一番目覺ましい所がビルデイングに最も適當な所であるが、其處に敷地が無いと云ふのが大阪の一番の惱みである。

小川　東京の日比谷公園の中に造つた市政會舘はオフイスに貸して、市政調査會が費用を賄つて居るが、彼處はオフイス・ビルデイングには不適當だ、三菱村なら近所に何處のオイフスでもあるが、日比谷と云ふと一寸離れて居り、殊に此の頃の不景氣だから、借手が無いので、東京市政調査會の方では非常に經營難に陷つて居ると云ふことだ。

片岡　あれはマーケツト・センターでなく、アウト・オブ・センターだから、アウト・オブ・センターに借家を造ると云ふことが初から出發點を誤つて居る。大阪の惱みは敷地で、東京の惱みは適當な土地は何處にあるかと云ふことを見出すことだが、是は割合に樂ですよ。

鳥井　中々巧く行きませぬな。

片岡　先刻鳥井君の言はれたのは過去の東京で、今はビルデイングの部屋が空くので、迚も憐れなものだ。秋風寂寞たるものですネ。

小川　三菱村だけは相當にあるでせう。

片岡　表面はさうだがネ。丸ビルでも郵船ビルでも相當に弱つて居る。是は不景氣の爲で止むを得ない。貿易商が廢めたとか、歸護士が其所に居つた方が宜いのだけれども、家賃の關係上、廉い裏町の方に行くと云ふやうな譯で、其所を悪いとは思はないけれども、結局財政不如意の爲に居れぬのだネ、是は一時の現象でせうけれども……

鳥井　どうも大阪でも今仰つしやつたやうに、お互に裏と表で頑張り合つて居るらしいのですが、どうも裏に狹い地所を有つて居る人が其の前の人の有つて居る切られた高い地所の爲に難儀をして居ると云ふことを能く聞きますが、さうらしいですな。

片岡　さうです、今に是が十萬圓に賣れる、二十萬圓に賣れると云ふ積りで有つて居るのです。

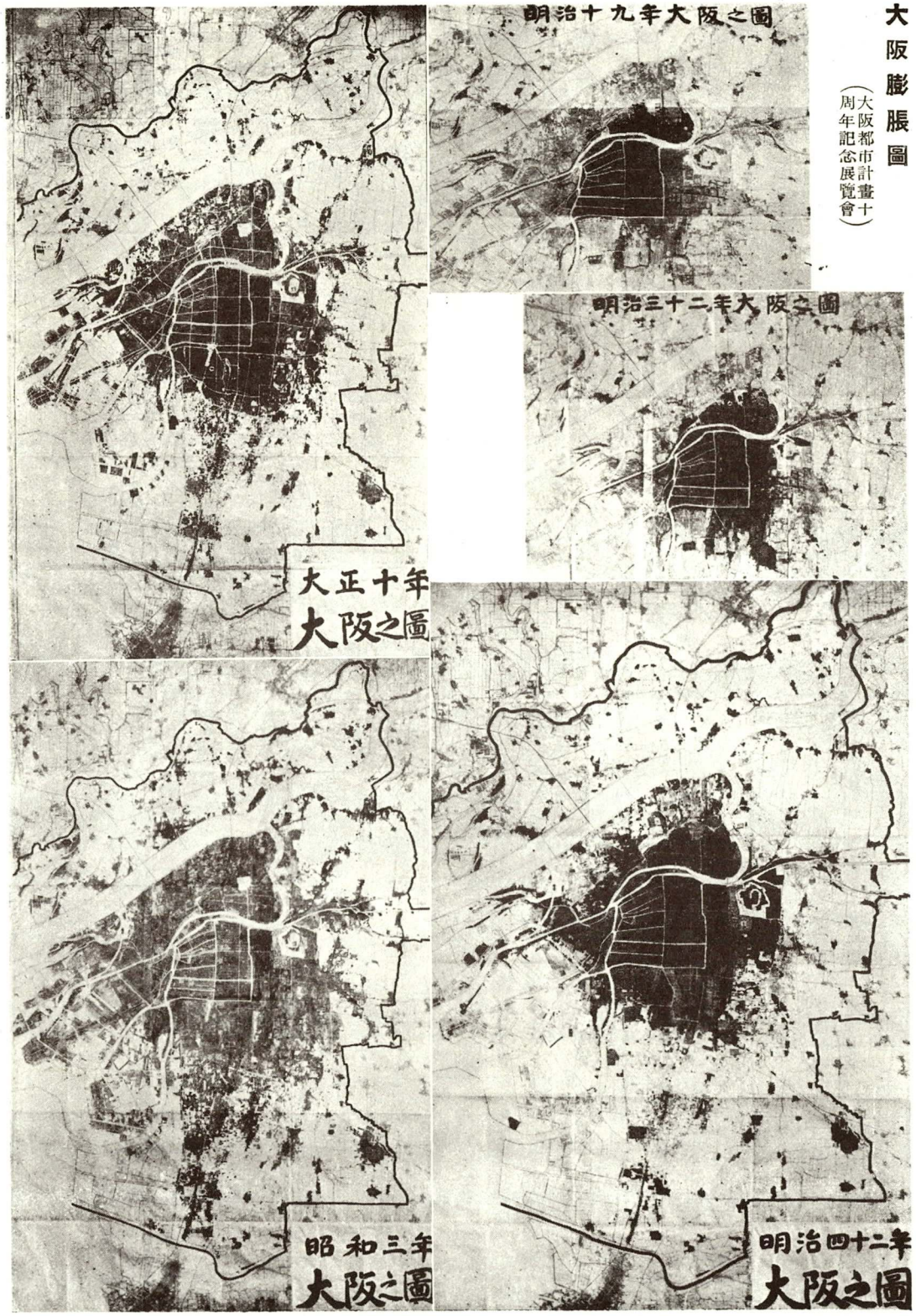
小川　東京の市役所で土地の賣買價格と賃貸價格を調べたものが二三日前に來たが、賣買されたものに就て見ると隨分下つて居りますネ、兎に角是は市役所で調べたのだから、間違ひないだらうと思ふが……

片岡　市役所でも中々分からぬネ。

小川　所が東京市と云ふ所は、

大阪膨脹圖

（大阪都市計畫十周年記念展覽會）



仕事はしないけれども調査だけは中々やつて居る。

片岡　歩一税を徴られるから、實買は皆秘密にして居る。五十萬圓も買ふと迚も大きい金を取られるから、その何分の一にしてやつて居る様な話も聞かぬでもない。

小川　詳しいものを見ないけれども、大分下つて居るらしい。

片岡　東京で非常に不都合なことは、土地が千圓すると、地上權が二千圓する。地上權の方が倍だ。

小川　大阪でも地上權で儲けて居る者が非常に多い。併し土地のことから言ふと、日本の土地の課税程亂暴なものはないなア。實際今日本全國を通じて賃貸價格を調べたのだが、今まで税を徴つて居る法定地價と云ふものは日本全國を通じて百圓以上の土地は東京の三越のバンクブロックだけである大阪では八十圓以上の土地はない今の北濱の取引所の地所は三十三圓何がしで、それを基にして百分の二・五と云ふ税を課けて居る。此の百分の二・五と云ふのは紐育よりも率としては高いが、此の土臺の法定地價と云ふものは實買の地價若くは賃貸價格を標準にするものに比べれば非常な違ひだ。僅かしか税を課けてない。だから地所を有つて居て懐手して遊んで居る連中が多い。地主と云ふものは實に何と云ふか、不當利得の最も甚しいものだ。斯んなことは改めなければならぬ　だからして日本の税と云ふものは我々のやうな貧乏人の所得税や營業收益税は年々非常な勢で上つて行くに拘らず、地租と云ふものは殆ど居据りの狀態で、明治四十年以來市街地の税は改めて居らなかつた。斯う云ふものにもつと税を課けて行かなくちや嘘だと思ふ。是は何も建築の方に關係はないけれども……

鳥井　大に關係があります。

村野　私は此の間一寸小川さんの著書を讀みましたが、建物の高さと地價とが大に關係があると云ふことに就て、地價が高いから建物が高くなると云ふ説と、建物が高くなるから地價が高くなると云ふ説と色々複雜して居るやうですネ。

小川　詰り地價が高いから高い建物を建てる。又建物の高いのを建てるから、地價が高くなる、どつちが原因か結果か知らぬが、兩方だと思つて居る。

村野　建物が高いから地價が上ると云ふことは、購買力の關係ですな。詰り兩方から來るのですな。

小川　一方から云ふと、地價が高いからして、高い建築物を建てなければ、其の土地の利用が出來ませぬからネ。

村野　所が日本では建物の方は百尺と止つて居りますネ。

小川　さつき片岡さんの話もあつたのだが、光線の工合とか何とか云ふことで制限して居るのでせう。

村野　あれを亞米利加のやうにセツトバツクで制限したら非常に經濟的で、合理的なものになりはしないでせうか。

小川　セツトバツクにすれば路面を廣くしなければ可かぬと思ひます。

片岡　セツトバツクと云ふ説が出たが、キヤスト・シヤドーと云ふものは恰度太陽が四十五度に來た時はセツトバツクで光線を妨げないけれども、午後三時以後であると、セツトバツクしても矢張りキヤスト・シヤドーを投げるから、セツトバツクしても仕方がない。極端に云へば、午前の早い時分、午後の三時以後と云ふ時分にはセツトバツクしてもしなくても同じことだから、頭をちよん切らなければ可かぬと云ふのであゝ云ふ風になつた譯だ。だがら一寸した氣分で言ふと、或は建築線に三分の一か四分の一臨んで居るのは、セツトバツクでも、セツトバツクでなくても可いのぢやないかと云ふ兩説が成立つ譯だ

村野　亞米利加でセツトバツクしたと云ふのは矢張り空氣とか光線の關係ですネ。

片岡　セツトバツクする理想から云ふと、横路が絶對無いものならセツトバツクしたらセツトバツクしたやうになるけれども、家と云ふものはさう萬里の長城のやうに行くものではない。ピラミツトのやうなもでもあるから　セツトバツクなら上の方に大なきマツスを生じないと云ふのと、極端に云へば、見た目もそんなに不愉快でないと云ふ兩方から來て居る。所が頭をちよん切つたのは太陽の西に傾く時まで心配し過ぎて居るのだから、セツトバツクは、無限で可しい。無限と云ふても奥行が五

十間百間と云ふ家はないから、セツトバツクなら大體何處まで行つても可いと云ふことになる。

村野 さうすれば所有權と云ふものは頭を抑へられてなくて可い

片岡 もう一つ百尺にしやうと云ふことに皆が期せずしてパツト一致したのは、即ち日本は地震國で、高い物は震動に依るモーメンタムが大きいから、柱を太くしなければならぬ、所が餘りに柱が太くなると、經濟上から云つても構造上から云つても面白くないことになる。先づ百尺位の所が適當だと云ふので、期せずして皆一致したと云ふ譯なんだ。

藤井 其の理由の方が大きかつたのでないですか。

小川 詰り地震から來て居るのだな。

片岡 さうだ餘り論議せずにパツト一致したのは其處から來て居る。

村野 所が先程八哩スピードの話と同じやうに構造力の發達して來た時代にはそれはどうでせうかネ

片岡 それなんだ、家を成べく立派にして市街を美しくしやうと云ふ考が起り、柱が非常に太くなつて、面積に損をしても、それは犧牲にして可いと云ふ考の人が出來て來たら、それは百五十尺にしても可い譯だ。

村野 今のやうに百尺でカツトされて、地價は無暗に上ると云ふことになつては非常に不合理なやうに存じます。實際私共のやうにデパートに關係して居りますと、面積は一坪でも大きいことが望ましい。所が假りに百坪なら二十坪二百坪なら四十坪、千坪に對しては二百坪寢かさなくちやならぬとなると、地價で見積れば、百萬圓の金でありますが、それをどう云ふ方面で償つて來るかと云ふと、實際上に延びるか、下に延びるより仕方がない。それを抑へて置くと云ふことは非常に不合理であつて、餘りに變なものでないかと思ひます。

片岡 地震と云ふことで期せずして一致したので、殆ど議論の餘地はなかつた。

小川 高さを何程制限しても、ファウンデーションが弱ければ駄目だらう。

片岡 底だけ強くすれば可いのだから、高さを制限しなくとも可いのだが、高いものはキヤスト・シヤドーを投げるから可かぬ。容積を大きくするから可かぬと云ふて例のエレヴエーターでも六尺角位のものを想像して居つたものが、此の頃のやうに大きいものが出て來るやうになつては、何うにも斯うにもならぬことになる。

村野 さう云ふやうに、サイエンスが發達して來ると、段々規則ヂ云ふものが窮屈なものになつて困つたものだと思ひます。

鳥井 先程お話のやうに美觀の關係もありますから、周圍に大きな道路があるとか、廣場に臨んで居るとか、さう云ふものは或限度を設けて百尺以上にしても可いですなア。

片岡 大阪で云へば、廣道のやうな所は大體百二十尺位になつても實際構はないネ。

藤井 それよりか敷地内の空地の利用問題に觸れて行つた方が順序のやうですなア。

片岡 廣道のやうに光線、空氣が十分に來る二十四間の大きな道路がある以上、其の敷地内に空地を置くと云ふのは愚なことだ。

鳥井 それは云ふて居らぬやうですな、コーナーのやうな所ですな。

片岡 それで可かぬよ迚も嚴重な規定があつて、グラウンドフロアーは全部使つて可しい。コーナーの所だけは表と横道の幅の何分の一とか、迚も煩いことが書いてある。何處からあゝ云ふことを割出したか、實に滑稽だネ。

村野 御承知の通り、角地でありますと、そんな場合があります。

片岡 さうだ、角を取られる爲に變挺な家になる。

葛野 角でなければ裏まで行けるやつを、裏が割合に狹い爲に規則に支配されて奥まで行けない場合がある。規則はどん〳〵改良して行く必要がある。

小川 さうだ、一遍出來たからとて、何時までも杓子定規に踏襲して行く必要はない。時代が進んで行くのだから。

鳥井 狹い通にある大きな建物の前の家などは可なり氣の毒に思ふネ。

片岡 大丸のは法律施行前にやつたのだ。

小川 あゝ云ふのは制限出來な



大阪都市計畫區域内工場分布圖（大阪都市計畫十周年記念展覽會）

かつたのか。

片岡　あれはセツトバツクにして少しも差支ない、道路の幅の一倍半位に……

鳥井　矢張り百尺位の所で切つて置かぬと可かぬとあゝ云ふ恰好のものが出來る。

小川　建築の問題を離れたことだが、言つて宜いか。

片岡　君は（小川氏へ）建築の專門家でないから許すよ。何でも……

小川　今日實は市會を覗いて熟々感じさせられたが、所謂市民權と云ふものをもつと擴張しなければいかぬ。現在では市内に居住して居る者でなければ選擧權、被選擧權がない。所が大抵のインテリゲンチアと云ふものは市内には住つて居らない。それが大阪市民として威張つて居るので、此處に市内におゐでの方があるかも知らぬが、あつたら除外例だ。要するに市民と云ふものは糟だ。從つて選擧と云ふものは糟が糟を選ぶことになる。昨年であつたか東京市の市政調査會で市政の革新運動を起して相當の人を出さうと思つてやつたんだが、出さうと思ふ人は皆市内に住んで居ない。こいつには往生したと云ふことだが、今日僕が大阪市會を見ても實になつて居ない。どうも出て來る者、出て來る者が何を言つて居るのか譯が分らぬ。無產黨の者も外の者も何を言つて居るのか分らぬ。無產黨ばかりぢやないが、あれでは迚も駄目だらうネ、郊外に住んで居つても、佛蘭西に例もあるのだから、大阪に於て財產を有ち、營業所を有つて、大阪に於て稅を納めて居る者には、之に市民權を與へ、選擧權被選擧權を與へるのだなア、さうして最も良い、糟でない人から糟でない者を選擧させる必要が大にあると思ふ。即ち道路に就ても建築に就てももう少し解つた人を市會議員に出さうと思へば、どうしても市民權を擴張して、今申すやうに、大阪に事務所を有つて居るとか、營業所を有つて居るとか、稅を拂つて居るとか云ふ人には選擧權被選擧權を與へると云ふことが僕は非常に必要でないかと思ふ。

片岡　簡單に言へば、良い市會議員を出さうと云ふことだネ。

小川　今の廣道の建築を改造しやうと云ふても何をしやうと云ふても、市會議員が今のやうな糟では問題にならぬ。

片岡　君は市民權を有つて居らぬから、さう云ふ風の見方をするが、それも一つの原因だけれども東京では相當な人が市民になつて居て、矢張り糟を出して居るなア。

小川　所が東京でも、今云ふやうに昨年の選擧當時の模樣に依ると、矢張り出さうと思ふ相當な人は大抵郊外に住つて居る。

鳥井　舊は相當な人が出たのでせうが、糟が一人增し、二人增したから、さう云ふ人は總て引込んだのですネ。

片岡　即ちグレシヤム・ローに依つて糟が良いものを追拂つたのだなあ。

小川　糟ばかりが市内に殘り、

良い人は郊外に行つて、市内に於て仕事をし、税を納め、實際に於て市民だが、選擧權も被選擧權も有たず、市政に就て一言の發言權も投票權も無いと云ふことで、市政がうまく行く筈がない。

片岡 所がそれ等の人の心得も間違つて居る。それは寄留すれば何でもないことだから……

小川 そんな面倒なことはやれやせぬ。

片岡 それは熱が無いからだ。

小川 そんなことを云つても、それは理想だ、要するに選擧權被選擧權を與へたら可い。

片岡 糟が市民權を有つて居ると云ふが、君も知つて居るかどうか、曾て市會議員を良くしやうと云ふので、中橋德五郎、永田仁助、村山龍平と云ふやうな人達を市參事會員として戴いたとがあるが、不熱心で、なか〳〵出て來ない、到頭辭めてしまつたことがある。

小川 イヤそれでもあの時分はまだ可かつたのだ、マア一度此の頃の市會を一遍覗いて見給へ、あの時分の方が餘程良い。

片岡 良い者も段々惡くなつたのか。

小川 それはひどいよ、實際今日行つて見て、僕は痛切に感じた。是では市會なんてものは駄目だと

片岡 市は死で、死の都だな、活きた都でない譯だな。

小川 是は建築には何も關係はないがネ。

葛野 いや、それが根本問題だ市の建築の改善と云ふやうなことに就ても……

片岡 市の理事者を批難するやうだけれども、都市計畫を實行する人も熱が不十分だ、それは矢張り理事者共の宜しきを得ぬのだがそれを協贊する市會議員も甚だ質が良くない、即ち鞭韃機關も良くなければ、理事者も熱が足らない。是が轉て市の改善されない基礎的な禍だと思ふ。

小川 僕は理事者を擁護する譯ではないが、あの市會議員を前に置いては何も出來やせぬ 何と云ふか、丸で譯が分らない。

片岡 此の問題は決して建築に關係の無いことではない。建築敷地の造成と云ふやうなことも都市計畫法で强制買收が出來るやうにもなつて居るのであるが、例へば高麗橋邊りでそれをやらうとすると、辯護士などが來て、安いから訴へるとか何とか彼とか云つて煩いから、まあ〳〵觸らぬ神に祟りなしと云ふ譯で、それをやらない打遣つて置く……

小川 今のルナパークの敷地の問題でも、後ろに何か附て居るらしい。商科大學の敷地も仕樣がないなあ、やつと所有權の方は片付いたが、小作權の方がまだ引掛かつて居る、あれは又ヘマなことをやつたものだ あんな所を初から指定しなければ可いのだ、候補地を彼方此方に幾つもこしらえて置いて、お前の方が可けなければ、此方へ持つて行くと云ふやうにすれば可かつたのを、ちやんと指定してしまつたから、小さい地主の後ろに高く賣つてやるなどゝ云つて、つゝ突く奴が居るから、頑張る、大體日本の地主と云ふものは小さく分れて居るからやり惡い。英吉利のやうに大きく纏つて居ると、それの諒解を得さへすれば可いのだから、何でもなく直ぐ手に入る。

鳥井 殊に大阪は土地の所有者が細かいですなあ。

小川 郊外は尚ほ可かぬでせう郊外の百姓はあばずれに摺れてしまつて、慾の皮が突つ張つて居るからネ、堪らない。

片岡 私は一寸これで失禮しますが、次は都市の美觀の問題に就て、僕等よりも更に專門家の古宇田さんに進行をお願ひしてやつて戴きたいと思ひますが……

古宇田 やつても可しいが、今日はもう此位でどうですか。

葛野 記事としても大分長いだらうし、今日はもう是で止めて、又第二回目を催すことゝしては……

片岡 それでは今日は是で止めて置きます——本當に暑い所を、皆樣御苦勞でございました、有難う存じます。

次號豫告

小住宅 (冬の卷)

本誌九月號は
小住宅(冬の卷)を
特輯する豫定です

住宅改良と都市計畫

藤田進一郎

住宅改良を伴はない都市計畫は血肉のつかない骸骨、中味の充たない風袋である。都市計畫法第一條には『本法において都市計畫と稱するは交通、衛生、保安、經濟等に關し、永久に公共の安寧を維持し、または福利を增進するための重要施設の計畫』とあるが、これは街路とか、橋梁とか、公園とか、上下水道とか、交通機關とかの公共的施設のみに限られてゐるから、都市計畫事業だけが、どんなに進捗したところで、同時に住宅の改良が歩調をそろへ、着々これに血肉づけ、內容づけて行かなければ、そのうちに居住する人間の、全圓的生活の安寧が維持され、福利が增進されるわけではない。

◇

都市を形成する要素はいろ〳〵であるが、最も重要なものは、住宅と街路とである。さらにこの二つのうちで、人間の生活にとつて、何れが最も直接重要なものかといへば、住宅である。住宅は、人間の安寧福祉と、きつてもきれぬ生きた關係をもつてゐる。それは人間生活の本據といつてもいゝ。バイブルも『狐に穴あり、空の鳥に巢あり、人の子は枕するところなし』といつて、家なき子を動物以下の不幸ものと見てゐる。住宅に比較すると、街路はその後に來るべきものである。住宅第一義、街路第二義である。街路は、むしろ住宅のための存在である。住宅の位置をよくし、住宅の安全を增し、住宅の能率を大にするために、街路を新設し、擴張するものと見て差支はなからう。街路は交通のためといふが、交通は人間の交通であつて、電車や自動車や、機械の交通を意味するのではない。都市なるものを、產業文明の現象形態にのみ捕はれた機械本位的に見ず本質的機能上から、人間本位的に見るならば、やはり住宅のための街路である。

◇

大阪市の都市計畫事業も、最早十年を經過して、大に効果を收めつゝある。實際は財政上の都合から、豫定計畫の半分あまりしか出來上らないのださうだけれど、それでも、十年前とくらべては、街路も廣くなり、鋪裝も行き屆き、十年一むかしの變り方は、どこへいつても認められる。しかし、住宅の點から見ると、いかにも跛行的である。ところ〴〵に大きなビルデイングが不調和に、例外的に建つてゐるのを除いては、大たい、舊態依然としてゐる。大部分の住宅は、少しも現代文明の洗禮を受けてゐない。フランスかどとの靴音も輕く、街路樹の影に、スカートを飜すモダン・ガールも、家に歸ると疊の上に窮窟さうにかしこまらねばならぬ。アスファルトの鋪道は雨が降るとかへつて洗はれたやうに美しく、靴のうらにも泥土のくつつくやうなことはないが、一歩屋內に入れば、土足としてまだ嚴禁である。家の內と外との樣子が、あまりに時代がちがつてゐるので、一日のうちに幾回となく、平安朝時代乃至鎌倉時代と、二十世紀の現代との間を往復せねばならぬ。これはしかし、どうでもよい。外にまだ〳〵重大問題がある。耐震、耐火の構造はどうだ。防寒、防濕、給水、排水の設備はどうだ。空氣、日光の流通、便所の裝置等はどうだ。市民住宅の大部分が、いつまでも現狀のまゝでは、都市計畫事業のみが、いかに進捗したとて、それで公共の安寧が維持されたり、福祉が增進されたりする氣遣ひはない。

◇

二十四間幅の廣路計畫の一部、阪急前から大江橋までが、すでに出來上つてゐる。まことに堂々た

るものである。初めてのお上りさんなら、目を丸くするに相違ない。ところがあの廣路に沿うた兩側の建築物と來ては、まるで體をなさないではないか。われ等は建築の伴はない都市計畫の最も適切なるシムボルをこゝに見ることが出來る。あの兩側に、善美を盡した高層建築が、比肩して矗立し、雄大にして崇高なるスカイ・ラインの美觀を描くまでは、その都市計畫事業が內容づけられたといへないやうに、住宅改良が全市の隅々に普及するまでは、大大阪の綜合的都市計畫事業は完成されたとはいへないのである。

◇

一般住宅の改良についてはこの位にしておいて、さてそれよりも一層の急務は、密集區域における不良住宅の改善である。都市計畫の進捗とともに、いよ〳〵その醜態を露出し來るのは、いはゆるスラムの不良住宅でなければならない。表通りが美しくりつぱになればなるほど、裏通りがいよ〳〵穢なくみすぼらしく見ゆる道理である。二十四間幅の堂々たる廣路が開かれ、田舍ものをおつたまげさせる半面に、俳人一茶が『涼風のまがりくねつて來りけり』と詠んだやうな陋巷に、間口三間、奥行一間、中二階、便所は三世帶ごとに一個所、炊事場などは勿論なく、これも三世帶共同用水道の傍で用を足すといつたやうな不良住宅が息もつまるやうに建ち並んでゐては、文明の大都市も鼻べちやである。

◇

大阪市の都市計畫は、その輪廓だけをみればいかにも壯んなる哉である。大正十年三月に內閣の認可を經て成立した第一次都市計畫事業の概要では、(一)御堂筋外二十四路線の街路の新設及び擴張、(二)既設街路中面積二十五萬坪の鋪裝、(三)面積六萬七千坪の路幅整理事業の施行等、總經費一億四千二十萬圓となつてゐたものが、大正十二年九月の大震火災の慘害に鑑みて、さらに、(一)街路の幅員を增し、四十二路線の新設及び擴張、(二)八十二橋を耐震耐火的構造に改築し、(三)既設街路面積十八萬坪の鋪裝、(四)面積六萬七千坪の路幅整理、(五)五路線に亘る建築敷地の造成事業の施行等を擴張し總經費二億二千二百四十萬圓に修正された。またその第二次計畫なるものは、大正十四年東西兩成郡に屬する四十四ケ町村を併合した後を承けて、舊市と新市との連絡的發展を目的としたものであるが、概要は(一)百一路線の街路新設及び擴張、(二)十五の運河開鑿、(三)五ケ所の下水處理場及び八ケ所の抽水所の設置、(四)四十六ケ所の大小公園及び十二ケ所の公園道の設置、(五)南北二ケ所の墓地の建設であつて、經費總額四億六千萬圓に上つてゐる。しかもなほこの外に、經費二千六百四十萬圓の第一期乃至第三期に亘る下水道改良事業があり、三百六萬五千圓の寢屋川附近都市計畫事業があり、七千五十六萬圓の第一期高速度鐵道建設事業があり、全市の概算殆んど八億圓にも達する大事業だが、この大事業が『交通、衛生、保安、經濟等に關し、永久に公共の安寧を維持し、または福祉を增進するための重要施設の計畫』として行はれつゝあるのに、不良住宅の改善なるものは全然閑却されてゐるのが不思議である。不良住宅の改善は、果して『公共の安寧を維持し、または福祉を增進するための重要施設の計畫』のうちに加へられなくてもいゝものであらうか。不良住宅の改善と都市計畫事業とは別々に切り離してもいゝと考へてゐるのであるか。

◇

北の市民館長志賀君から聞いた話しである。『子供が暑くるしがつて、家のうちに寢つかず、夏の長い日がな一日をむづかり通して困るので、夏の塲末のむさくるしいところながら、少しは涼しい風の惠みを受けさせてやりたいと思うて、夜露に侵されても、すや〳〵と眠れるやうに、蚊帳に蒲團をしいて軒下に寢かせてやつたら、蚊に食はれてもすや〳〵と眠るので安心したが、突然に雨など降りだすと大弱り、內に抱きこめば、いよ〳〵蒸し暑いので家中家族も寢つかず、しんどうて困るから、せめて子供だけでも、市民館のどこかで晝寢をさせてやつてくれないか』といつて、ある父から賴まれたといふことである。折角都市計畫

事業が、八億圓の大金をかけて功を竣つたところで、市内のところ〴〵に、市民のあるものがこんな氣の毒な生活をしてゐる不良住宅地域が現存してゐては、市全體としての衛生狀態や、乳兒死亡率などの改善は思ひもよらない。八億圓の四分の一でも、五分の一でもいゝから、不良住宅の改善にも、少しは割りあて都市計畫事業は少々遲れてもいゝから、不良住宅の改善にも相當の努力をして行くのが、眞の綜合的都市計畫でなければならぬ。

◇

勞農ロシアでさへも、政府の報告によると、勞働者の住宅建築のために、過去五年間に三十五億ルーブルの巨費が投ぜられ、一九三一年以後になほ十二億ルーブルが投ぜらるゝはず、建築された新住宅の新敷地は二千萬平方米突に上り、百萬の勞働者家族がこれに收容され、乳兒死亡率もめつきり低下したといふ。大阪府都市計畫課の調査によると、大工場に屬する職工の六〇％までは、工業地域内の、しかも工場から一二町を隔てたばかりの大煙筒が多量の煤煙を吐き出す直下で、夜も寢られぬ機械の噪音に惱まされながら、汚水の惡臭の漲つた低濕陰鬱な借屋長屋の密集生活をしてゐるさうである。一方に八億圓の大都市計畫事業が、着々として進捗しつゝあると、おなじ共同社會（コミュニティー）内の狀態とはどうしても考へられない。

◇

不良住宅の改善については、内務省からの補助制度もあり、全然閑却されてゐるわけではないが、しかし、雀の涙ほどの補助金や、内務行政の一事項として、形式的に申譯半分取扱はれてゐるやうでは、十分にその目的を達し得ないことはいふまでもない。これはイギリスのやうに、國家的大問題として、しかも地方當局が中心となつて實行に精進しなければ駄目な事である。イギリスで不良住宅の改善が問題になつたのは、一八四二年の Liverpool Building Act が最初であり一九三〇年の Housing act に至るまで、約九十年に亘つて變遷を遂げたが、不良住宅改善の根本方針に至つては、時の經過につれて、いよ〳〵高調されるばかりであつた。都市計畫といふ新らしい言葉が行はれるやうになつてからは、特にさうである。不良住宅の狀態は、あへてロンドンのスラムなどに比して劣らないにも拘らず、都市計畫事業が今日のやうにやかましくなつてもなほ不良住宅の改善問題が、他の一般住宅の改良とともにあまり重要視されるに至らないわが國のごときは、よほど珍らしい。（完）

大阪の區劃統制の過去と現在

大阪府
建築監督官　玉置豊次郎

茲に云ふ區劃は街廓と劃地の總稱であつて、街廓は道路に曲繞された一團地で、劃地はその一團地が更に數筒に分割された個々の建築敷地を意味するのである。統制と云ふのは爲政者その他の團體時には個人の採配によつて、豫め計畫指導されることを意味する。從つて區劃統制とは家屋が建築せれるに先立つて、建築敷地や道路の配置が決定されることを云ふのである。

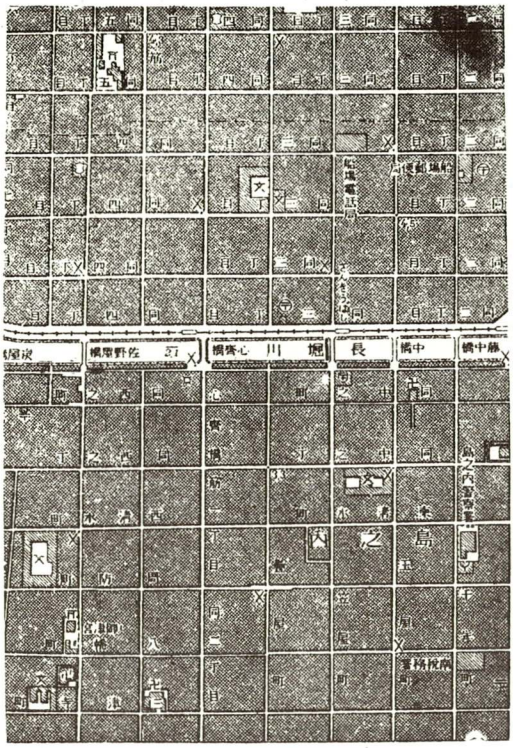
大阪の區劃統制を歷史的に考察すると、三つの特徴ある時期がある。その最初は豊臣德川時代であつて、この時代には人口の增加期には常に適當な計畫がなされた爲めに、區劃造成には完全な統制がなされて居つた。明治の初期の大阪は人口が未だ過大でなかつた爲めに、先の豊臣德川時代に完成された市域を超えて建築されることがなかつた。それ故に未だ區劃統制に就ては考慮を拂ふ必要が認め

られなかつたのである。然るに次の明治時代の後期は全然その性質を異にして、長足な人口增加の緒に入つた。そして建築敷地は以前に造成されて居たものだけでは不足を感ずることになり、郊外へ著しく膨脹されねばならない様になつた。然るに不幸にしてこの期には統制者が欠けて居た爲めに、新市域の部分は非常な亂雜に陷つたその結果この部分からは色々な社會問題が引き續き起つて居る。今日ではその弊害は收拾すべからざる狀態になつて居る。この弊害が益々高まらんとするに及んで、漸くその對策が講ぜられ始めた。明治の末年にその緒を見てゐるがそれはほんの輕少なものであつて、大正の後期になつてその弊害に堪えずして、公私兩方面から手段方法がとられる様になつた。そして初めて區劃の統制に一縷の光明を見ることが出來たのであるが、昭和時代に入つて漸くその効果が表はれる様になつて來て居る。而してその手段方法は大阪に於て最も活用され、從つて今日の大阪の區劃統制は全く獨特であつて、眞に全國に誇るに足るものになつて居るのである。今これ等の經過並に現狀に就いて敷衍して考へて見ることにする。

◇

巷間では通常豐臣時代に大阪の區劃割が大體決定された事が傳へられて居る。然し乍らその範圍並にその規模に就ては今日正確にそれを知るよすがは全然ない。古文書によつて檢策される所によると當時の大阪で市街地を構成したと思はれる部分は船場、下船場、及天滿の各一部であつただらうと推察されて居るが、この事は運河の開鑿年代と照合すると大體是認される様である。豐臣時代に既に在つた水路は淀川本流の外に僅かに東橫堀川、西橫堀川、阿波堀川、天滿堀川の一部に過ぎなかつたが他の諸川は德川時代に入つてから開鑿されたのである。例へば道頓堀川は元和元年に、江戸堀川と京町堀川は元和三年に、海部堀川は寬永元年に、長堀川は寬永二年に、立賣堀川は寬永三年に、薩摩堀川は寬永七年に開設されて居る。然るにこれ等の諸川は地圖で見ると大體直線であつて、開設當時から幅員も揃つて居たものと想像される。さうすると豐臣時代或は此開鑿當時既に之等の堀川筋に當る所に家屋が相當に密集して居たとすれば、今日見る如く或る程度の幅員を揃へて直線に運河を堀る事は中々の困難な事である。從つて家屋がどつさり在つたならばこれだけの川が容易にこの短期間に開設されることは難かしい。故に逆に考へて見て、元和元年から寬永七年迄の僅々十五年間に延長凡そ百町に涉る川を堀ることが出來たのは家屋の移轉といつた様な面倒なことが無かつた、或は有つても極く少數であつて大體に於て原野の工事であつたからではあるまいかと考へられる。これは單純な考へ方ではあるが、大體これによつて豐臣時代の大阪の規模が船場と下船場と天滿の一部分に過ぎなかつたことが是認されることになる。この部分がどう云ふ風に區劃されて居たかと云ふ事に就ては之も確然としてゐないが、當時の築城術では城下町は城の位置に應じて街廓が配置されることになつて居つたから、豐臣氏の大阪築城と同時に城下町の設計もなされたものと考へられる。その配置は大體今日の道路割がそれに該當するものと思はれる。

德川時代に入つてからの區劃の統制に就ては、何んと云つても松平忠明の偉業を推さねばならない大阪市史によると、松平忠明は家康の孫である。家康は忠明の非凡な手腕を認めて、落城後直に大阪の城主を命じた。忠明は戰後第一の施設として市街の整理を志し、大阪城の三の丸を市街地に開拓しその住民として伏見の町人を此處に移住せしめて居る。そして一方前記の京町堀、江戸堀、道頓堀の開鑿を助成し、且速に沿岸に家屋の建設されんことを促して居る。尙從前より市中及近鄕に散在して居た寺院、墓地の移轉廢合を計畫し、之れを小橋村、東西高津村及天滿村の三ケ所に集合せしめて居る。斯くの如く建築敷地の增設、運河の開設、寺院墓地の整理をなすと同時に、區劃に就ては町割は四十間を基準となし、その中間に排水路を設置して居る。區劃割當てに從事したのは當時の市中の富豪で信望高い人々であつたから、これは事業內容と云ひ、事業施行者と云ひ、今日の土地區劃整理組合に似た性質のものと考へられる當時この方法によつて整理された



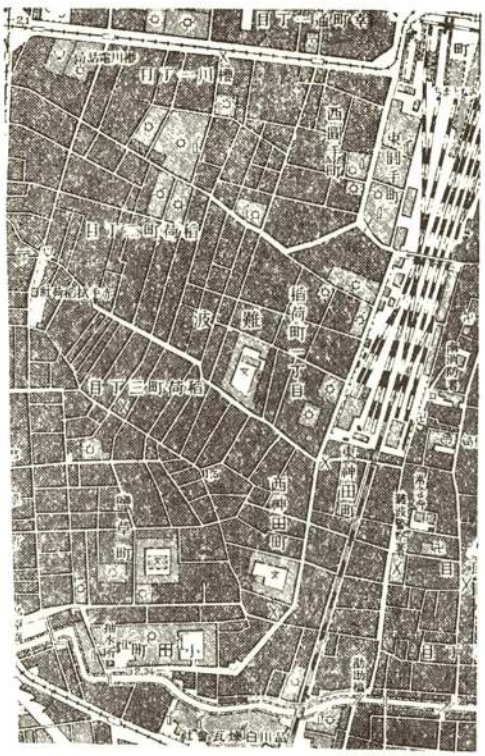
第一圖　德川時代に統制を受けて構成された區劃の一例
（大阪首部船場、島之內方面）

區域は船場、島の內、下船場、天滿、谷町方面であつたと推定される。その後元祿十一年七月堀江川開設の工成つて南北堀江に町割を施し、堀江新地三十三町を興し、家作を奬勵し、種々の特典を與へて土地の繁榮に資して居る。斯くの如く人家建設に先立つて常に町割が施され、街廓、劃地が決定して然る後、建築されると云ふ風であつた。從つて今日大阪の地圖を展くならば、これ等の部分では整然とした道路網を見ることが出來劃地もそれに準じて方形に分割されて居るのである。德川時代を通じての人口增減を考へて見ると、堀江川が開設されてから六七十年後が最大の人口數を有して居た樣である。そしてその後は明治の初期に至る迄反つて人口數を減少して居る。之れによつて之れを觀ると德川時代では町人は總て町割の整然とした所に自分の住居を持つことが出來たのである。當時の建築物の規模から見ると、必ずしもこの町割が適當なものであつたとは考へられない。相當多くの小住宅が所謂露次の奥に建てられて居る今日から考へると建築線に接しない家がどつさり出來ねばならない樣な町割の仕方であつた。故にそれは理想的の區劃の構成とは考へられない。それにしても道路の配置を井然たらしめ、劃地がそれに直角に仕切られたと云ふ事は實に偉大な功積であつたに違ない。

◇

明治時代に入つてからの大阪の區劃はこれを前半期即ち明治初年から三十年頃迄と後半期即ち三十一年頃からその末年迄とに分けて考へることが適當である。明治時代の大阪の人口は明治元年が二十八萬一千三百六人、そして明治五年が二十五萬九千九百八十六人となつて居る。この明治五年の人口數は今日から二百八十年前の大阪の人口數に該當する。それが明和二年には四十一萬九千八百六十二人迄に增加して居るから、明治五年ではこの最大人口當時と比較すると實に十六萬人からの減少である自然明治五年頃には市內には相當多くの空家が在つたものと想像される。其の後の人口は日本が隆盛に赴くのに比例して增加の傾向をたどり、明治二十年頃に大體過去の最大人口數、即ち明和二年頃の人口數を凌駕する事が出來た樣である。それから後も人口は遞增しつゝあつた。然し乍らその增加人口を住はす住家は德川時代に構成された市域を超えて新築される樣なことはなかつた。この事は明治十九年內務省地理局出版の大阪實測圖と明治三十二年の陸地測量部出版の地圖を比較すると、その間に建築敷地が殆んど增加されてないと云ふ事實によつても明瞭である。以上が大體明治前半期の狀態であつて、區劃は新に造成される必要が無かつたから、これに關する問題は自然起らなかつたのであつた。即ち松平忠明等によつて立案された計畫はこの時分迄彈力性があつた譯である。所が明治の後半期に入つてからの人口增加の仕方は實に猛烈を極めて、每年三萬乃至五萬づゝ增加した。それが爲め家屋はどし〳〵田畑を浸蝕することになつた。一戶五人とすると、每年六千乃至一萬の家が新に建て續けられたことになる。然るにこの膨脹期に當つて、不幸にも區劃の統制をなす者が全く無かつたか

ら、新市街地方面は亂雜に建て擴がる儘に放任されたのであつた。福島方面、長柄方面、鶴橋方面、難波方面に伸び擴がつたのは實にこの時代である。當時市の中心部の人々はこの新膨脹方面を呼ぶのに端し端しと云ふ言葉を以つてした。これは蔑稱である。この時分の猛烈な人口增加は人口の自然增加に基くものよりも、人口の都市集中に基く方が遙に大であつた。これ等の大阪に集中して來た人々は大部分、大阪で不熟練勞働者か若くは小資本の商人になつた。極く稀れに既に滯阪數年の者が工業を營む樣になつて居る。自然その生活程度は非常に低いものがあつた。然るに市中人口は既に飽和點に達して居るから、これ等の人々が市中に家を見付けることは困難である。それに加へて市中では家賃が高いから、どうしても都市生活難と云ふ遠心力に振り飛ばされて、郊外にその居を求めざるを得なかつた。時たま工業の大發展に伴つて生れ出たのが資本主義であつた。その資本主義は發展するに從つて、工業方面のみならず各方面にその觸足を伸ばした。そして



第二圖　明治後半期に無統制の儘展開された區劃の一例
（大阪南部　難波、港町方面）

終にこの都市へ集中する田舍人をも見逃がさなかつた。即ち彼等に大量的に家を建てて貸し與へ初めたのである。然し乍らその方法は飽く迄資本主義的であつて、彼等は出來るだけ粗末な家を建てゝ、出來るだけ高い家賃を貪つた。最小限の而も不完全な住宅を出來るだけ多く造つた。その結果區劃などを考へる暇はなかつた。道路は全く無視され、庭と名のつくものは殆んど持たない。便所や水道迄儉約されて共同のものが造られた排水設備も不備を極めて居る。故にこれ等の家は生れ乍らにして不良住宅であつた。住む人が既に生活程度が非常に低い所へ、それに供するに不良住宅を持つてしたのである。故にこれ等の方面はスラムにならざるを得なかつたのである。故に人々はこの方面を呼ぶに端し端しと云ふ蔑稱を以つてした。眞に恰好の言葉であつたのである。凡そ貧民と稱するものは何時の時代にも存在したものである然し乍ら貧民窟なるものは全くこの時代の產物である。この事は何處の國に於ても事實であつて、產業革命の後都市人口の大集中が始まると同時に、貧民窟が出來た。そして人口の集中の大なる所程貧民窟は大であつた　我が大阪に於てもその例に洩れず、日淸戰爭前後より現代都市化するに及んで漸くその傾向が見え、日露戰爭後に至つて實に顯著になつたのである。今日大阪でスラムと稱して居る地方或はそれに近いものは全くこの時の建築に掛るのである。そして難波にしても、大仁、福島、長柄にしても鶴橋方面にしても最近都市計畫路線が出來たり、斬切りが出來る迄は自動車が通り得る樣な道は全然無かつた。屈曲が矢鱈に多い。その上幅員は恐く不揃である。そしてその構造はまるで不完全を極めて居る。道路が在つてそれに向いて建物が出來るのではなくて、建物が出來てその間の餘地が道路になるのである。故に道路が滿足なものでないばかりでなくて、建築敷地が全然整頓されて居ない。昔の曲つた儘の通路や水路に沿つた敷地はその曲つた儘の境界を以つて居る。故に敷地はいびつである　自然家を建てる時使ひ道のない土地が家の隅々に殘

る。凡そ明治時代特に後期になればなる程、その持つ文化は絢爛を極めて居る。百般の文物に渉つてこの時代程華やかなりし頃は從前には見られなかつた。政治は發達し、國民の社會的訓練も著しく進歩し、總ゆる組織備らざるはない時代であつたのである。然るに唯この街廓統制と云ふ點に於てはこの時代より劣つた時は後にも先にもないと云ひ得られる程不秩序を極めたのである。歷史的に見て大政治のある所、必ず大都市計畫がある。それにこの記憶さるべき明治時代にこの事の無かつたのは確かに明治時代の一つの不思議である。今一人の松平忠明が出て區劃統制に採配を振ることの出來なかつたのは眞に痛恨事である。街廓統制の必要を氣付かれてそれを貫徹し得なかつたのか、頭からその必要を氣付くことが出來なかつたのかは考へられねばならない。氣付かれて居つたが色々の事情で出來なかつたと云ふのと、これは重大な結果になると云ふ事を觀破することが出來なかつたと云ふのとで功罪に輕重あると云ふ譯であるが、今日之れを振り返つて見ると甚だ遺憾乍ら當時の人々には一般に之れを觀破するだけの力量が無かつたと斷言出來る。尤も東京市には市區改正條令があり、大阪市でも亦それに似通つた條令の發布されん事を相當熱望された樣である。然し乍らその內容には幹線道路は含まつて居るが、街廓は全然顧みられて居ない。事實東京で實施された市區改正は所々で道路の擴張をやつただけであつて、大阪もそれを眞似やうとしただけである。時たま明治四十二年七月に北區の大火があつた。當局は燒跡の整理に大いに盡力された。が然しその結果は十數本の市員の廣いものが出來ただけであつて、福島邊の亂雜を極め盡した街廓を整理しやうと云ふ考へは毛頭なかつたらしい。それで終に從前の儘の町割で家が復興された。今考へると眞に遺憾な事である。唯偶然にもこの明治の後半に二つの特筆さるべき事がある。その一つは今宮の耕地整理組合の成立と大阪府建築取締規則の發令である。耕地整理法は明治三十二年三月の發布にかゝる。そしてこの法律は土地の農業上の利用を增進するのが目的で區劃形質の變更、灌漑、排水その他の設備工事を施行するのである。大阪府ではこの法律によつて耕地整理をやつたのは明治三十七年五月に鴻池が中河內郡で一人施行をやつたのが皮切りで、明治四十年二月の北河內郡九箇莊村が第二、そして今宮第一耕地整理組合は五番目で明治四十三年二月七日に組合が設立認可されて居る。元大阪市の接續町村ではこの組合が最初である。その地區總面積は三十八町二段九畝二歩、その事業費總額七千六百六十一圓と云ふ事になつて居る。それに引き續いて今宮第二耕地整理組合が明治四十四年四月二十八日認可された。その地區總面積は前者に數倍して百四十七町二段九畝一歩であつて、その事業費總額は七萬七千八百〇七圓であるから、反當りの工事費は前者の二十圓に比して後者は三十五圓である。この第一と第二の二つの組合の位置は元今宮町の中、皿池と南海本線東側を除いた全部であるから、その總面積は元の今宮町の面積の七割位を占めることになり、今宮町としては非常な大事業であると同時に非常な大英斷であつた。その整理は昔の道路、水路を殆んど廢止し障害物を除却し、思ひ切つて道路、水路を東西南北に一直線に開設した。大阪としては實に元祿十一年堀江の開發以來の出來事であつた。大正十四年四月一日に接續四十四箇町村が大阪市に編入された時、道路と水路を完備して編入されるのは今宮町だけであると云つて町當事者は大變な自慢であつたのである。然し乍ら耕地整理は矢張耕地整理であつて道路が少なく、而かも市員は狹く、市員三間の道は全道路數十筋の中僅々三筋に過ぎないのであつて他は全部二間である。そして建築敷地としては眞に不向な地割である。故に今日から見ると色々な欠點を持つ樣である。それにしても紊亂甚だしい明治時代後期に於て今宮町が耕地整理によつて區劃整理をしたと云ふ事は實に特筆されねばならない。然しその面積は大阪全體の面積に比して九牛の一毛であつた事は遺憾である。他の一つの事柄は大阪府建築取締規則の發令である。この取締規則は明治四十二年八月十八日に出て居る北區の大火が明治四十二年七月末

であるから、大火の絶好の期をすかさず發布になつたものである。この取締規則は當時の日本の斯界の狀態では從前の斷片的の特種建築物のみを對象としたものに比して全く劃期的であつて、完備した建築行政或は建築警察の嚆矢をなすものである。それは色々な取締内容を以つて居るのであるが、その中街廓統制に關係ある部分は

第十六條　雨水溝外側條石ノ上端（中略）ヨリ高八尺以上ニ在ル軒、蟇羽、庇及其ノ持送ハ（中略）道路又ハ通路ノ部分ヲ侵スコトヲ得ス外開扉亦同シ

第十七條　建物敷地カ道路又ハ通路ニ沿フトキハ其境界線内ニ雨水溝ヲ設クルコトヲ要ス（下略）

第六十三條　裏屋（中略）ニハ通路ヲ設ケ二方面以上ニ於テ之ヲ道路又ハ通路ニ接續スルコトヲ要ス但シ六戸以下ノ場合ニ於テ他ノ方面ニ交通シ得ル非常通路ヲ設クルトキハ一方面ニ減スルコトヲ得

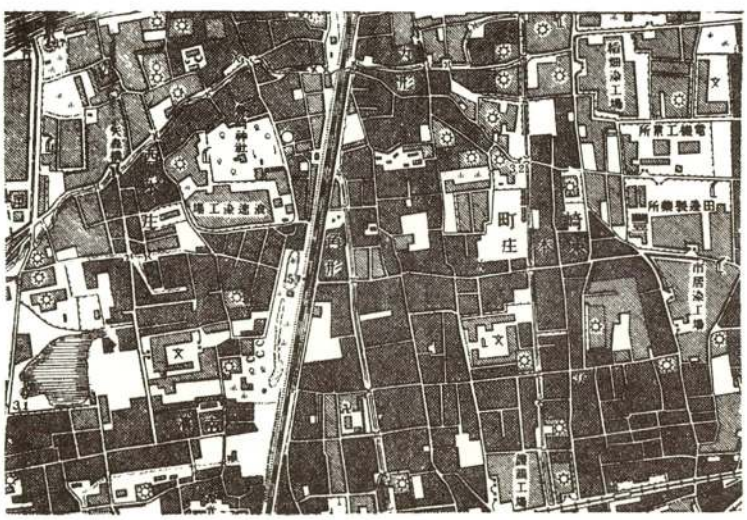
通路ノ幅員ハ九尺以上トス

通路ノ地盤ハ防水材料ヲ以テ之ヲ築造スルコトヲ要ス

の三箇條がその主要なるものであつて、第十六條では建築物による道路又は通路への突出、時にはその閉塞が監督されることになり、從前はこの種の出來事の爲めに各方面が惱まされた譯であるが、この時からはこの條項によつて道路の効用が著しく增進されることになつた。次の第十七條では雨水溝が必要とされるとになつて居る。これは敷地内の排水並道路上の排水が目的であつたのであるが附隨的に道路と敷地の境界が判然とされることになり、街廓の形態確保の上に非常に役立つことになつた。第六十三條は前二者に比して遙かに街廓統制の上に働きを持つものである。これによつて建築をする際には街廓構成の必要あることを教へることが出來た譯である。この第六十三條の規定は今日から考へると、矢張完全なものと稱する譯にはゆかないが、從來の無節制に比すれば大成功に數へらるべきであつた。それにしてもこれだけの規定内容では現代都市特有の貧民窟發生防止に役立つには未だ距離の遠かつたことは甚だ遺憾である。

◇

斯くの如くして大正時代に移つたのであるが大正時代もこれを前半期即ち元年より八九年迄と後半期即ちそれより末年に至る迄に分けて考へるのが適當である。大正時代の前半期は依然として明治後半期の最惡時代の延長であつた。出來上る個々の建築物は建築取締規則によつて目覺める程改良された　建物を一見するだけでこれは



第三圖　大正前半期に無統制の儘展開された區劃の一例（大阪北部 本庄、豊崎町方面）

建築取締規則の適用を受けて居るか否やの見分けがつく程格段の進歩をなすことが出來たのであつたが、その建物の構成する街廓は亂雜であつた。而もこの時代の大阪の膨脹は實に凄しいものがある。特に歐洲大戰亂の勃發は大阪の發展を彌が上にも刺戟した。郊外の田畑は日に日に幾町と知れず宅地化されて、どし〳〵住宅が建ち工場が建つた。普でさへ無茶苦茶に建てる樣に習慣づけられて來て居る矢先建築敷地の需要が急激に起つたのであるから敷地の形、道路の配置に考慮が廻らされる筈がないいづれも昔ながらの畔道の儘市街地が擴がつた膨脹が突然であつただけその弊害の量は前期にも增したものと

考へられる。そして明治後半期の不始末を更に上塗りしたことになつた。こゝに於て漸く人々の間に區劃の構成はその儘放置されるべきでないことが認められ始めた。かくして大正時代の後半期に入る。

大正時代の後半期は以上の如き明治、大正前半期の弊害に對する總決算期とも見らるべきであつてその弊害に最早堪え得られざることが氣付かれる樣になつた。そしてその對策が講ぜられる樣になつたのであるが、それに二つの別箇の形式がある。その一つは郊外の新建築地が斯くの如く道路は區畫を極め、敷地は不整形で眞に建築を與すに不適當であり、給水に排水に全くその敷地難を痛切に感じて居た折であるから、それを目懸けてそれ等の欠點を整理して完全な土地を造り上げ、それを分讓若くは貸與することを營業にしやうとする大地主及土地會社の出現であり、他の一つは關係各方面からの要望に基いて發布された都市計畫法と市街地建築物法の出現である。尙時たまこの期には港灣部の埋立地が整理されて出現したことも一つの特色である。多くの場合個人の土地經營と土地會社の經營とを區別することが困難な場合、時には區別して考へることの不必要な場合があるので、こゝでは單に土地會社として考へることにする。大阪に於ける土地會社の數は非常に多く、その經營坪數も中々大面積に渉るものであつて、大阪の爲には重大な役割をつとめてゐる。それ故にこの土地會社の存在は絶對に見逃すことは出來ない。巷間この土地會社の出現に對しては善惡二つの批評がある。その惡の方には土地會社なるものゝ設立者には何も彼も實質以上に評價して置いて、無暗に株價を釣り上げ、思惑の値になつた時その株を賣り飛ばして、其處に不合理な鞘を掴んで、その會社に計り切れぬ損失を與へて飛び出す者が多く、結局眞面目な經營がなされずに所謂惡德者のだしになつて居るものが多いと云ふ批難が一つ、それから土地會社の煽動によつて地價が非常に競り上げられ、その爲め土地の獲得が困難になり、住宅問題、土地問題が起る重大な原因を提供したと云ふ批難が一つ、その次には土地會社は自己所有の土地の急激な値上りを計り、その土地に遊廓の設立や、歡樂境の設立をなして社會風敎上に惡影響を與へたと云ふ批難が數へられてゐる。このいづれもが事實あつた問題であつてこれ等の批難に對しては全く辯解の餘地はないものと思はれる。斯くの如く一部の土地會社の中にはあぶく錢の爲めにせられたものもあつたが、他の一部には眞面目に經營されて、大阪の發展の爲めに寄與する所頗る大であり、又本問題の街廓統制には非常な貢獻をなしたものも多いのである。時に此花區、港區邊りの土地會社は從前底深い水田や葦原で、個人の手では到底滿足な宅地の造成が覺束ないと思はれた所を大資本を投じて立派な土地に仕上げ、それに施すに整然とした町割を以つてしたのであつた。その爲め容易に開發される見込の立ち兼ねた土地が適宜賣却或は貸與されることによつて今日では繁盛な市街地になることが出來たのである。これに似通つたものが大阪市の港灣部の土地經營であつて、その仕事と云ひ、結果と云ひ同一のものであつて唯經營者が相異して居るのが兩者の特徴に過ぎないのである。これ等はいづれも相當權威者の設計になるものが多いのであつて、各會社によつて相異はあるにしても、街廓はいづれもある程度迄考慮されたものである。然し乍らその劃地に至つては所によつては隨分まづい結果になつて居る所がある樣であるが、それは全く總括的の統制が欠けて居た爲めによる結果と考へられるのである。此等の土地會社によつて造成された土地は莫大な坪數に及んでゐる。この外土地會社にはこの方面以外に住宅地提供の爲めに活動したものが相當ある。一個人で敷地の整理に當る事は仲々困難な場合が多く、且或る敷地を見付けてもその環境に氣に入らない場合が多く、又最初は相當な環境であつたものが家を建てゝから後に近所に出來た工場や汚い商店によつて惡くされる場合が屢々あつて、理想的な住宅地の獲得は困難であつた。こう云つた點になると一團の住宅經營地にあつては出來る建物は大體粒が揃つて居るために、町の體裁が一段と增し、まして不意に工場等の襲撃に

遇ふ處は先づないとされて居る。自然この種の土地會社の經營地は一般に歡迎される所となり、その爲め追々會社の數も經營地も增すと云ふ譯であつた。尙この種の土地會社の或る者などによつて、一般人の住宅の間取り等の智識が啓發されたことも著しいものであつた。故にこの土地會社が住宅地の爲めに貢獻する所があつたことも特筆されねばならない。大正後半期に講ぜられた他の統制も都市計畫法と市街地建築物法とによるものである。都市計畫法と市街地建築物法とは姉妹法であつて、この二つの法律は共に大正八年四月相前後して發布された。從前の儘では最早都市は行き詰つて、これ以上發展するためには何とか打開策が講ぜられねばならないことが痛感されることになり、一とたび都市計畫法と建築法の必要が提唱されるや、世間は忽にして贊同を與へ、その要望の聲は短日月の間に高潮に達した。そしてこの二つの法律が發布されるや全く大旱の雲霓を得た如き觀があつた。二つの法律は即刻活動を始めた。區劃統制はこれによつて可能になつたのである。眞に光明を與へられたものと云はるべきである都市計畫法中區劃統制に關係濃いものは何と云つても土地區劃整理の制度である。第十二條に都市計畫區域内に於ける土地に就ては其の宅地としての利用を增進する爲め土地區劃整理を施行することを得と規定されて居る。土地區劃整理施行の種類に就ては三通あるが、通常組合を組織して事業の施行に當らせる場合が多い。これによつて阪南土地區劃整理組合が大正十三年一月二十一日に認可になつた。これは大阪に於ける區劃整理の嚆矢である。その地區面積三十七萬四千坪に及んで居る。これを皮切りに大正年間には都島、友淵、住ノ江、生野、第二阪南、城北の六の組合が引き續き設立認可された。その地區面積の合計實に百四十一萬四千坪である。曩に區劃統制の先頭は耕地整理によつて切られた、亂雜な新市街地の中に於て、耕地整理地區は隔離たる光彩を放つた。然し耕地整理の結果は矢張耕地整理であるとは前述の通りである。然るにこの區劃整理は單に道路の位置が井然たるものにされただけではない。それは全く建築敷地をも考へて劃地と街廓が同時に解決つく樣な方法がとられた。先の耕地整理地區内へ建築するには組合によつて完成された道路の外に色々な道を更につけねば全部の劃地が用ひ盡せなかつた。それに反して區劃整理はこの點を充分に考慮されることになつた。尙區劃整理は現代都市の新市街地を形成するのに適當な道路の巾員を保有した當時大阪の中心部では未だ全部軒切りが完成して居なかつた。それ故に中心部よりもこの區劃整理組合地區内の道路の方が巾員が大であると云ふ喜ぶべき現象を呈することが出來た。尙この外從前の市街地の色々な長所や欠點が充分研究された。そしてその街廓の配置に當つてもその長所をとり、短所をなからしめることに留意された。德川時代以後絶えて無かつた區劃統制の制度が愈々再びこゝに確立されることになつた。かくして大阪の健全な發達が期待し得られ、且一部分で既にその効が表はれると云ふ事になつたのである。市街地建築物法中區劃統制に關係ある部分は建築線制度である。この制度は元より外國の模倣である。然し乍らこの制度がとり入れられることによつて、市街地建築物法の價値は一段と增した。建築線制度は元來は建築敷地造成が眼目である。然し乍ら建築線には必然的に道路が附隨してくる。故に屢々建築線論は道路論と同じ道を歩む場合がある。建築敷地造成が眼目であり且つ道路が附隨してくる以上こゝに建築線は區劃統制と密接な關係が出來る。市街地建築物法中建築線に關係ある條項は

第七條　道路敷地ノ境界線ヲ以テ建築線トス但シ特別ノ事由アルトキハ行政官廳ハ別ニ建築線ヲ指定スルコトヲ得

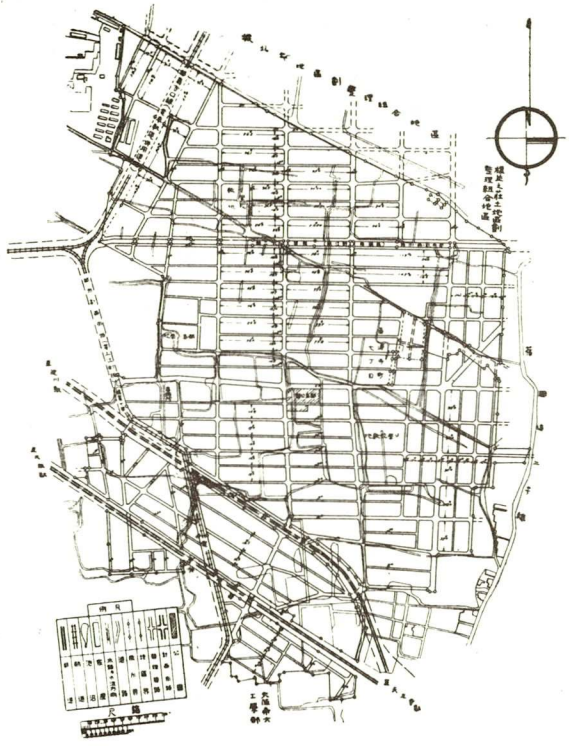
第八條　建築物ノ敷地ハ建築線ニ接セシムルコトヲ要ス（下略）

第九條　建築物ハ建築線ヨリ突出セシムルコトヲ得ス（下略）

第二十六條　本法ニ於テ道路ト稱スルハ幅員九尺以上ノモノヲ謂フ

の四箇條であつて第九條は曩の建築取締規則の第十六條に該當する第八條は第六十三條に似て而も一段と効果多いものである。そして第七條の生命はその但書にある。この但書の活用如何が全く新市街地の傀儡師であつて、新市街地の

街廓を良くするも、悪くするも實にこの但書運用の如何による。行政官廳が別に建築線を指定することが出來ると云ふ事は唯單に現在巾員を廣くすると云ふだけではなしに、現に山林、田畑の様な所へでもどしどし將來の道路を約束すると云ふ事である。而もこれは他の法令例へば道路法による道路の新設とか都市計畫法による道路の新設等と異なつて、用地の補償と云ふことが全然ない　故に用ひ方によつては正宗の刀の切れ味がある譯である。如何に運用が拙劣でも少なくとも家が建つ時には巾員九尺の道路が約束出來ることになり、まして巧妙に運用されるならば如何なる街廓でも構成せしめることが出來る譯である。當時の取扱ひとしては一時に幾萬坪と云ふ土地がこの制度によつて開發されたと云ふ實例は未だなかつた。然し部分的に有効な働きをなしたのであつた。以上の如くして大正後期には二つの法律によつて街廓統制の準備が出來上り、早速その活用の効果を見ることが出來たのであつた。



第四圖　區劃整理の一例（大阪市都島土地區劃整理組合地區）

◇

昭和時代に入つてからは二つの法律が愈々活躍するとになつた。他の都市ではこの二つの制度の妙味が未だ玩味されて居ない間に大阪にあつては醍醐味を出して來た區劃整理組合は滔々として郊外を被ひ盡した。北でも南でもトロツコが快走する、シヤベルが亂舞する、赤膚を表はした道路が行列する、健康住宅が併列する、明るい活氣ある新市街地がどしどし大阪の四方に展開した。その間建築線制度は極力區劃整理を助成した。そして新市の開發に資すると同時に舊市の區劃の治療に從事した。年々建築線指定によつて附隨的に出來る道路面積が何十萬坪に達した。年によつては區劃整理による道路面積を凌駕した。かくして大阪の區劃は全國に見ない統制を受けることが出來た。尚區劃整理の模様は次の簡單な表によつてその活躍振りの想像を乞ふことにして建築線制度の運用振りに關しては別に筆を起すことにする。

大阪市に於ける土地區劃整理組合關係事項一覽表

組合名	施行地區	地區面積 千坪	認可年月日
阪南	住吉區。天王寺、西田邊、北田邊、南田邊、住吉町	三七四	大正三、一、三
都島	北區。澤上江、善源寺、中野、東野田	二三三	同　四、五、六
友淵	東成區。友淵、赤川	一九	同　四、七、一〇
住の江	住吉區。住の江、七道	六五	同　五、四、六
生野	住吉區。杭全、今林、桑津、生野 東成區。田島、生野新家、倉林寺、岡の町、林寺	二四〇	同　五、四、六
第二阪南	住吉區。住吉、西長居	二八	同　五、一〇、一
城北	東成區。赤川、生江、中宮、内代、毛馬	四五五	同　五、三、二八
股ケ池	住吉區。南田邊、北田邊、西田邊	九五	昭和　二、八、五
菓の莊	東成區。千林、今市、關目、南島、今福、別所、森小路四七	四七	同　三、二、九
瑞光寺	東淀川區。西大道、北大道、南大道、小松	九七	同　三、三、三

天王寺	住吉區。天王寺、北田邊、西田邊、杭全、桑津	六〇五	同	三、二、三	清水	東成區。北清水、網國
野江	東成區。林寺、生野新家	四四	同	三、二、一〇	鷹合	住吉區。鷹合、東長居、今林、杭全、今川、中川、湯ノ里
福田	東成區。野江、蒲生、巽	二〇	同	三、二、一〇	港	東成區。東長居、今林、杭全、今川、中川、湯ノ里
佃	東成區。野江、	一四一	同	三、五、一二	姫ノ里	港區。小林町外
深江	西淀川區。佃、大和田、蒲島、御幣島	三四	同	三、五、一二	姫島福	西淀川區。姫島、野里
墨江第一	東成區。深江、大今里、永田、東今里	三八	同	三、五、一二	姫島福	西淀川區。姫島、福、大野、大和田
西平野	住吉區。濱口、南濱口、遠里小野	四二	同	三、六、二九		
墨江第二	住吉區。平野、馬塲、西脇、今林、杭全、今川	宅	同	三、八、八		
今里片江	住吉區。遠里小野、住ノ江、七道、殿辻、濱口	九五	同	三、一二、二八		
西長居	東成區。片江、猪飼野、大今里	五五	同	三、三、一七		
森小路	住吉區。西長居	一八八	同	四、二、二七		
上中島	東成區。西國、只脇、別所、上ノ辻、今市、千林、北清水	一六八	同	四、三、一五		
北船場	東淀川區。北大道、西大道、小松、江口、上新庄	二七八	同	四、五、二七		
神崎川	東成區。上ノ辻、只脇、北清水、今市、森小路、南島、生野、江野、中宮、東	六	同	四、七、三		
京阪沿線	東淀川區。北大道、西大道、豐里	二七三	同	四、八、三三		
崇禪寺	東成區。關目、蒲生、野江、森小路、南島	三〇	同	四、八、二四		
西中島	東淀川區。山口、飛鳥	二七〇	同	四、九、九		
西田邊	東淀川區。西山口、南方、木川、濱ノ町	二三	同	四、一〇、一〇		
今福	住吉區。西長居、東長居、南田邊、西田邊、住吉	二四二	同	四、三、七		
片江中川	東成區。今福、放出、千林、今市、鶴見	二〇〇	同	四、三、二四		
大宮	東成區。片江、中川	五〇	同	四、三、二七		
墨江第三	東成區。森小路、南島、生江、江野、中宮	四七	同	五、三、二七		
住吉園南	住吉區。南濱口、澤ノ町	三六	同	五、四、五		
傳法	住吉區。濱口	九	同	五、四、八		
阪神國道沿線	西淀川區。姫島、傳法	五三	同	五、四、一四		
榎並莊	西淀川區。御幣島、加島、野里、佃、大和田	二六〇	同	五、七、一		
平野	東成區。中宮、江野、南島、內代、生江、赤川	一、〇〇〇	同	五、三、一一		
	住吉區。舊平野鄉、今市、今川、杭全、中川、生野、田島					

大阪市に於ける耕地整理組合關係事項一覽表

組合名	施行地區	地區面積	認可年月日
今宮村第一	元今宮村	三八町三	明治四三、二、七
城北村榎並村	元城北村、榎並村	一〇、四	同 四四、一、三五
今宮村第二	元今宮村	一四七、三	同 四四、四、二八
住吉村第一	元住吉村	五、七	大正二、二、三
天王寺村	元天王寺村	二九、七	同 三、三、一三
大道	元大道村	三〇、六	同 三、五、九
鶴橋	東成區。猪飼野、木野、大今里、中道	一六六、一	同 八、三、一九
古市	東成區。南島、森小路	四九、一	同 三、三、二六
田邊	住吉區。南田邊、北田邊	一三三、八	同 三、七、三
神津	東淀川區。十三西、東、南、三國、木川、西今里三津屋、三國本町、堀上	二二六、〇	同 三、一二、五
小路	東成區。片江、大友、腹見	二〇八、六	同 四、三、四
住吉神一	住吉區。住吉町	四、八	同 四、四、二二
住吉第二	住吉區。住吉町	一〇一、九	同 四、五、四

（以上）

東京と大阪とを比較して

黒田鵬心

○

建築と都市問題と云ふ題目は、建築が都市の美觀に對しても、都市生活に對しても、換言すれば都市の材料形式、内容に關して重要な役目を持つてゐるだけに、頗る重大な問題である。私は茲に其の一部分たる美觀に關して東京と大阪で最近目にふれた點を二三漫談的に述べてみやうと思ふ。

○

六月の末から七月の初にかけてフランス繪畫や玻璃器の展覽會の爲め二回大阪に用があり、現に此の原稿も堂島川に沿ふた旅館の一室で前に日本銀行、左手に大阪市廳を眺めつゝ艸してゐるのである。

日本銀行大阪支店は確か辰野博士の作だと思ふが、如何にも東京の本店に似てゐる。本店は辰野博士の傑作だと云はれてゐるが、支店もよく似てゐる。堂々たる市廳の前に低い二階建なので貧弱のやうであるが、飽まで地味に眞面目な建築である。

○

大阪市廳は中央に高い塔を持ち大江橋畔中之島の一偉觀であるばかりでなく、大阪市の主要建築の一つである。誰の設計か知らないが塔の恰好も悪くなく、全體として整つてゐるが、何となく形式が主で内容のない様な感じがする。この點で却つて小さい日本銀行が重味のあるやうに見えるのはどう云ふ譯であらう。

○

更らに右手を眺めると江商ビルを距てゝ朝日ビルが將に竣工せんとしてゐる。渡邊橋畔に十二階建の堂々たるものであるが、之はモダーンな樣式で角を曲線とし、屋上には東京朝日のやうな新しい小塔が出來るやうであるが、此の建築で問題となるのは色彩である。

都市の建築の色彩は、都市美の上で重要な問題であるが、朝日ビルに於いて何故特にそれが問題となるかと云ふのに、隣の朝日會館が既に出來て居り、それが黒い色彩を持つてゐるからである。

○

數年前に朝日會館が出來たとき其の黒い色は多少の問題となつてゐた。しかし當時は隣の瓦斯會社の建築は二階建であり、黒と金との調和は中々よいので、獨立した建物としてみれば、相當の面白味もあつたのである。

すべて樣式でも色彩でも獨立した建物であれば、特殊のものも許されるし、又おもしろいものであるが、都市の建築にあつては建築群としての美を考へねばならぬ場合が多い。例へば大阪市廳などでは殆んど獨立してゐるので特殊な樣式や色彩もある程度までは差支ないと思ふ。

○

朝日會館はその點に從來多少批難さるべきものであつたが、今度隣へ朝日ビルが出來ることになると誠に困る。殊に同じ朝日新聞社經營の建築であつてみれば、本當は兩者の調和を計る上には非常に都合がよい譯であるが、朝日會館の色彩が黒であるだけに困るのである。まさか朝日ビルも同樣に黒くは出來まい。若しさうしたらば將來近くに國際ホテルが建てらるべき中之島の一角、渡邊橋畔に二大黒怪物が出現する事になる。これは恐らく朝日の當事者も困つて居らるゝだらうと思つて、上野取締役會長に會つたのを幸ひ此點を御たづねしたらば、白と金とでゆくとの事。白と金とは上品で結構であるが、會館の黒とビルの白との對比はどうであらうか。金は兩者を通づる點で共處に調和を作る

のは結構である。何れ竣工してから又改めて意見を述べる機會もあるだらう。

○

洋風建築の間へ、軒の出た破風のある日本風の建築の交ずることもよくない。嘗ては東京の日清生命がそれであつたが、震災で燒けて、今度の新築はどう云ふ樣式であるか知らないが、日本風ではないらしい。歌舞伎座も近頃道路が廣くなつたので、數寄屋橋の方からあの破風造が見えるが、他の建築との調和が惡い。歌舞伎劇を主に演ずる劇場として日本風をとる事は一應望ましいことであるがそれが獨立してゐない場合には、他の建築との不調和が困る。

大阪の文樂座が洋風建築である事や、東京の水道橋の能舞臺の外形が洋風建築である事は、內容から見ては變である、應はしくないと云はねばならぬ。

○

最近審査の結果を發表した帝室博物館の懸賞設計も、日本風をとるといふ條件が問題となつたが、日本及東洋の美術品を陳列する日本の美術館として其の建築が日本風であることは誰しも望ましいに違ひない。しかしそれを設計の條件とした事には私は必しも贊成でない。といふのはまづい日本風よりもうまい西洋風が優るとも云へるし、また混凝土建築で日本風の恰好や細部をつくるといふ事も材料、構造の上から疑問がある。鐵と混凝土の材料は自由に使へるからと云つて、木造に必然的の構造を模するのは考へものである。

○

今建築中である大阪城の天守も問題である。これは今更天守を造るといふ事の是非が根本の問題であるが、假に再建を可としても、鐵筋混凝土で造る事はどうであらうか。これは大體舊態を復活するつもりであらうが、名古屋城や姬路城その他の桃山城廓の美が細部までもうまく現はれるであらうかこれも出來上つた所を拜見しなければわからない。

高野山の金堂も混凝土で再建中だと云ふ事である。これは全部木で包むとか聞いてゐるが、果してどんな表現となるであらうか。組物などを裝飾的に木でつけるのは考へた丈けでも面白くない。

斯う云ふ風ではやがて五重塔の再建も混凝土でやる事になるかもしれないが、私は贊成出來ない。

○

歐洲の都市に大きな本寺があつて中世から都市美の焦點をなしてゐるやうに、我が國では城の天守が都市美の焦點をなしてゐる所が少くない。大阪城の天守再建もそんなつもりかもしないが、歐洲の本寺は大抵中世の建築であつて、近世から現代へかけては議院建築や市廳などが都市美の焦點となつてゐる事を忘れてはいけない。

○

大阪の市廳の事は前に述べたが長く府廳の居候となつてゐる東京の市役所の建築も具體化せんとしつゝあるやうである。これは早晩實現させねばならないが、首府としての東京が當然有すべき議院建築は今や其の雄姿を現はしてゐる。高い敷地に高い塔をつけたので可なり遠くから、又諸方から其高塔が眺められるのは、代議政體の首府として漸く具體的の資格を得たものである。其恰好は上乘とは云へないが、さう惡くもない。正面から近づいて見た事がないので十分の事は云へないが、これも機を見て十分述べてみたいと思つてゐる。

○

不景氣時代のせいか、大阪では大きな建築の工事中のものが少いやうである。國際ホテルの模型を新聞紙上で見たのは最近に着手せらるゝ主なものであらう。東京の方は警視廳が將に竣工せんとし、白木屋の增築も大に進捗し、日本銀行の增築、日本生命館、第一生命、明治生命、文部省など皆起工せんとしてゐる。

今迄の東京市の復興は道路と橋梁とが主で、平面的に過ぎなかつたが、これから立體的に建築の復興に進まんとしてゐるのは喜ばしい事である。たゞその樣式、色彩、設計の善惡等は注目すべき點である。

(七・一二・歸東の汽車中ペンを擱く)

都市と住地と住宅

加藤善吉

苦熱の夏に都市生活上特に考へさせられる惱みの一つは住地と住宅である。

都市の發展につれてその中樞部の人口は年とともに郊外に移動しつゝあるは事實である。これは明かに中樞部に於ける火災、交通、噪音、煤煙、泥濘、無味乾燥なる六大地獄になやまされて眞の住地と住宅を求め得ざる結果である、

元より都市中樞部に於て閑靜にして、快適な住地と住宅を求むることは勿論無理なことで地價の昂騰は倭小低階の建築を許さない。強て求むればアパートメントの建築であつて將來市内に於ける住居は或る程度までこの建築の發達を見ることであらうが、我が傳統的國民性は俄かにこれを甘受し得まいと思はれる。

であるから郊外に於ける住宅は今後と雖も相當に增加を見ることは明かで、住地と住宅に就ては深き傾意の必要を認める。

然らば年に何れだけの住宅が建つか、大阪府警察部建築課に就て調査して見たが、茲最近四年間の統計は左揭の通りである。

年度	木造住居建築物		石、煉瓦造建築物		鐵骨、鐵筋建築物	
	件數	延坪數	件數	延坪數	數	延坪數
昭和二年	六、五九三	二四九、三九八			三	二四二
同 三年	七、四七九	二八三、一七九			四	三八
同 四年	八、五七九	二七八、二三三			一〇	一、〇三八
同 五年	六、二三三	二〇一、二七			一四	二、五六一

之れを以て見れば住宅の建築は年々七千戸以上、其の延坪數二十五萬三千坪に達する。これ等の住宅が如何なる條件のもとに建築せらるゝか、其の建築面積と敷地面積の割合は如何、生憎其の統計を見るを得ないのを遺憾とするが、一宅敷地に於ける空地を法的極度に利用し採光換氣を不十分ならしむるもの多く、ために市街地建築物法が却て禍をなして居るとの批難さへある狀態である。

實際大阪の郊外に於ける一般的住宅發展の狀況は東京の一戸建住宅の多きに反し長屋が基範をなして居る形である。

◇

住宅は言ふまでもなく人間生活に於ける安息所であるから、閑靜採光、換氣十分で快適なるを要する故に今日の如き郊外に於ける無秩序な發展と非衛生な住宅を豫防し之れ等に對して指導統制を圖るの策を講ずる必要がある。

都市は街路に依つて結ばれた建築物の集合であるが、住地も亦街路系統の合理的なるを要する。然るに街路は國家公共團體の施設であるから比較的統制を圖り得るが建築物は各自が建築し各自の所有するものであるから指導統制に非常な困難が作ふ。

現在に於けるその指導統制の機關として地域制あるのみである。近時各國共に地域制に對しては深き考慮と其の實現には大なる努力が拂はれて居る、殊に米國に於ては都市計畫の重要眼目とせられ米國の都市計畫と云へば地域制であるかの感がある。

住居政策としては市營住宅、低利資金の貸付、不衛生地の整理、不健康住宅の改善等幾多の施設せらるゝものがある。

我が國に於ても建築物の指導統制の一機關としての地域制は、市街地建築物法に認められ六大都市を始め中小都市にも施行せられるものが多い。

大阪に於ても大正十四年四月より實施し昭和五年七月變更施行せられて居るが、一體に我が國の住居地域面積の百分比は外國に比して少ない。大阪の如きも都市計畫區域面積の三〇%に過ぎないのである。

外國に於ける住居地域の建築制限は我國と異なるに拘らず其の面積が大である。即ちフランクフルト・アム・マインの住居地域は六三%、セントルイは五七%、ニユヨークは五一%、レツチウオースは七八%、デカターは八六%の多きに達して居る。

都市に於ける住居地域の面積の少ないと言ふことは延いて一宅地に於ける空地面積を少なくする虞れがある。現行の住居地域に於ける一宅地に於ける空地面積は其の四割と規定せられて居るが、これは最小限であつて郊外に於ける住宅はこれ位では物足らない、少くとも六割以上を欲する。

今や大阪に於ける郊外は土地區劃整理の施行盛にして、其の數五十を算するに至つたが、就中住居地域内に施行せられ又は既に工事完了したものを擧ぐれば、大阪に於ける本事業の嚆矢たる阪南土地區劃整理組合を始め天王寺、股ケ池、生野、墨江、住之江、西長居、西平野、平野、西田邊、鷹合等あつて住地の開發を期しつゝある。

◇

かくの如く大阪の郊外は住地が準備して待つと雖も、そこに建築せらるゝ住宅が空地が少くこれ等の住地環境に不適當な場合に於ては折角の努力も水泡に歸する譯だ勿論住宅は其の程度に差があるから一律に之れを制限することは不當かも知れない。現行我國の地域は何れの住居地域と雖も其の制限同一なるがために部局的に空地の制限及高さの限度を特に指定し得ない。米國に於ける地域制は用途、高度、面積と別に指定し得るがために其の機能を十分徹底的に發揮せしめ得らるゝのである。

今回内務省に於て市街地建築物法施行令を根本的に改正することになりたるを機會に、特に區域を指定して高さ及空地の限度を定め得らるゝやうになることは新聞紙の報ずる所である。

即ち既に新聞紙上に發表せられた内務省案を見れば施行令第十一條に『行政官廳土地の狀況に依り必要と認むるときは、特に區域を指定し、その區域内に於ける建築物の敷地内に存せしむべき空地の限度を定むることを得』とせられてある。

これを以て住居地域と雖も其の位置、地勢、環境の如何等を考慮して其の高さの限度を定め而して又一宅地に取るべき空地の面積を、或は六割となし或は八割の制限となし得るのであるから、現行の規定に不徹底ながらも幾分の融通が加味せられた譯である。

大阪に於ける住居地域の面積は二千萬坪を超ゆるも眞に閑靜にして住地として最も適合するところは其の五分の一にも當らない。

◇

今大阪都市計畫區域内を展望して、住地として誰しも認むるものは北は千里山丘陵地及附近一帶であらう土地高燥、風物快適、將來高級住宅地に好適し、其の一部は既に住宅の建築を見る外、京阪電氣鐵道株式會社の經營に依り千里山住宅地、垂水住宅地及大學前住宅地其他一ヶ所開發せられて居る。

千里山住宅は京阪千里山線千里山停留所を玄關とせる附近一帶の小丘を整理した土地で、總面積十七萬坪土工完成區域十四萬坪現在



千里山住宅地

既成住宅約五百餘戸上下水道の設備ある所である。

垂水住宅地は其の面積七千六百坪、關西大學前住宅地は一萬七千坪何れも上下水道の設備がある。

南は住吉區杭全町に於ける現在幅員十八米の通路（都市計劃街路幅員三十米）に接する西平野土地區劃整理施行地區面積四萬坪餘、上下水道の設備がある。

又南海鐵道平野線、大阪鐵道線及阪和電鐵線に沿ふ天王寺土地區劃整理施行地の一部と阪南及股ケ池土地區劃整理施行地區の一部及田邊耕地整理施行地區の一部分と又京阪電氣鐵道株式會社經營に係る鶴ケ丘住宅地を含む一帶の土地で、股ケ池及長池附近は昭和三年五月三十一日都市計畫として決定した股ケ池及田邊公園を含む理想的住宅地である。



鶴ケ丘住宅地

◇

更に住宅地として好適なるは南海鐵道阪堺線及上町線に沿ふ天下茶屋より住吉に至る土地起伏せる高臺で、樹木繁茂し既に住宅地として發達し大阪第一の高級住宅地で其の面積約四十五萬坪である。

更に南しては昭和三年五月二十九日都市計畫として決定した街路及臨南寺公園に接續する高燥な土地がある、其面積約五萬坪あり。

之れを市内に求むれば既に前述したる如く地價の昂騰と利用價値に支配せられて眞に理想的住宅地として現存するもの少ないが。先づ天王寺區北山町、石ケ辻小宮町　松ケ鼻を含む一體と市電小橋西之町以北の一地區は土地高燥で市電に近く、交通至便、市内に於ける住宅地として好適な位置で日常生活に最も利便であり既に高級な住宅が集合して居る。

先づ大體以上揭げた位のものであり之等の住宅地が現在一敷地に幾何の割合に建築面積を取つて居るかを調査して見たのであるが其の結果は次の通りである。

千里山住宅地の敷地坪數と建築面積との割合を示すこの數字は同地に於ける五十戸に就いて調べた平均數である。

敷地坪數	建築面積	敷地と建築面積との百分比
五三坪九	一六坪七	三一%

關西土地株式會社經營に係る西平野土地區劃整理地の住宅六戸の例に就いて見るに

敷地坪數	建築面積	敷地と建築面積との百分比
六三坪七	一七坪二	二六%

鶴ケ丘住宅地五戸の平均を揭げれば左の通りである。

敷地坪數	建築面積	敷地と建築面積との百分比
七九坪四六	三三坪〇四	二九%

以上數例を見るに計劃的に整理統制せられた住地に於ける住宅建築は相當の注意を拂はれ空地面積約七割以上を保有して居る。

これ等の事實に徴しても住宅としては宅地に付き少くとも七割位の空地を取ることの必要があることは明瞭であるから、今後開發せられ或は發展せんとする郊外住地の建築に就ては、之等の關係を考慮すると共に、現行住居地域以外に更に理想的住宅地の構成に寄與せむとする改正市街地建築物法施行令の實施せらるゝに至れば、同法に依る區域指定の實現は今日の如く敷地を制限一ぱいに利用せんとする傾向あるとき最も時宜に適した處置であり、吾々の惱みの一つを幾分でも柔けたいものだと思ふ。（完）

濠洲シドニー港の對岸連絡計畫に就いて

宮飼克二

はしがき

シドニー港は人も知る濠洲に於ける唯一の貿易港であつて、羊毛の輸出が盛んで吾國とも直接關係の深い港であります。之等の貿易關係で目下約百餘名の日本人が同地に居留して居るとの事です。同港附近は山と海とが迫り、海岸線の凹凸甚だしく、海港として格好の地勢を占めて居ります。

この入海に接して發達した同港の市街は入海の南岸でありましたが、郊外である對岸(北岸)が漸次發展して北シドニーとして大きな市街になつて來ました。即ち在來の市街は港を主としてビジネス地域となり、北シドニーは主に住居地域として發達し、港を挾んで兩岸の交通は次第に輻輳して來ました。(第一圖)

港や河の對岸連絡は我國でも昔から平底船を以て人や車を渡して居つた樣に、シドニーでも挿圖の樣な大形の平底汽艇を用ひて自動車二三十臺を一度に對岸へ渡して居ります　之を半抱して待合すのに自動車が二列になつて四分ノ一哩も列を作る事は珍らしい事ではないと云ふ事です。この交通整理には矢張り交通巡査の御厄介になつて居ります。(第二圖)

處が二十世紀の初め頃、ヘンリー・パークスと云ふ人が彼の選擧演說に於てイタリーのホラチナス・コクレスがローマの市民に叫んだ言葉

"Now whow will stand on either hand And build the bridge with me."

を劇的に解釋した事に依つて、選擧人の興味と期待とを動かした事が動機となつて、シドニー港頭に對岸を結ぶ『ハーバー・ブリッヂ』が計畫されて、一九二二年この橋の構造に對する條件認可の件が通過して、虛構が遂に事實となつて現れて來ました。

そしてシドニー市と同市北岸との間に乘物或は徒歩に依る交通が鐵道に遮らるゝ事のない自由な廣い高架道に依つて用意されて居るこの大アーチ橋は、單にオーストラリヤ聯邦の一大偉觀であるばかりでなく、實用的にも、又經濟的にも、實に驚くべき大工事であります。

第一圖　シドニー北から見たアーチ工事中の橋



第二圖　渡船と渡船を待つ自動車





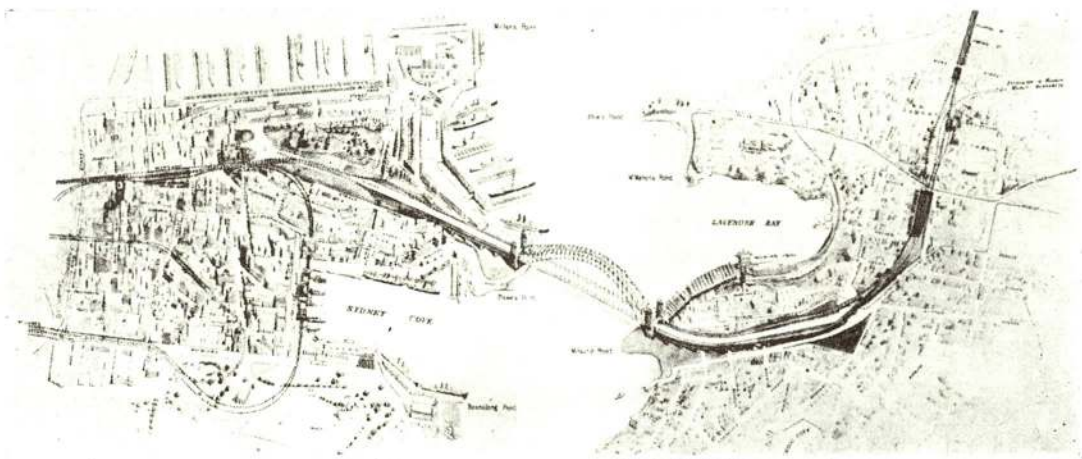
ラリヤのみならず世界的の興味を呼び起し、今や一九三一年を期して完成せんとして居ります。之等に就て紹介する事も、あながち無益な事でないと信じ拙稿を起しました。御判讀願へれば幸甚です。

橋か？海底トンネルか？

最初の立案に當つて、研究の結果この港を横斷するのに可能な方法は、ハイ●レベルの橋か又は海底トンネルかの二つでありましたが乍然、橋に依つて越す事の賛成の方が壓倒的多數でありました。又シドニー市及北岸の人口增加が、ハイレベル橋に依つて一層役立つばかりでなく、同一の交通力を持つ海底トンネルよりも工費に於て非常に安價であり、交通者にとつては新鮮な外氣や日光によつて悦ばれ、港の展望も出來、サブウエーに於て當然必要な排水とか連續的點燈などゝ云ふ面倒な問題が全部不必要であります。

橋の位置選定

さて、ハイ●レベル橋として港を超えるのに、左の三つの位置が候補に擧げられました。（第三圖）



第三圖　シドニー港鳥瞰圖

1 Dawes Point→Milson's Point（圖中々央）
2 Fort Macquarie→Kirribilli（圖中下方）
3 Miller's Point→McMahon's Point（圖中上方）

第三のミラース岬では船舶の航行を妨げないだけの構造とするには、途中二ケ所のピヤーが必要であり且つ延長二二五〇呎の高價な橋を作らなければならないのでありました。第一、第二の場合では何れも途中ピヤーなしで、一六〇〇呎スパンの橋で港を架渡する事が出來るのであります。

けれども第一のダウエス岬よりミルソンス岬への場合は、他の何れの二つの位置に於けるよりも北郊の人口周密に非常に役立つものであり、工費も最も安く出來、且つ道路や鐵道が橋詰に連絡するのにも非常に便利が多いのであります。

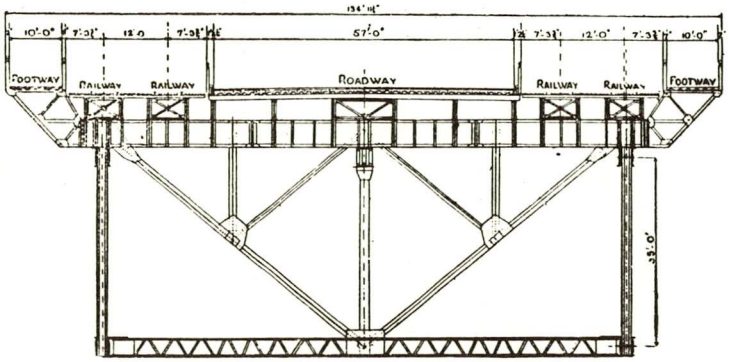
船舶の航行

橋を架渡するのに第一條件として、外國貿易に於て今日シドニーは濠洲第一位にあるがために、船舶の通行の妨げとなり又は其他の貿易上から邪魔となる様な事は一切出來ないと云ふ事であります。

そこで桁下のクリアランスは高潮水面上一七〇呎と定められ、この明高はニューヨークのイースト●リーバーに架せられたブルツクリン橋を初め諸橋の桁下に用意された寸法よりも三五呎多く、又英國のフオース橋や、カナダの大ケベツク橋などよりも二〇呎多いのであります。從つて橋のデツキ路面は少くも水面上一九〇呎を必要とし、鐵道や道路をこの高さで結び付けなければなりません。

交通の便宜と荷重

世界のキヤピタル都市に於ける急速なる通過客輸送の趨勢に從つて、この橋に四條の電氣鐵道が用意され且つ乘物通行には六大道路に對應するだけの道路が出來、更に各一〇呎巾の歩道が二筋附けられます。車道は巾五七呎で中央に



第四圖　橋詰高架桁の斷面圖

設けられ、各二條の鐵道が其兩側に設けられ、歩道が更に鐵道の外側に設けられます。（第四圖）

この橋の交通量の最高キヤパシチーは、毎時一六八回の電氣列車六、〇〇〇臺の乘物（主として自動車）及び四〇、〇〇〇人の歩行者でありまして、この全能力を發揮する時にもこの設備は港の北郊に百萬の人が住つても、シドニーとの間の交通は容易である樣に充分に用意されてあります。

この橋のメイン・アーチは延呎に對して一二、〇〇〇封度の活荷重を負擔する樣な設計になつて居り、風や溫度の影響は勿論、全速力で走つて居る列車が何かの事變で急停車をした場合の結果も豫想して用意されてあります。

又この橋の使用鋼材の總重量（死荷重）の內で架構のために要する分は六二・五%で、活荷重と衝擊に要する分は二五%、風壓と溫度の影響に對しては一〇・五%、そして列車の突然の停止のために起る縱力に對しては二%であります。

橋の工費

工費の概算としては

アーチ橋＝四、三三九、五三〇磅

拔出し橋＝四、七〇四、八四〇磅

アーチ橋に對する最低入札額＝四、二一七、七二一磅餘

釣橋に對する最低入札額＝五、〇九一、二〇二磅餘

と云ふ事でありました。之は橋詰工事共であります。

そこで審査の結果、二拱鉄式アーチ橋が最も適當と認められ豫算は最も安いものが決定される事となりました。即ち四百餘萬磅で邦貨四千百餘萬圓と云ふ事になります。

一九二四年英國のドルマン・ロング會社は右の金額で、アーチ橋と兩岸橋詰の各五梁間の鐵骨高架橋共で合計延長三、七七〇呎の構造と建方とを引受けました。

橋詰（アプローチ）に就て

橋を渡る四條の鐵道は臨港驛附近でミルソン岬線と結ばれます。この鐵道は鐵筋コンクリートのアーチに依つてユーロカ街を超え、鐵筋のガーダーに依つてバンク街を渡り、そこを過ぎるとすぐに二つの複線トンネルの中に入つて、グレイスウエイに、イングランド・

第五圖　北橋詰附近の鳥瞰圖



グランマー・スクールの敷地にある教會や、ブリユーポイン道路の下を過ぎて初めて第一番目の停車場『ショアー』に現れます。この驛はミラー街とウオーカー街との間に開かれ、ウオーカー街とアルフレツド街との間には四本の單線トンネルがあつて貨物列車の待避線となつて居ります。

次のキルリビリ驛が舊北シドニーの役所前にあつて、それから高架橋でアプローチとなつてハーバー・ブリツヂに連つて居ります。分枝點から此處までの距離が二哩三三鎖であります。（第五圖）

次にシチーサイド（南岸）の橋詰道路はドライツト街で始まり、ヨーク街はドライツト街から北方は巾八一呎に擴げられ、ケント街はナポレオン街から北方ガス・レインまで矢張り八一呎に擴げられるので、ヨーク、クレレンス及びケントの各街はグロスベナー街の近くで半圓形の廣場を作つて橋詰廣路と結ばれます。

この廣路の車道は巾八〇呎で兩側の歩道は各一六呎あり、之れがブリンセス街から橋詰のアーチ型高架橋まで連ります。そしてヨーク街ケント街等が出合つた半圓形廣場で、左右對照的に二つの小公園が出來ます。（第六圖）



第六圖　南橋詰廣路前の小公園

橋詰高架道は、鐵骨の五スパンの次かコンクリートアーチの三スパンとなり、更に長い擁壁となつて、アルギール・カットをコンクリートアーチで超えてから四條の鐵道線路は、橋詰廣路の下を縫ふて地下鐵となつてヨーク街下を進み、ウンヤード驛に入つて各方面の地下鐵と連絡する事となります。此處のヨーク街を擴げるためには一八二六年にチヤーチ・ビルの上に建てられた古い地標のあるスコツト教會の破壞が必要でありました。（第七圖）

北岸に渡つてキルリビリ驛では道路巾が五七呎で一對の複線鐵道によつて挾まれ、驛は挿圖（第五圖）に見る如く道路の兩側にプラツトフォームが設けられ、道路下の待合室に依つて結び付けられて居ります。

こゝでは道路は鐵道よりも急傾斜で下り、ジヤンクション街附近で普通の路面に下つてしまひ、アルフレツド街と連り鐵道の下を潜つて左右に出てしまひます。此處のアーチは、一方は二二〇呎スパンの鐵骨アーチで、他の方は一二〇呎スパンの鐵筋コンクリートアーチとなつて居ります。（第五圖）丁度鐵道と道路との取扱が南岸と北岸とで正反對となつて居るのであります。

アーサー街とアルフレツド街との間では、客車線、貨物線共高架の上を走り、この高架線はピアーで支へられたコンクリート包みのスチール・ガーダーで成り立ち、全て防水裝置を施して砂利敷の軌道として差支へなき樣になし、その下を貸商店としてあります。（第五圖）尙各一〇呎の巾のある橋上の歩道は、バルトン街に至つて出てしまひます。

第七圖　ウンヤード驛附近の地下鐵工事



橋の構造

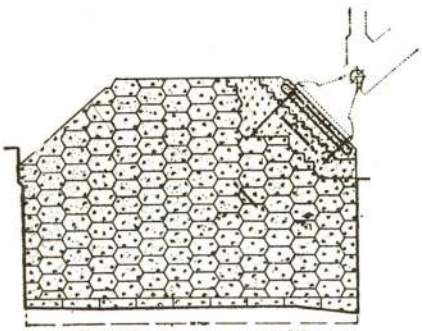
メイン・ブリツヂは大體前述しましたが、その構造は九八呎六吋

の間隔に置かれた二つのシリコン・スチールのアーチに依つて出來て居り、そのスパンは一、六五〇呎で、下弦の中央頂部で三五〇呎の登りになつて居ります。頂部に於けるトラスの深さは六〇呎、支點に於ける深さは一八七呎九吋で基準線から上弦の中央に於ける鐵骨の最高部までの高さは四三七呎六吋あります。

各アーチ・トラスは、シングルのブレーシングを持つた二十八のパネルに分たれ、二つのトラスの間には上下夫々にラテラル・ブレーシングが用ひられてあります。

主要材は全てシリコン・スチールで　最も重いアングルでは一二吋×一二吋×一吋四分の一、最も厚いプレートでは二吋八分の一、最大リベットは徑一吋三二分ノ九と云ふ何れも帶外物で、橋全體のスチール・ウオークが五〇、二〇〇英噸、メイン・スパンだけでは約三七、〇〇〇英噸であります。

各アーチから夫々のスチール・ペデスタルを通じてコンクリートの拱座へ來るスラストは四四、〇〇〇、〇〇〇封度（約二〇、〇〇〇英噸）で、平方吋當り八〇〇封度として傳へて居ります。この拱座は鐵筋コンクリートで作られ、ペデスタルから來るスラストを六角形の硬質砂岩で積まれた基礎へ傳へて、平方吋當り二〇〇封度（平方呎當り約一四噸）を超えない様に作られてあります。（第八圖）



第八圖　橋の拱座基礎斷面圖

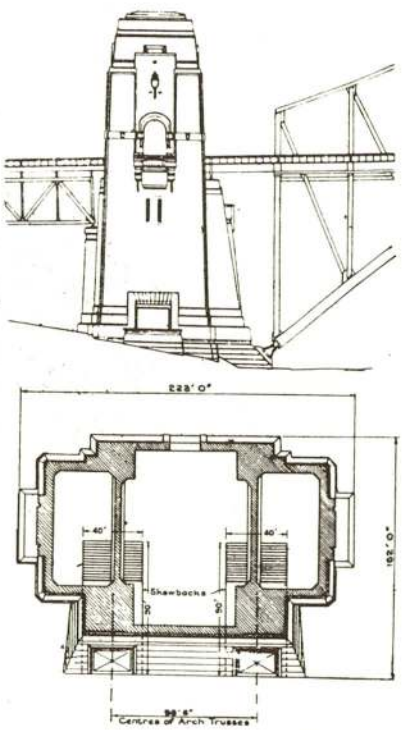
橋塔に就て

簡單で而も優美なる花崗石仕上げの橋塔は、此橋梁に於ける建築的形態でありまして、アーチの曲線とよく調和を保ちそしてこの橋に對して特異性の感觸を與へて居ります。

便郵局の塔頂と、北シドニーのシドニー教會の旗竿の尖端と、この橋塔のトツプとが殆ど同一レベルで、この橋塔の頭は平均水面上二八五呎あつて、この重味でアーチ・スラストに對するリザルタントを確かりさして、拱座の基礎を小さく極限する事が出來て居ります。

橋台塔は地盤からデツキ・レベルまでは外法りで巾二二三呎長一六二呎あり、中は長方形のコンクリート・チヤンバーとなつて、その中に橋の方向に對してコンクリート造の間仕切を設けて一層丈夫にしてあります。

デツキ路面から上は二個の橋塔となつて、各八一呎×四七呎の廣さで中空の鐵筋コンクリート構造となり、外側の鐵道線と歩道とが通るアーチ形の出入口が作られてあります。（第九圖）



第九圖　橋塔姿圖及平面圖

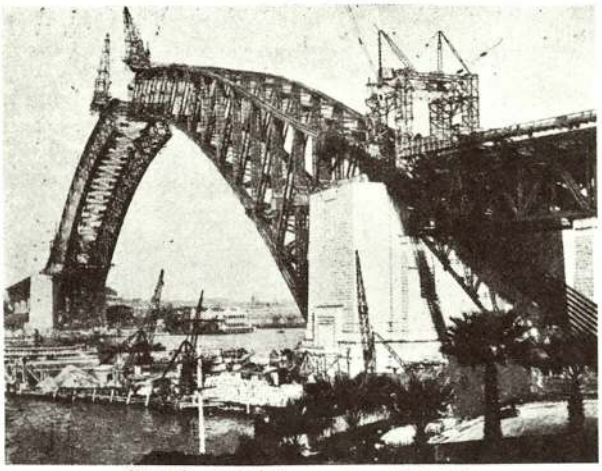
工程と架橋方法

一九二八年五月に兩岸の各五梁間の橋詰高架が先に出來て、その頃から最も興味のある港を横斷するアーチ・スパンの工事が初められました。

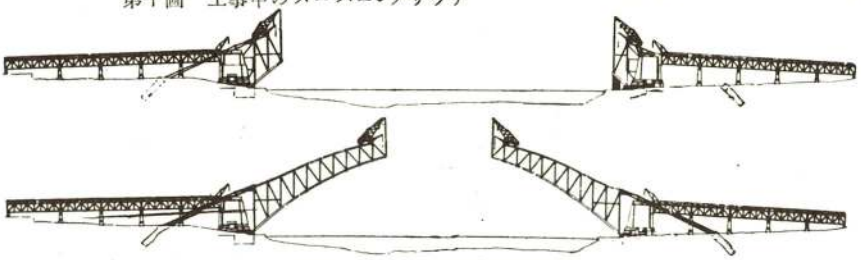
橋台塔の上には鐵骨足場を設けて二五噸の起重機が、最後の仕事であるメイン・アーチのデツキが取付けらるゝまで殘され、之はメインアーチの上を這上る起重機を支へるのに必要なもので、この這上り起重機の方は五七〇噸の自重で、一二〇噸のものを引上げる事が出來ます。（第一〇圖）

架橋方法は第一一圖の上圖右岸

の如く、先づ第一のパネルを組立て、其上に這上り機を据え、第二のパネルを組立てますと這上り機はこの上に進みます。此時には組立部分が前方にターンするのを防ぐ爲に、之に均衡するだけのケーブルが岸から引張られます。（第一一圖上左）かくして何等の足場を用ひずにアーチ自身を足場として次第にケーブルを增しつゝアーチを繼足し、這上り起重機が上に登つて、最後に中央で兩方を出會はしむる方法であります。材料運搬は全て船が利用出來るので便利であります。（第一一圖）

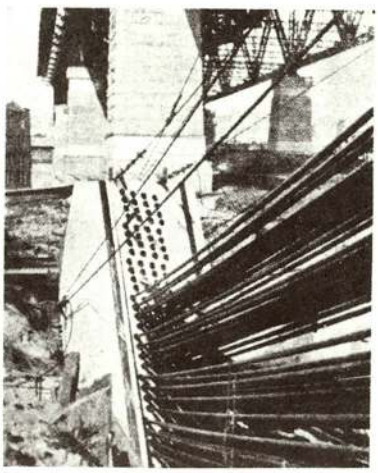


第十圖　工事中のハーバー・ブリッヂ



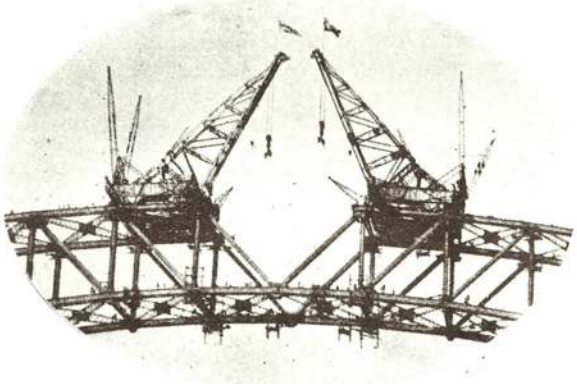
第十一圖　架橋方法を示す圖

このケーブルは徑二吋八分ノ七のものがアーチ一個につき片方で一二八本ですから片岸で二五六本となり、之が負擔するテンションは一本につき九一噸で最後には一〇八噸を保ちます。このケーブルを引付けるのに寫眞の如きケーブル・トンネルを設け、一二〇呎の深さのソリッド・ロックに導いてあります。トンネルは四五度の傾斜で傾斜長さは一七〇呎あります。（第一二圖）



第十二圖　ケーブル・トンネル

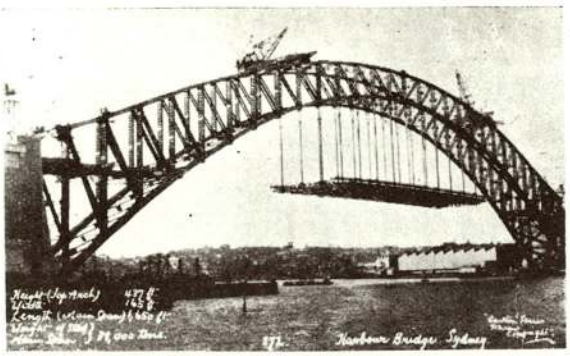
大アーチのド弦がクレーン上の大國旗の直下で無事に結び付けられたのは、一九三〇年の最も寒い時期（南半球のため）の八月一九日午后一〇時でありました寒中而も海上高所に於ける鐵骨組立作業を想像すると壯絶の極みであります。（第一三圖）



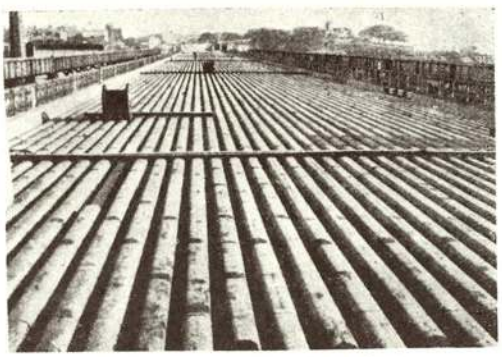
第十三圖　アーチ結合の光景

アーチの結合に依つて兩岸のケーブルは不必要となり、アーチ自身で兩岸に踏張ります。兩端はヒンヂ、中央はピン何れも巨大なものであります。

這上り起重機は今度は中央から次第に兩方へ下り乍らデッキの取付作業を初めて、遂に兩端に下り終つてデッキ取付け工事を完了します（第一四圖）第一四圖の寫眞は本年正月前後の工程實況で、目下追々と附屬物の取付及舖裝を急ぎ、橋塔も完



第十四圖　デッキ取付作業中のアーチ



第十五圖　鋪裝前の路面ヰデッキ

デツキ路面は高架橋の橋詰も亦車道も歩道も同樣の仕上げで、凹型の鋼板を渡し、この上にコンクリートを打ち更にシーセル・アスファルトを以て鋪裝されます。（第一五圖）

結　語

このハーバー・ブリツヂの竣工は、港の航行に何等の支障を生ぜず、加之多年の宿望である北郊との交通が自由に且つ速に出來る事によつて、シドニー市に多大の福利增進を促し、橋詰高架線と既設の地下鐵及び臨港鐵道との連絡、並に大道路の巧妙なる連接に依り一層その効用を發揮して發展する事は明かであります。最後にこの大計畫の實現に多大の犧牲と努力を拂つたシドニー市民と、該工事のチーフ・エンヂニアーであるジエー・シー・ブラツトフヰールド博士に敬意を表します。

附記、本稿は主として最近シドニー在勤の義兄某より贈られし左記の書に依るもので、短時日に不馴れな譯述を纏めた爲めに不備の點の多々ある所は諒とされたい。

"Sydney Harbour Bridge and City Railway."

（昭六、七、一三、明石の寓居にて）

つひへ往くモスクワの大伽籃

徳政金吾

惜しい金色堂と言つても奥洲は平泉に在る我國の光堂ではない。

七月二十日の朝日新聞紙上にモスクワ特電として「モスクワ河畔の小高き丘の上に五つの黄金の大ドームをもつて金色燦然と輝く此古きモスクワの誇りキリスト救世主大寺院はサウエート聯邦會議によつて十八日いよ〳〵取壞しと發表されその跡にそれにまさる壯大なるサウエート聯邦宮殿を建設する事となつた」と報してあり、其跡の建築は設計を懸賞で國内より募集すると附記してある。此の記事は讀者の既に知らるゝ通りである。

◇

此建築が如何なるものであるかは此切抜寫眞で解る通りデザインとしては差して特異性のあるものではない。併しながら其實質は組大の露國には珍らしい入念の工事である。

自分が此の建築物を實見した記憶は今は餘り正確に殘つては居ないが大體地盤から七八段の高さの土壇は床も胸壁も全部蒿色のフインランド産の花崗石の水磨である、外壁は伊豆の白丁場石様の石造でパラペットには彫刻物と彫像とがあつた様である。内部は壁も床も大理石の象眼式模樣で滿され磨きと言ひ据附と言ひ優秀なる仕事であるに驚た程である。併しながら是等の條件丈けでは他國人の吾々が敢て惜しむ程の事ではないが、是を惜しむ所以は朝日所報の通り五つの大ドーム、悉しく言へば四隅の小塔と中央の大塔との屋根の全部が黄金を以て張られてある事である。

◇

自分が初めて此寺院を見たのは十月



救世主大寺院キリスト

の始めで北歐の此の露都ではもう雪がチラ〳〵降つて居た。僅々三日間の滯在で此都の風光を滿喫せんと降雪の爲めに案内者の驅宅した午後を、單獨で觀光せんと雪の降る中を街上へとホテル・サボイを飛出した。彼の恐しく廣いグムの勸工場を見了つて王宮前の刑罰の廣場城壁に近く建てられたレーニンの質素なる墓場に敬意を拂ひ、美しい赤と白との小寺院の脇を通りて「クレムル宮の城門の前なる橋の上に出た時は雪は花びらに降りつのつて來た。橋上往來の人々の靴音は忙しい、時折通る馬車は石の舖道にカツ〳〵と馬蹄の音を遺して吹雪の裡に消へて行く。

橋上から水面迄は四十尺位はあらう薄黒い水は白い雪を無限に呑込んで徐々と流れて居る。

◇

橋の袂から城壁は赤黒い煉瓦の層を暴して王宮の白堊宮を抱いて河沿ふにて其壯大の輪廓を連ねて居る。橋の向側から起る川に面せる三四階建の町家は、數町にして劃然として絕壁となりて河畔に立ち、屈曲せる河流を其後に隱して居る。其對岸の家は濛としてゞ其の凹凸多きスカイラインは王宮に向つて走り、王宮の夫れと相會する點に此大寺院のドームは雄然として沿岸に聳えて居る。

折柄雲の切間より覗く西日は此橋上の旅行者に雄麗の光景を示して呉れた。夕日に輝く燦爛たる黄金の大ドーム左は白堊の王宮、右は嵯峨たるスカイライン。北の日光は總てを輝やかす。雪は亂舞する！亂舞する、此の大光明を周つて、其神秘を見せまじと、白縷の絹で包んで居る。オ、都市美！都會美！夢の國、幻の町、帝も無く勞もなく天人一如美は一切に超越する。

◇

其後再び其の場に入つて見物し案内者から此のドームの金の時價が一億萬ルーブルであると聞いて驚いたが、實際新の如く豐富に金を外部に使用した所に世界に類例がないであらう。其後見た彼の有名なストツクホルムの市廳舍の塔の上部が黄金張であるが、其れは是の大ドームと比較して爪の先程にしか當らない。

我が豐太閤が黄金を屋根瓦に用ひ又は金の延板で茶室の壁を造つた事は文獻では見たが實物は大阪府廳舍の地下より掘出した唐草の破片に本當に其の片鱗を見たに見ぎない。只日光の諸建物が吾々が持つ誇りである。

◇

此のモスクワの世界的なる金色堂が地球上から失はるゝ事は、我々から日光が消へると同樣ではなからうか？

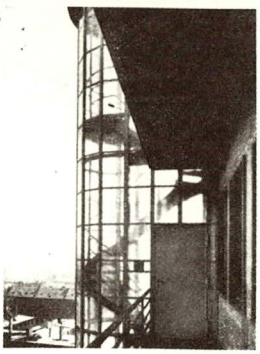
特電は其の跡により優れたる宮殿が出來るとあるが、恐らくは其れは黄金に替へるにセメントと硝子とであらう先祖傳來の佛壇を賣つて其跡に白木の位牌を置くと同格に墮するではなからうか。

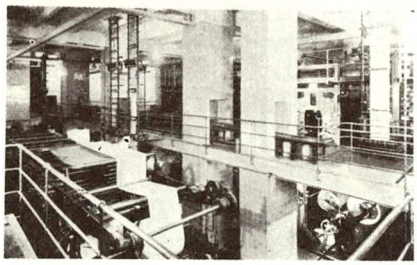
一億萬金ルーブルの地金を屋根の上に置く事は甚だ危險で又甚だ無駄の様である。併し其れは數百年の間存置されて又一面には眞僞不明の金庫内に置くより衆人環視の内に置く事は公正たる金準備ではあるまいか。此意味からしても此金色堂の消滅は惜しむべきものである。

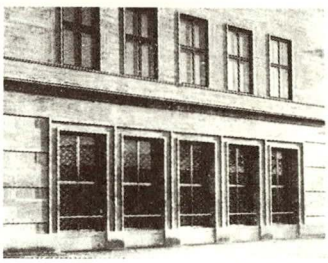

1


2


3


6


5


4

1—3 外觀　　4 街路側　　5 印刷室　　6 非常階段

獨逸・マグデブルグ　マグデブルグ印刷出版會社

設計　シエフアーハイロトスベルグ氏

切取線



ヨーギヨーセメント
品質均一優良　輸送至便
ヨーギヨー高級セメント
早期高強度　脫枠迅速

登録商標



LION BRAND

資本金　五百万円　年産　貳百廿万樽

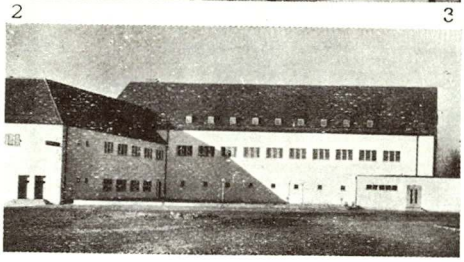
大阪窯業セメント株式會社
大阪市北区堂島濱通二丁目
電話北四一一〇至一一三番

工場　大阪市港区南恩加島町
電話　桜川一一七七・二六〇九・二八四三

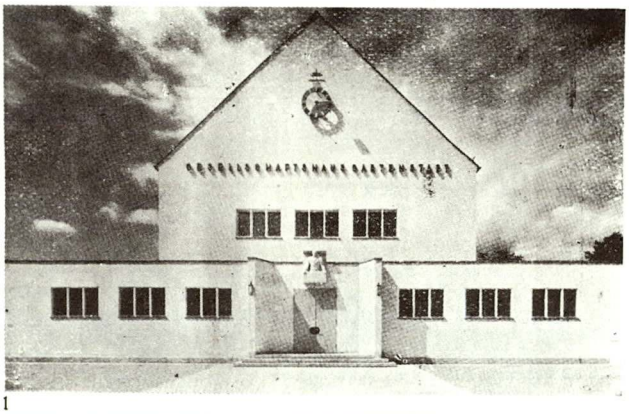
東京出張所　東京市神田区表猿楽町
京都出張所　京都市二条駅前



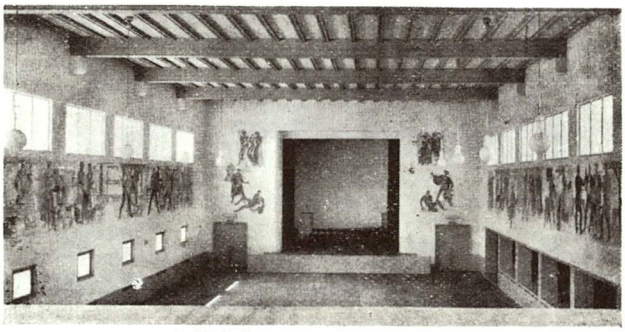
2



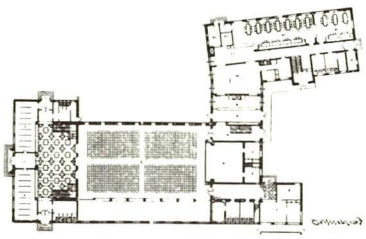
3



1



4



5

1 正面玄關　　2—3 外觀　　4 集會室　　5 第一階平面圖

獨逸・ニユルンベルグ　田園町社交會館

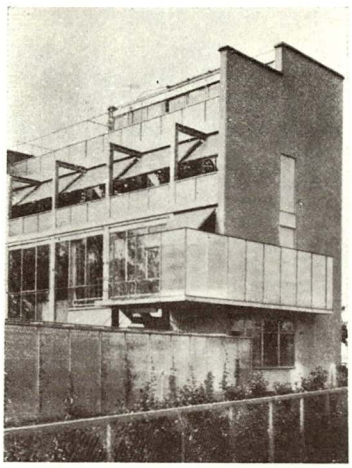
設計　カール・ロイベルト＋ハンス・レーア兩氏

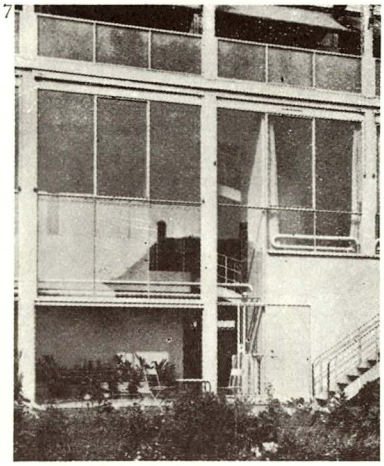
切　取　線

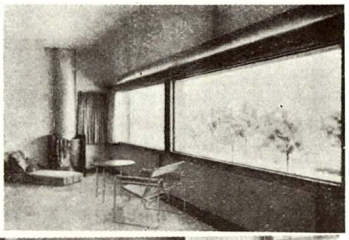
暑中御伺

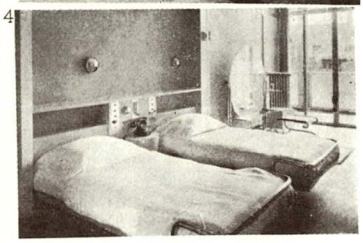
昭和六年盛夏

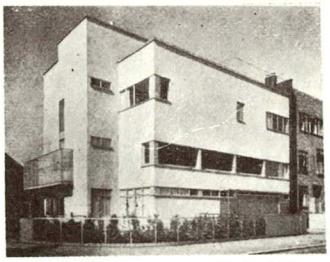
社團法人 日本建築協會

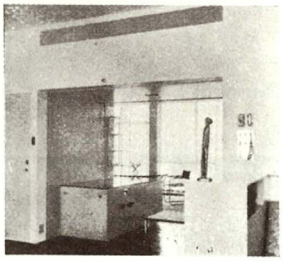

1


2


3


4


1—2 外觀　3 仕事室


4 寢室


5 居室　6 食堂

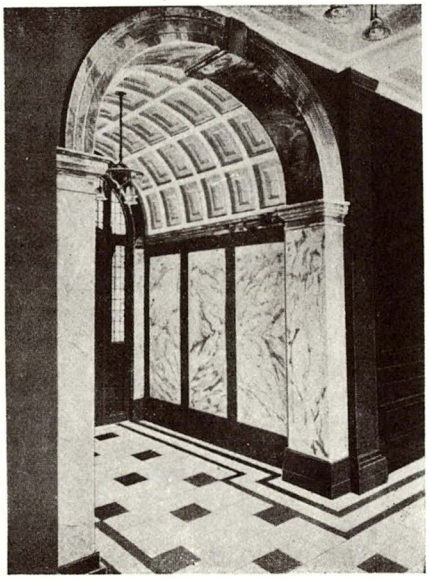
7 正面詳細

和蘭・ロツテルダム——住宅

設計　ブリンクマン＋フルークト兩氏

切　取　線

DUNLOP RUBBER FLOORING

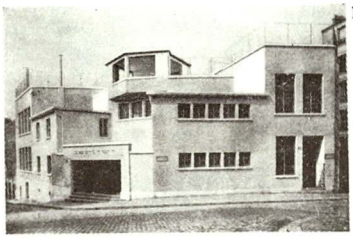


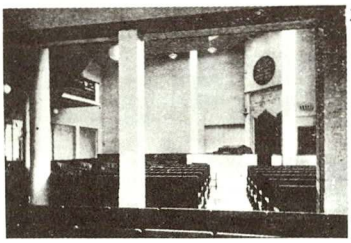


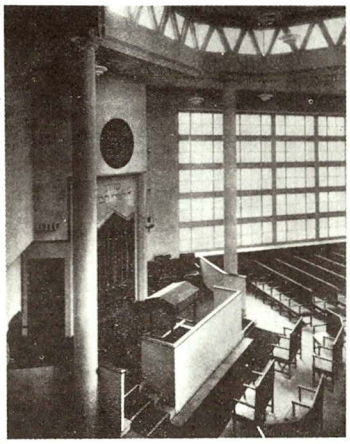
弊社製ゴム床敷は既に數多の官衙、會社、汽船並に諸家庭に敷込まれ、快適なる其の感じは御使用家各位の御滿足御賞讃を得つゝあります。
御必要に應じ何時にても社員を派し詳細に亘り御要求事項を御説明申上げます。

神戸市脇之濱
ダンロツプ護謨(極東)株式會社
各地出張所

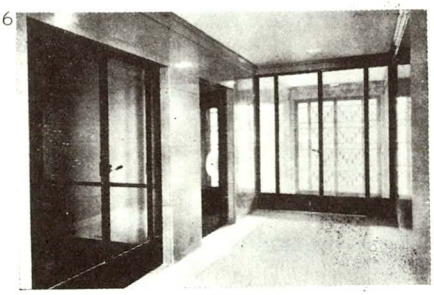
ダンロツプ護謨床敷

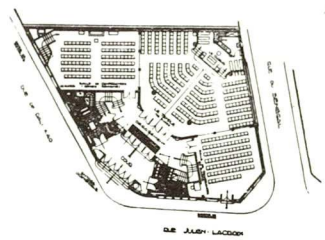






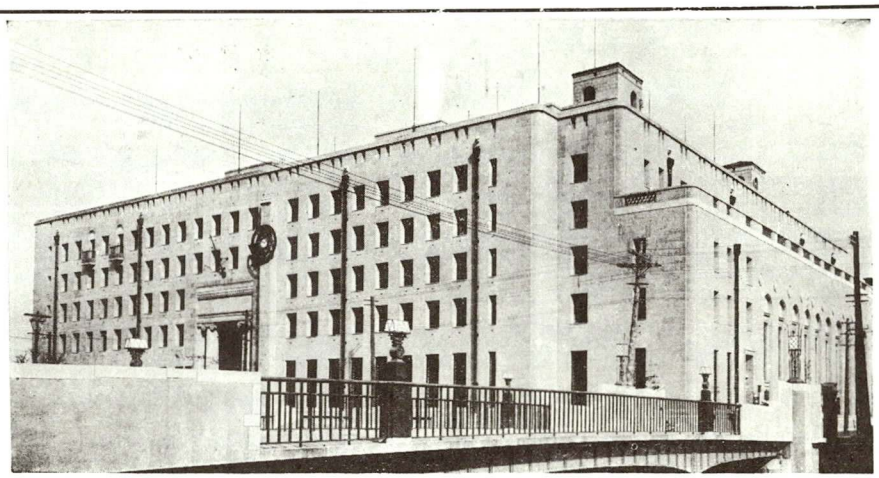






1 外觀
2—3 內部
4 平面圖
5 外觀
6 玄關

1—4 佛國 タンプル・イスラエリト　　5—6 佛國・巴里 ベルダン街アパート　　設計ニドブレ氏

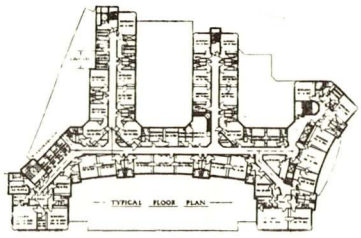


住友ビルデイング　大阪市東區北濱五丁目

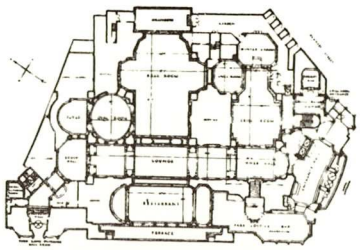
第一期工事御採用　第二期工事御採用
沼島式高級密閉上下戯障子　——(製作未開始)　本館各階側窓全部
沼島式完全バランスシヤター　本館二三四五階　本館及附屬家全部

合名會社 汎建製作所

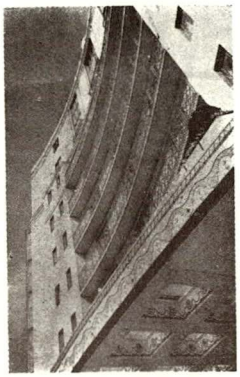
大阪市此花區恩貴島北之町拾壹番地
電話土佐堀4020
代理店　佐渡島西店

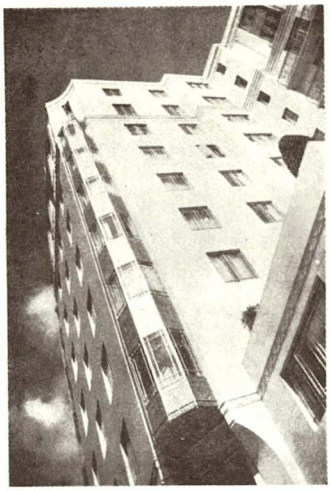


6

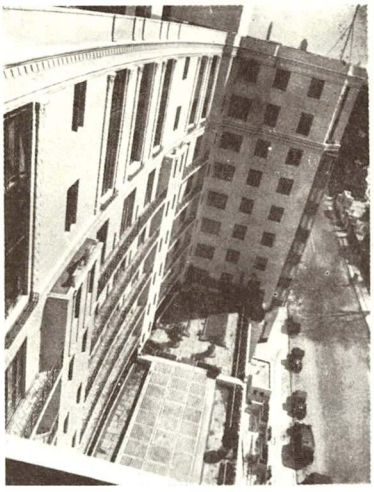


5　4





2



3

1



1—4 外觀

英國·倫敦　ドーアチエスター・ホテル

5 第一階平面圖

6 規準階平面圖

設計　カーチス•グリーン氏

切　取　線

庭園の設計と施工

庭園の合理化

庭園は其の建築物を舖裝し又建築美を一層麗し一方お庭敷の延長でありますからには庭園そのものに就ては建築物より以上に考慮を要するものでなければなりません、

所謂位置や周圍の環境に最も注意して建築の調和を最もよく保たしめ致よく自然の野趣に富んだ且つ經濟的に合理化された、心持のよい時代に適應した庭園こそ片さんの多年欲望せられつゝある理想的のものであります

當樹園工務部は新進の造園學技術と實際に應用して古き經驗と研究を凝らした超時代的獨特の設計と施工は皆さんをして充分の滿足して頂いて居ります

養樹園に生産される品と販賣品

庭園用樹
街路並木
果樹苗木
觀賞樹木
花卉球根
種子
農藝器具
農用藥品

植物生產大卸小賣

金岡養樹園

兵庫縣川邊郡山本

カタログ無代進呈

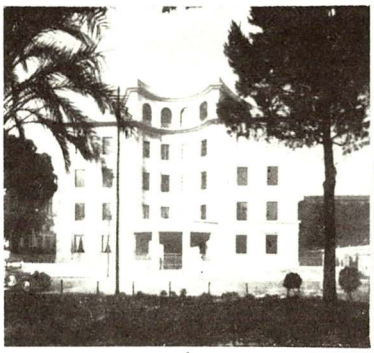
兵庫縣川邊郡山本

金岡養樹園

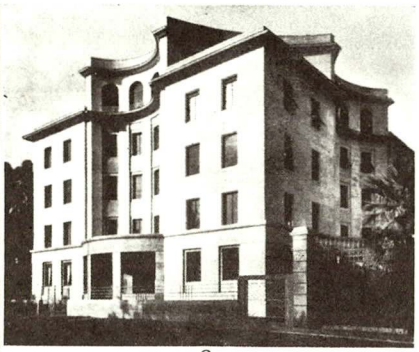
庭園工務部

電話池田一〇〇三番

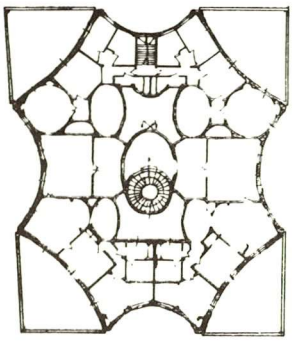
（順路阪急電車山本驛下車一丁）



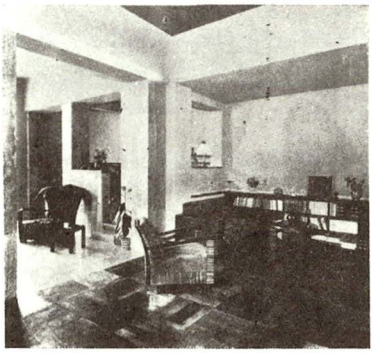
1
4



2



3
7



1—2 外觀　　3 第五階平面圖

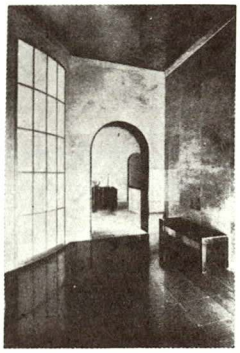
伊太利·羅馬　**チベル河畔アパート**



4 書齋



5 浴室　　6 階段



7 アパート玄關

設計　カツボニ氏

最新發明　防水工事界之革命

專賣特許

セメファルトプライマーに就て

發明者　阪口芳三郎

防水工事の施工に際し從來**アスファルト**を**コンクリート**に完全に密着せしむるには**アスファルトプライマー**（**アスファルト**を輕油等にて稀釋したるもの）を**コンクリート**面に塗布しこれに依りて**コンクリート**と**アスファルト**との密着を容易ならしむる方法を採り來りたるも該方法は某國人の有する特許權（特許第四八六三號）に抵觸するものにして識者の等しく患ひつゝある處なりしが發明者は此**コンクリート**面に**アスファルトプライマー**を塗布する事の前述の如く既特權に抵觸する事は吾が國防水工事界にとりて由々しき問題なる事に留意し何等該特許權に觸れずして猶一層有効且つ施工簡易なる**プライマー**を發見する事に努力し遂に今回優秀なる理想的**プライマー**の本邦獨自最初の特許權を穫得するに至れり。

從來の**アスファルトプライマー**は次の如き缺陷あり。

1、コンクリートが完全に乾燥せざる場合はこれに塗布する事を得ず即ち水氣の爲浮上りてその用を爲さざればなり。（施工能率低下）

2、**アスファルトプライマー**は塗布後猶相當時間の經過を待たざれば防水工事を施工することを得ず。（施工能率低下）

3、**アスファルトプライマー**塗布後防水工事前に於て降雨等ありたる時は洗ひ流さるゝ處あり。（膠着性不足、防水能力不備）

4、コンクリートと**アスファルト**との密着度弱し（膠着性小）

セメファルトプライマーは**アスファルト**と最も完全に融合する特性を有し且つ以上の缺陷を補ふべく案出せられたるものにして次の特徴を有す

1、**特性**　**コンクリート**に水氣あるも**アスファルト**を完全に密着せしむ。

2、**施工能率の增進**　塗布後一時間内外にて防水工事を施工することを得。

3、**防水性**　**セメファルトプライマー**はそのもの自身にて大なる防水能力を有するを以て塗布後降雨等の爲絶對に洗ひ流さるゝことなし。

4、**膠着性**　**セメファルトプライマー**は**コンクリート**内部へ迅速に浸透し、且其上に塗布したる**アスファルト**と強く結合する故に**コンクリート**と防水層とを完全に膠着するものなり。

5、**施工簡易**　**セメファルトプライマー**は淡褐なる液體にして乾燥早きが故に刷毛引きにて施工最も簡易なり。

別途使用

1、本劑は防濕防蟲の特性を有するが故に建築物床下等に塗布すれば衛生上最もよし。

2、右の外（糊が非常によくつく）の特性をも有する爲リノリウム下塗布用として最も推賞さるべきものなり。

發賣元

工材社

本社　〒大阪市西區京町堀通一丁目四〇番地（電話土佐堀五八〇九番）

出張所　〒東京市芝區南佐久間町二丁目三番地（電話芝二五〇六番）

『新興建築』特輯號を讀みて

丸龜市長　大須賀巖

（一）

我邦の建築は「何處へ行く」の問題は是迄可成久しい間の問題であつて、本誌上にも相當華々しい論戰も試みられたのであるが、此頃はづつと落附いて諸大家の意見なるものがほゞ同じ方向へ向ひつゝある樣に私等局外者には見られ得る。勿論今日だつて獨逸のシュスルゲンドルフにたてられたルーテル教會のモダニズムを說く者もあり、建築則機械化高唱者、國際主義の力說の聲の大を耳にせない事もないのであるが、要するに「必要は物を生む」で私共在來の建築の型を眺むる事に育つた者には化者の樣に見ゆる天體觀測室や、陸奥艦もどきの工場の種々相も板垣鷹穗氏の云はるゝ如く「合目的の中より美」を見出し「人類は美を何物を造る上にも考へなければならぬ」筈の美を新らしい樣式の上に認むる一方、原始人類が其の生活に於いて粗末な建築ながら石窟に或は木材の組合せにも或特定の美を考へて以來今日の吾々の家に到る迄の構造樣式なりが經となり緯となり、時に飛躍する事があつてもやはり歸する所は一步一步の進展に落附く事は一人建築のみではない有史以來の總べての事象であるので致し方がないと思ふ。

（二）

何と云つても現代文明の下に生活する私等は原始人であつてはならない。稍ともすると餘りに現代の複雜なる生活と虛飾の多い事に愛憎をつかして簡易化が叫ばれ、原始人の粗朴な生活の下に美の萌芽のあることから其の時代の生活を禮讚、憧憬の餘り、直ちに其の境に還つて住むで見度いと希求するのは無理もない、情ではあるが理でない。…かつて私は洋服が日本々來のものでなく又和服が今日の事務服でない點から、去る人の主張しておつた天平服を今の時代の人に着せたら如何だらうと武田五一博士と雜談の折申上げたら、先生から折角洋服と云ふ或傳統の下に發達し來つた便利なものがあるのに態々天平服でもあるまいとの一蹴に會つて全く然りであると恐入つた事があるが、折角今日迄積つもあげた夫々の文化に育まれて現出した人間の巢はもう原始人の生活を以つて間に合す事が出來ない。かうしてやりなほすならやりなほすとして今日人に與へられた材料と構造とで今日人の生活としての簡單なる建築を造るより外にない。そう考へると專門家諸君の間に有名であり且つ其の有名な爲に私共門外漢に迄耳にたこの出來る程のコルビジエの都市建築の理想構築案の如き、簡單であると同時に現代文明の利便を逃す事なく考察されておることは敬服する次第であるばかりでなく、新しい美の觀念の下に裝飾と云ふて惡ければ美化されても居るのであるがこれ許りで吾々の人生は完ふされてゐるとはどう考へても思はれない。

「建築に鐵と硝子とセメントを主材として構成され建築的機能と風土的特性とを條件として取扱ひつゝ工學的に形式を現じて來る」とは伊藤正文氏の雜誌「大大阪」第六卷第四號に書かれたる定義的言葉である。新くして國の如何を問はず今後に於いては時代すらもが區別なく國際建築としての建築の主材は統一されたと云ひそれが寒ければ寒い樣に、暑ければ暑い樣に、又海濱は海濱にふさはしく山岳地は山岳地にふさはしく外貌と構造の變化を與へつゝ建築なるものは營まるゝものであると云ふてゐる如くである。

伊藤氏が斯う云ふ意味で云はれたかどうかは同氏へ迷惑のかゝる事であるに依つて私にはそう考へらるゝとしてコルビジエに對する物足りなさが此の定義に對しても感ぜざるを得ない（以上に解する事に依つて）勿論理論的に云ふて今日の建築則私等人類、國民、市民の安息所であり事務所である建築は、それが科學、經濟、用途とによつて決せらるゝが當然である。私等の保健が空氣と水と日光に依つて保たれる事の當然と同じ事であるが、人は生物であると同時に又人である如くに建築の一つ一つが魂あるものでなければならぬと思ふ唯心論者の樣に物質以外に魂と云ふ唯心を認め樣と云ふのでもなければ魂のみあつて物の否定——空を認むるのでなく、物質に依つて精神を認めんとするものであるが——そこに私としては、如何に學者が建築の理想を說き「かくかくならざるべからず」と考案の發表があつたにもせよ、鐵や硝

子の材料を運搬する事の容易でない山岳地帶にあつては、武田博士の認識せられたるバンガローは必然的存在の理由があり、どうしても高い處へ居ては目がぐる〳〵廻つて仕方のない老人には高層建築に住まはせる事が出來ない私共は常に理想と現實の二世界を睨めてゞなければ一日も生活が出來るものでない。

（三）

フランスの大革命は大破壞をやつて物を新しくしたと云ふが、その後に修正に修正を重ねて、當時別に大して飛躍をせぬが一歩一歩新時代へ改革進歩した國と、結局同じレベルに立つたとは法理學大家の私等に嚙んで含める樣に訓へた處であるが、稍ともすれば進歩主義とでも云ふべき頭腦の人は、現代の因襲的なのを罵り大飛躍を欲し守舊的な頭腦の人は進歩の事々物々にケチをつけたがる。共に非なりと先輩諸氏は建築に就いても高論卓說を述べられておる、流石に大家の說として其の前に叩頭すべきであつて誠に無事至極であるが、之で今日の世の惱みは救はれるとは私には考へられぬ。敢てアインシュタインの口眞似をやるのではないが、こうした活きた人間を病院に收容してお粥と玉子で生きて行かせ樣とする如き扱ひは、結句虛弱者を造る樣なもので、私の考としてはどうせ世の中は途を眞直に歩けるものではない。あちらに寄り此方へ寄りしながらも常に前進を忘れない歩き方か、或は蝸り緩めたりしてどうやら目的と思ふ方へ進むのが所謂歩むものであつて、幾何の線を引いた如くに歩むものは「絕對」であつて、宇宙の一部である人間の實生活としてはあり得ない。人間生活の存すると云ふ事がこの左右に入り迅くなり遲くなるその惱みそのものなのであつて、これが無ければ神や佛の世界となつて、有でもなければ無でもない又有でも無でもなくないと云ふ大自然或は死の境である。どうしても私等は活きてる限り遲速左右は免れないが、その免れないものを少くして前進の能率を多くする事に努むる事が、又最高動物として自ら意識し自ら反省する力のある私共人類としてこの世に生れ出でたからは義務でもある。

そこで考へさせられる事は今現に當面してる私等の世界はどう歩いてゐるか、建築の趨勢はどうなつてゐるかを考へると同時に、左に歩いてゐると思へば寧ろ無理にでも右の方へ歩む事を考へなければならぬ。餘りに駈足で心臟が壞えきれぬ樣であれば徐歩の歩度をとらなければならぬ。此意味に於いて私は餘りに大家亜に世人が今の新進建築家をけなしつける事が氣になるのである。コル病患者であるのなんのと云ふ如き匹夫野人の罵聲を浴せる如きは駈足の人に轉落をあやぶんでの忠言であるかも知れぬが、青年の血氣者に因循を强ふる無同情でしかあり得ないと私共には感じられる。現在の建築界——我國の建築界は左樣に駈歩であらうか全國の人口の殖えて困る（と云ふてる人がある）程でもないが、年々建てられる建築の數の多くは、默して傳統より何物も一歩も出ておらぬ人々に依つて無責任に建てられておるのではないか。未だ未だ新しい途への精進が缺けておる事、それが田舍の隅々迄も喰ひ入らうとしておる安値な私製模倣のサーカス的建築の上辷りとなつて表はれておるのではないか。無批判に受入れる事の因習惰性はコル病患者君の製作よりは一層甚しい害毒となつておるのではないか。彼等コル病患者と云はれる人々は兎も角も研究と或る犧牲を常に考へ用意して居る筈である。法然にしろ日蓮にしろ又其の弟子にせよ皆創造の惱みと外部の迫害とに身を曝らした如くに行者としての歩む途は軌を一にするからである。只その大小の差はあらうけれども。

が然し「誤謬を清算して辨證法的武器を取れ一なんて叫ぶ聲を聽く時は、私には「なんと云ふ嬉な日本語だらう」と私の心の底に囁くものゝある事を告白しておく。苟も一宗の祖師たるものは麁の法衣に木綿の服である氣障な奴に大成したものゝない事は歷史的事實である。

（四）

私共の生活は將來に於て——現在に於てすらも或者は——事務所と安息所との二つに別れ、其れが各異なつた方面として深さを增して行くのであらうコルビュゼエ氏の考案を見つめると此傾向が同氏のものからも認むることが出來るのである。如何にも簡單と美との極端な排列としてアノ凸字形の立體面は都市中心地即ち事務所としての人の家は一定の場所に極端に集合し、交通、通信機關の自由な使用と相俟つて場所的にも便利に集められ、此集まつたる結果が摩天閣式の一種の近代的美をも現はして居るのであるが、安息所としては自然を軟て邪魔物にしては居らぬ、前庭、屋上の小庭園乃至植木鉢は一方簡單化のため少ない數を配置してあるには相違ないが、自然の立木の姿や鬱蒼たる林野の背景を取去らうとして居らぬことは確かである。ソコで昔の日本の哲人が言ふた樣に、田舍は田舍の好きな人に、都會は都會に適する人に相當して各發展する自然の傾向に從つて、都會地建築と休息所たる土地の建築との二つの文化が別れて、今

後の人類の生活の上に發展すべきことは爭はれない事實であらう。言換へれば自然に模して自然以上の或物を想像せんとする試みの生活、並びに建築と自然に柔順に從ふ生活及び建築の二途が現はれる。

私共人類が此世に出でゝより以來、人類と自然とは先づ以て天然の惠みの下に育くまれ聽がて天然の恩寵を感謝の餘り之れに模して見やうとするが抑々の自然への反逆の始まりで、次に天然以上に勝る或ものを創出しやうとする大叛逆心が今日の幾多科學的發明ともなり、建築材料としても愈々出でゝ愈々微細なるコンクリートと鐵の合成品が自由に利用せらるゝの域とはなつた。又草を燒いて流れ出でた熱い液體から硝子をも材料とすることゝなつた然も此等の人工的材料によつて組立られた建築物から剛と大との美さへも見出すことすらなすに至つた。然も建築には離るべからざる經濟的に「經費少なくして効果大」の一點も計算せらるゝに至つた。

斯くして人類の二大生活の一たる都市建築はこれ迄にない樣相を呈して來た。さる建築大家――と申して尊名を逸したことは誠に失禮であるが――は之を分類して

（1）特殊のお寺神社といふ如き建造物は材料を此普遍的な然もあまり遠からぬ時代に發見せられ生長せしめられたるもの〻上に舊來の外貌を存せしめるものと

（2）演藝場、公會堂の如き一部或は少からぬ部分に舊來の姿を存せしめるものと

（3）內容外觀ともに此材料の性質に從つて建築的に有するすべての有利なる條件を働らかせて新時代的特長ある美を發揮するものとの區別を立て此最後のものでまだ以て會心のもの無しといふ大體の論者であつた樣に記憶するが、這がその道の人の卑見として私共にもピツキリと其邊の並に理想がわかる氣持がする。都市は斯うして新時代の新しい建築が產れ出なければなるまい。明るい感じと事務的にピツタリと要求にあてはまつて其等の動的な樣式の美が都市の美として誇りげに立つことであらう。若し其樣でなくして壯麗を誇る殿堂が古代美術として――時代に副はぬ不必要物であるが故に――群を成したにせよ此建築群の都會は所謂デツドシテーであるのみである。印度の風景寫眞を見て常に感ずる感じはこれである。すばらしい佛數殿堂の下に穢はしい架出しや小屋が一パイにクツ付られて、生の氣力の無さうな坊主頭のきたない人がウヨ〳〵してゐる有樣は到底美を其の中から見出す譯には行かなぬ。寧ろ此穢ない者ばかりが集まつて居た方が集合美としての何物かを印象せしむるではなからうかと思ふ若し夫れコントラストといふ言葉が斯る不釣合をいふのであれば、物好きな人は之も亦たコントラストの美であると感ずるのであらうけれど Rowntree の poverty a study of town life は勿論都市の美しい方面のみを見て描こうとしておるのではない事は云ふまでもない。爲に歌人鳳晶子さんが八幡の黑煙の工業都市を見て男性的美を讃へた如くに、煤煙と音響の都市に對して寬大であり得ない。私共は都市生活に對してあく迄も科學的に保健的――保健衛生も勿論科學であるに相違ないが――に徹底してから其の上に詩人的であり度い。

（五）

我國の文學者、哲學者？はよく閑寂の生活を禮讃する。そして今日でも所謂僻村へ行つて打たるゝ感じは閑寂ではあるが、物質的に惠まれぬ生活の氣の毒さである。自然の閑寂といふことは都市の電車の音響と煤烟よりもましであるには相違ないが、自然と並び立つ人の生活のミスボらしさを以て無理に自然の閑寂同樣我慢せよとは我慢しかぬるのである。周圍の自然が美しいだけに寧ろ是等は無くもがなとも感じられる。

素よりアレキサンダーの前のダイオゼニス、親顯の前に立つ西行法師又た利休居士の取濟ましたる茶席は決して惡模樣ではないが、斯ういふ消極的生活は私共の生活として反省の半面であつて、之を全部とするならば積極的な生の躍動を無理に殺す假虛の生活、死の生活たらしむるものであると思ふ。故に都會中心地帶の事務的な集的生活に疲れた身心を、一時に靜めるべく茶室に入つて松籟の音に心を澄すのも結構であるに相違ないが凡べてが、茶坊主氣取の生活で終始するとなつては度し難い亡者であると言はねばならぬ。

彼のスペインに巢喰ふといふジブシーの生活は歐洲各國に往つて、誠に露西亞、巴爾幹半島に跨がつても厄介物となつてゐるさうであるが、彼等の文化の向上を知らぬ、又知らうともせぬ生活、他の人類の如何に厄介物であるかは彼等が小エジプトに子女を殘して歐洲に放浪する身となつたが故に寂しいのであるとか、又彼等の祖先がイエスの磔刑にかゝつた衣を剝取つたから天罰を受けての生活であるとか、乃至此の磔刑の釘を造つたから永久に榮へないのであるとか、呪咀の生活から脫出することの出來ない彼等の運命は悲しいものである。次に他人事でなく日本人として厄介な朝鮮の山に棲む火屯の人である。棲まうとする所の山には

火をかけて焚く、焚いた跡地へ無肥料の作物をする、そして肥料が無くなれば他へ土地を轉ずる。土地肥料があつても天災で作物が出來なければ水ばかり飲んで平氣で居る。勿論建築として永久的のものゝ有らう筈がない。一代から次代への蓄積的發展向上の有らう筈がなく、唯だ周圍の時代に伴ふ文化の向上發展は彼等より受くる野あらし山あらしの勝手放題の生活による慘害の大を增すばかりである。朝鮮總督府の公表によつても其統計的數字は莫大である。實に遺憾至極である。尙更らに內地へ行つての消極生活者の心理狀態を社會事業家村島歸之氏「木賃ホテル」の病者を讀んで見る。

何が彼等を木賃へ走らせたかの章下に「家を借りるとなると敷金も要ります し鍋釜は勿論家の道具も一そろへ備へませねばならず其れに近所のつき合があつて面倒ですそれよりも斯うして木賃に居る方がどれ丈け氣樂だかわかりません云々」と

次に氏の所見感想として

「彼等は目をさまして雨だれの音を聞くと皆なアブレを豫想して觀念の朝寢ときめる起きればドウしても飯をたべねばならず更らに仕事のないのに外へ出れば結局草鞋をぬらすだけが損になるからである云々」と

斯うなつては人類としての向上發展は無い事になる——唯だ物質の制限抑制へのみ走ることは死滅あるのみである「往生」と稱名念佛のみすれば彌陀の本願疑ひなしと信じ人に敎つた法然上人も丸龜市では井戶を掘つて社會を助けて居る。苟も人の生きる限り人生を永遠にならしめんとすれば、消極的の反省をなしつゝ積極生活を一方に考へなければならぬ。然もそれは他人によつてではなく自から作らなければならぬ「狐に穴あり空の鳥に巢あり人の子は枕する所なし」と歎聲するよりも人は人の巢を自分で造るべく、天の父より使命せられてゐることを知らねばならぬ「人間には社會的歷史がある他の生物には其れがない奴隸時代、帝國時代、封建時代、資本主義時代と經來る制度の變化は人間特有であつて社會的生態の進化過程に於て人間社會を觀察すれば動的經過を取つてゐる」と誰かゞ言つた plumer の piper house の中で、硝子といふ便利なものゝ出來た世の中に炬燵にチヂかまつて雪見哉でおさまつて居るでは始まらない話である。

（六）

原始時代も馱目、流浪生活も馱目として都會生活としての近代生活の外に近代生活としての村落生活或は休息生活が殘されるのであるが、此所に到つて私にはイギリスの產んだ兩モリスの俤が眼前に彷彿として出て來る。ウイリアム・モリスの事は比較的日本人によく承知されて居るが、大法官トーマス・モリスの方は餘り知られておらぬ。然しトーマス・モリスの一千五百十六年に發行された「理想鄕」は、此頃流行のマルクス資本論中に羊が人間を食ひ盡す不思議な國を語つてゐると、引用されてる爲マルクス信者の御連中には相當有名なものにされて居る、兩者共に同じ名のモリスで理想の社會を描いた事に於いて一致してゐるのは面白い一は藝術的で、一は法律的頭腦の人である事が相違して居る。

ウエルスの血の流れを有し、然も其の地方の風光明媚な點は土地でも有名であつたと云ふウイリアム・モリスの藝術的であつた事は當然過ぎる程に宿命的であつて、彼等をひきくるめて夢想社會主義者等と、マルクス一派から言はれる程の藝術味豊かな彼の理想は不思議や科學か藝術かの論爭さへ引き出さる、建築界に影響して、セセッションの以來新時代を持ち來たさしめた事は因緣ありと云ふべきであらう。ウイリアム・モリスの News From Nowhere は現時の若き建築家諸氏の好んで愛誦する事は、モリスの師ストリートが、モリスと後には喧嘩別れをしても之れが爲に、增減する事はない私は人類の安息所たる住居に於いて、彼の生命が永久に存して行くものであると思ふ者である。たとへ建築の材料は進んだ人々に依つて鐵筋コンクリートであるにせよ、天地神明造りよりこのかた使へならされたる、木造であるにせよ、ピツツバーグのシモンズ鋸工場の窓なき工場であつてはならないたとへ人工光線が電氣によつて家庭に使はれ換氣裝置が人工的に寢室にまで行はれるにしてもがよしや壁と天井とが青綠白の科學的、色彩配合が用ひらるゝにしてもが柏葉の自然の姿なる圖案の氣分が多大に存するのでなければ吾々の古の人が云ふた餘りに明るい家は三代續かぬ、キツト氣狂が出來ると云ふ事も嘘でない如くに正氣の人間は只、空氣と日光と水ばかりの理窟では活きて行かれぬ。

斯う述べて來ると、此處に首を擡げて來る論は國粹主義の諸君である、モリスは英國の人であるから英國流の國粹を主張したのである、吾々日本人としては正に日本流の國粹的に考へるのが、所謂孔子孟子を對照として吾國に攻め來る時第一陣に出でゝ吾國の爲に盡すのが、孔孟の學に忠な所以と同じくモリスの精神を汲むわけではないか故に吾々はあく迄も傳統を重んじ維新前の住宅に執着すべしと云ふのである。即ち吾國は吾國特有の建築なかるべからずとの主張を力强く叫び出す。

七十一階の建物が卅三週間で出來上つた工事の施工概況

小山九市

私とても頗の黄色い日本人體軀の矮小な日本人四面環海の日本に於いて夫々の特色を有する日本人の事務所と住宅が所謂日本趣味を現はす獨創を以つて世界文化に寄與すべきである事は考へざらんと欲しても能はざる所ではあるが、さりとて其の日本趣味と云ふ事を德川末期の建築であるとか、茶室式であるとか天平式であるとかいふ事を以つて云々する論には左袒する事は出來ない。嘗て吾々日本人の禮と云ふ事は其道の學者の說を俱ふた事がある。それに依ると今日多くの人が羽織袴を以つて動かす可からざるものと思つて居たのに反してこの着物は德川氏時代において道中着であつてその頃は言ふ迄もなく裃が禮服である、そうしてその裃なるものが、その前時代に於いてはやはり武士の活動に着るものであり、その頃の禮服は狩衣であつた、更にその狩衣も安名の如く、戰鬪亂に山野跋涉の活動に着る服であつて束帶こそ禮服であつたのであるが、束帶も亦奈良朝時代の官吏のビジネス用服裝と云ふ如くに今日吾々が因襲的にこれこそ日本古來の本源と思つたものが本源でなくその本源を尋ぬれば結局外國のものから到來したことゝもなるのであることを考ふる時私等が今後日本趣味と呼び獨創を誇らんとするものは稍ともすれば陷入り勝ちなドグマに氣を付けなければならんと思ふ。前後を山田守氏の高說として鐵筋コンクリートの樣な後にこはす事の出來ないものを造るよりは流轉の世相に考へて二十年か三十年持つものを造り後は又氣に向いたものを造る方が吾等の家として良いではないかと云ふ御議論も一理あるとであらうが如何にユカタの國民であるからとて事務所へ太腿を出して胡座で仕事は今日の世の中にとり難いのである。地震も恐しい火事も恐い事が判つてる時代の人々に、經濟の事も算用せなければならぬとすれば、此の考は形を轉換して其精神を何處かに活かすとして矢張り硬建築を作出する事は止むを得ない事であらう、本野精吾氏のライトとコルビジエ、グロピユスの兩端對立の御議論は私共の訓へらるゝ處の多いものであるとして感謝する、そうして八洋生先生のリボリウションよりエボリウションへの御感想は私の是迄の立論の立場上双手を擧げて贊する處でなければならぬ。

要するに私共は此の世に活きる道德として最早や個人主義的獨りよがりである事は許されない、夫れが善であらうが惡であらうが將又眞か美かと云ふ事に於いても社會的に許さるべきであるか否かに依つて萬事を決せなければならぬ。

高層建築が日本に適するや否やは別問題としてこのスピード時代にこのスピード建築を物語り度い。

×

一九二九年五月十八日に紐育市ウオール四〇番街の古建物の最後の借家人が出て行つてから、取り壞しが始まりそれが六月十五日に了つて本建築にとりかゝり、翌年の一月一杯にはもう七十一階のマツハツタンコンパニーピルデイングが竣工して居る。正味三十三週間の七十一階の建物、何と速いではありませぬか。

このレコード破りが出來たのは古建物が取壞された時には基礎は半ば出來上つて居つた御陰もあるが、他の一方には最初の設計から一般請負者及五〇名に餘る下請に到る迄この尨大な現場組織の統一が採れて居つた事に起因するとも言はれて居る。

工事日程を示すとザツト次の通りである。

一九二九年度の仕事

五月 十八日 舊建物から最後の借家人が出て行つた
五月 二十日 取り壞し方始め
六月 十二日 取り壞し方終り（路面迄）
六月 二十日 最初の鐵骨が現場に搬入
六月 廿七日 柱の組立始め
十一月十二日 鐵骨の組立終り
自七月八日至十二月十七日 地下室から頂階迄の床混凝土工事
八月 十五日 外壁工八階より始まる
十一月十四日 外壁工五十七階迄完成
十月 十五日 第一階石積始め
十二月十六日 第八階迄の石積終り
十一月十八日 自第五十七階至六十二

階床の石工始まる　翌年一月三日完成
十二月十二日　ピラミット屋根始まる
十二月卅一日　階段の設置終り
八月十九日　床仕上げ工事自八階至頂階始まる
八月十六日　自八階至五十七階造作及壁塗り（完成翌年一月二十一日）
八月三十日　便所のタイル、カアララ硝子貼（自八階至五十八階）始め（完成翌年一月三日）
八月二十四日　昇降機出入口の大理石腰貼始め（完成翌年正月三日）
十月七日　昇降機出入口のテラゾ床仕上げ始め（完成翌年一月十二日）
十二月一日　借家人の入り込み始まる

一九三〇年度分

一月十日　銅板張りを殘しピラミット屋根工事終り
三月廿八日　同銅板張り終り
一月十四日　自八階至頂階床仕上終り
二月一日　ビルデイング完成
三月卅一日　最初の借家人が這入り込んだ
五月一日　ビルデイングが完全に竣工した

大體書き上げると右の通りである、これに依つて米人が如何にスピードを尚ぶかを窺ひ知ることが出來る、今爰で一つ考えたい事は右の日程に現はれざる色々なる苦心困難が彼等一流の事務的才能を以つて到つて氣輕にやつてのけられた點は米人の氣質とも見られる國狀が違つて居るので我國でこの式を採用する譯には行かぬが今少しくスピート化し得たならば利益ずる處がありはすまいか、此の爲めの一助ともならばと思ひ拙文を以つてこの工事の實際を御紹介し度い。

本建物は紐育市のドルの元締ローアーマツハツタン區のパイン街（幅一九呎）とウオル街（幅三二呎）の小道に面して建てられて居る、交通頻繁なる是等街區に莫大な建築材料を運び入れることが抑も困難の第一歩である、折も折パイン街を隔てた眞正面に新らしい建物の工事が始まつて居る、更に西方ブローヒ街は重量鐵骨の乘り入れが全く不可能で且つそれに續くナソウ街は生憎地下鐵工事中で一〇噸以上の乘り入れがこれ又不可能と來て居る、然し兎も角も三十三週間に出來上つたからには慥かにそこに大なる努力が拂はれたに違ひない。

古い建物から一齊追ひ立てを食つた借家人は蜘蛛の子を散らすが如く轉宅を始めた、然し彼等は竣工後飯つて來る連中だから多くは附近の建物に假りの宿を求めた。

材料の發送を正確ならしめる事はスピードを維持する爲めに最も重要なる事柄である、彼等はこれに着眼した、それで元請負者の代表員は主要材料を製作する工場や商會に駐屯を命ぜられた、是等の駐屯員は現場の仕事と接觸を保ち材料の持込みが豫定通り圓滿平滑に運ぶやう、又よし運ばれてきても置き場がないからその持ち込み量の調節等に相當頭を働かす役目を承つた。

◇鐵骨の組立　工事を豫定通り進めて行くに一番大切なることは必要な材料を必要な時に現場に持ち込むことである。この場合寸秒の差を爭ふ爲めに鐵骨の見積りは圖面に依つて決定し、その實際の設計は技師と鐵骨組立て請負人の協同作業とした。下階の設計が了る頃には既にその鐵骨の製作が始まつて居る、上階の詳細圖が出來上る前には下階は今や組立工事の眞最中といつた調子で先へ〳〵と進んで行つた、だから設計圖が完成した時には僅か十階分の鐵骨の積出しが遲れて居つたに過ぎなかつた、又それ迄に二十階以內の分の組立てが遲れて居つたに過ぎなかつた、即ち設計圖が完成する以前に積出しや組立等の早手廻ましをやつて居るといふ有樣である。悉ふいふ先廻りは本工事を通じて到る處に勵行されて居る模樣である

何は扨て描き下階部の鐵骨の製作を急がなくてはならぬ、その爲めに二十階分の鐵骨は五軒の工場に配分して製作を依頼した、出來上つた鐵骨は各階各面坪毎に分類して一々積み出し番號を附けた、前述の駐屯發送人は日々電話でその工場から出た積み出し番號や貨車の數量などを現場に報告した、發送人の他の一隊は貨車にくつついてジヤーシー市迄行き、其處で傳馬船に積み替へイーストの流れに沿ふてオールドスリツプに行きそこからトラツクで現場迄運搬する、その積み込みには特殊のクレーンを設備して居る、その積込みは色分けした旗の信號で下に待つて居るトラツクを呼ぶと『オーラ

イ』といふ譯でやつて來る、クレーンで材料を捲き上げ積み込むといふ順序である。

◇他の材料の運搬　鐵骨以外の他の材料は一般請負人の手で供給場所から現場に直送した、この内には原材料製作品及其部分品等も含まれて居る、現場到着後は下請人の手で組み立てをした、特に四十五個の昇降機用ケージ、廻轉扉、青銅、鐵物等々。

何分にも狹い街路に面して居るから材料の置場が無い、だから大抵の材料は單に必要量だけ持込まれる、第一階が出來上ると元請負人の材料置場としウオール街に面した入口より材料を入れることにした、下請人の材料はバイン街に面した阪道からトラックの儘二階迄運び込んで其處で細工して各階に配給するといふダン取りである

混凝土及モルタル材料は一旦ミキサー上のビンに入れ後計量器によりミキサーに配給し混合する、出來た混凝土は直ちにタワーバケツトに這入り得るやうにミキサーの位置が撰定せられる、タワーバケツトから出て來た混凝土は各階にあるホツパーに這入る、ホツパーから出たものを手押車に載せて詰込み場所迄運んで行く、これは我國のやり方と少しも變らない。

ミキサーは合計五台で其內譯を示すと床混凝土打に使ふシンダー混凝土用二台、モルタル用一台、セメント床仕上げ用一台、その他構造混凝土用一台といふ割合である。

材料の捲き上げは外部用リフト八台、內部用リフト三台、合計十一台を使つた、外部昇降塔はチューブ製タワーであつて五階迄は建物の內側にあるが、そこから各階が後退し始めるので屋根を突き拔いて外側に沿ふて昇つて居る、その內四つはレコード破りの高さ七六三呎即ち六二階にあるペントハウス迄續いて居る、法隆寺五重の塔全高の約七倍、嘘のやうな實際の話である。その外二六階迄續いて居るもの二つ、三五階及五六階迄に續いて居るもの各一つといふ割合である、この內四つの運轉には八〇馬力、他の四つには六〇馬力合計一四〇馬力で何れもモーター掛のホイストである、尙參考の爲めタワーの高さ、到著點、使用區分などを書き上げて見やう。

タワー番號	型	高さ	使用區分
A	三車積	第二差掛小屋	一般請負者用石工、モルタル、混凝土等
B	バケット	第二差掛小屋	一般請負者用石工、モルタル、混凝土等
C	二車積	第二差掛小屋	モルタル、混凝土、石工、タイル用
D	二車積	第二差掛小屋	下請人用
E	バケット	五十六階床	一般請負人用モルタル
F	三車積	三十五階床	下請人用
G	二車積	二十六階床	下請人用
H	二車積	二十六階床	下請人用

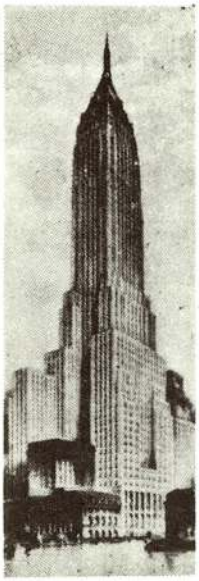
タワーの寸法は六呎四吋角、但し三車積のものは六呎四吋に八呎といふデツカイ寸法のものである

六十七階から頂上迄の材料運搬には五馬力のモートルにニツガーヘツド附ホイストを動かして居る建物の外側にあるリフトの全高に亙りパイプや導管を運ぶため面付のホイストを設備して居る、而してそのホイスト道は二十階毎に特殊な安全裝置が施されてをる。

本式の昇降機が出來上ると直きに人や材料の運搬に使つて居る、煉瓦屋の足場の如きものもエレベーター室內で二段に吊るしてあつてシヤフト四圍の煉瓦積みとか仕上げが早くなるやうにし、その他凡てがスピード本位に工夫して居る。

昇降機で昇り得る所はどんな高い所へも何時でも行けるやうに二六時中動いて居る、これは人夫にいたる迄出來る丈け早く仕事場に送り込んで無駄な時間を節約しやうとする趣旨に外ならないのである。

◇下請仕事の整頓　五〇人の下請は元請負人と協力一致して仕事に從事して居る、この大事業を最高速度の機械力によつて圓滑に組織統一されて居ることは全く準備行動及計畫の賜に外ならない、實際の方が豫定よりか進み勝ちである下請人の定期集會は現場に對し場所で開くか例へば寸刻を爭ふエレベーター關係者の集會は現場で開くといふ用意周到さを示してある



マンハッタン　ビルデイング

會社などが一杯に這り込むこの建物には特殊の電話、電信又は株式相場表示機等を裝置せねばならなかつた、壓搾空氣傳送管などもその一つである、各階にある此等の設備を統一する爲め地階の三階をその中央ステーションに充てゝ居る、又完成後これらの設備の爲めになるべく模樣替へを少くする特別な注意が拂はれ居る、通風管は昇降機廊下の天井に取り附けてあつて思ふ儘にどの室にも引張られるやうになつて居る。

工事が進むに從ひ各階毎に次の內部造作を始めた、外部壁、昇降機、廊下、便所手洗場洗面所、內部柱、セメント床仕上等。

セメントの仕上面を害せない爲めに貼り合せた薄い疊のやうになつたラバロイド紙でその上を覆ふた、手押車がこの上を通つてもセメント床を傷めない、又板などを用ふる手數も省ける。

借家人の這り込み即ち建物の內部造作は十二月一日迄には完成し殘餘の仕事は元請負人の代表員を通じてやつて居る、元請負人の各係員は一人或は數人の下請人を責任を以つて統轄し組織及豫定を亂さないやうに、材料を運搬し且つ工事全般の豫定を勵行することに努めて居る。

現場の工事を豫定通りに進行せしむる爲めに最も重大なる要素は現場技師連の協同一致の精神である、彼等は現場の設計變更等あると長くて二四時間以內に裁決を與へられるやう平素から訓練されて居る、仕事が一寸行き詰まる時には深夜でも褥はず喚び立て裁決を與へたやうな場合は屢々あつたとの事である。

◇內部設備　借家人に必要なるものは出來得る限り何でも滿たし得るやう前以つて設備しておいた、何分目抜きの場所で仲買人、銀行、なかつた、これは借家人側の要求の申出でが遲かつたから斯くぐづ〳〵して居つたのだがそれが一旦決まるとすぐ實施できる爲めの準備としてセメント、砂、プラスター、タイル、間仕切り壁材料等を一齊に各階に積み上げた、これ丈けの仕事の爲めにドレ丈けの材料を使ふかと言へば長さ延一哩半の間仕切り壁（既成品）、煉瓦間仕切に使ふ一〇〇〇枚の扉等を擧げねばなるまい。

◇仕事の組織　統監部とも稱すべき一般請負人現場事務所が現場仕事の統制をし且つ指令を發するそこに居る監督者が全責任を帶びて居る。凡ての見積り、豫算の維持、變更等はこゝで行はれて居る、統一する事務所の權限は恁ふであるが現場の組織は何ふいふ風になつて居るかと云へば第一部は監督者の直轄による工事の進行及指導第二部は副監督者の直轄による技術及事務方面の仕事に當つて居る第一部を戰爭の時の第一線とすれば第二部は後方勤務といふ役目であらう、現場事務所で働らく事務員は一番多い時で九十名、十七本の電話が市內と直通して居る。

一々違つた圖面が約三〇〇〇〇枚、事務員は十數班に別れて各班はこれらの計畫を各々分擔して居る、索引番號、プラン番號、圖面の種類、圖面の請取り日附、其數變更の日附及仕事の種類、技師にそれを送つて承認を得た日附、その配附先等事細かに書き入れたカードインデツキスを作つて居る、給料の高い米國で人件費を極度に節約するこれらの方式は我國でも今後學ぶべき點であらう。

現場事務所の如きも完成迄に七回も場所を變つて居る。（日本人松井安雄氏は米人技師と協同してこの建物を仕上げて居る、時節柄何と涼しい便りでは無いか）

（昭和六・六・一六日）

新興建築材料としてのアルミニウム（中）

葛野壯一郎

極く最近の金屬、例之、ステインレス・スチール、モンネル・メタルの如き酸化作用に著しき抵抗力を示すものが、裝飾家及び建築家に提供せられる樣になつた。斯樣な金屬は非常に麗はしい光澤は出るが、然し其加工と造型に頗る困難な爲め其用途は非常に制限されて、殊にアルミニウムの進出以來其價格は驚く可き高價なものとなつた。

又是等金屬は重金屬である爲め其輸送集合に困難且つ經費を要する。是れを使用するには充分な支持に對する準備が必要である。現代都市の急速な發展は人口過剩を將來し、高層建築と敏捷築造を必要とするに至つた。今や重裝飾金屬の時代は過ぎて輕裝飾金屬が之に取つて代つたので有る。

若し機械化しつゝ有る現代に於ける經濟事情が、吾人に鑄物を使用せさるを得ざらしむるならば、藝術の爲めに其れに對して用法の宜しきを得る事に注目しなければならぬ。往時大理石が煉瓦や石材に取つて代られた時に其新奇材料に目慣れたと同樣に、吾人はアルミニウムの鑄物を見慣れる樣にならなければならぬ。アルミニウム鑄物の大鏡板の裝飾的効果は、建物の外貌を變化する事に於て近代建築に大なる貢獻をする。

◇

材料と其型及び外觀の撰擇は箇々の用途の要求に應じなければならぬ筈の密接なる適應性如何に因つて決定せられる。近代建築の主要なる目的は

第一、最大多量の光線を內部に與へる事

第二、勉めて單純な裝飾を以て建物の前面を整へる事

の二であるがアルミニウムは是等の目的の達成を助けるであらふ。建築物の前面は是れを見る寸刻の猶豫をも許さない此スピード時代に在つては、込入つた纖細な裝飾物を以て過多な裝飾をする事は最早や許されない。同一意匠の物が連續したり繰り返へされる代りに硏磨アルミニウムが隨所に使用せらる可きで有る。

アルミニウムは物理的諸性質を保持するのみで無く、又其光澤色彩も何年經ても變化しない爲めに永續性の金屬で有る。ベルリンのアルミニウム・ベラーツングステレエ會社は、一九一五年に建設されたヂユツセルドルフに於けるバーマー銀行のアルミニウム屋根を視察した。此屋根に葺かれて居るアルミニウム鈑は、今日尙新らしい金屬と同じ外觀と性質を保持して居た。ロンドンのピカデリー・サーカスの噴水塔上に、一八九三年設置されたアルミニウム製のエロス像が有る。此像はロンドンの大氣の中に置かれて非常に惡い狀態に在つたにも係らず、其外觀には少しの變化も無く現存して居る。

◇

ニユーヨークに於けるクライスラー・ビルデングは、現代建築に於ける最著名な偉業の一つで有る。其設計者ウイリアム・フアン・アレンは雜誌『ジ・メタル・アーツ』に次の樣に述べて居る。

『アルミニウムを此建築物に廣く使用したる點は此建物の顯著な特徵の一つにて、筆者年來の理想の實現の一つで有る。即ち外界に曝される所にはペンキを塗つたり其他色々の保護を加へる必要のある金屬は少しも使用しない事である。アルミニウムは保存するに何等手數も經費も入らず、不完全な保存方法の爲めに腐蝕する憂も無い。又他の金屬に保存の爲めにペイント塗附を繰返し行ふ時、必然の結果として生ずる細部の上品さや明確さを損する樣な事も無い。尙又アルミニウムは其表面を洗滌さるる場合、建物の壁又は他の部

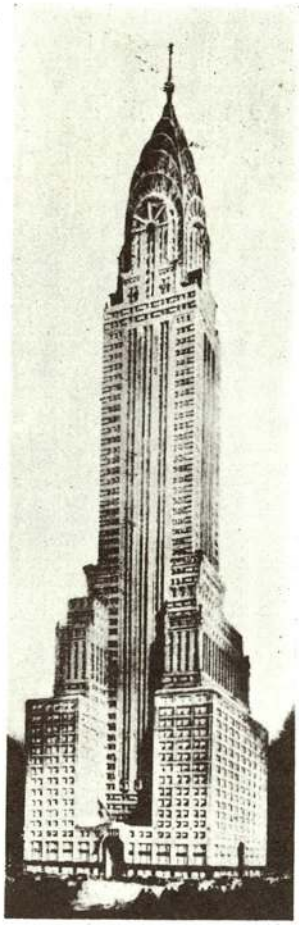
分を汚損する如き物を生じない。若し其表面が磨いて塵埃や不潔物の自由に推積する位置に置かれても（斯かる添加物が其意匠を強調する場合は別として）都市の大氣中の煤烟の有無は論ぜず屋外に於ける何の部分の推積物でも雨に依つて一掃する事が出來る。

磨きに掛けたアルミニウムの銀色光澤は建物の部分、例之、丸屋根、笠石及び多くの細部の如きに自分の獲得し度いと思つた調子を正確に與へて呉れる。此六十八階建の丸屋根は光輝燦然と磨き上げた皮色アルミニウム鈑で全部葺かれて居る。黑エナメル塗の外形線はランセツト型と丸屋根の表面を豊富にする光線意匠を現はす。此線が凹を作つて居るので煤煙や塵埃の堆積により、時を經るに從つて對稱的効果を引立たしめる。丸屋根の輪廓の主なる特徴は屋根窓の頂上の半圓形から延びて頂上迄大なる馬蹄型のモーチヴを形成して居る。而して其上方及後方への頂上に達する繰返しが、上昇運動及び輕快さの欲望意識を得させる。

拾一層の高さを有する大屋根窓の表面の上には各磨かれたアルミニウム製のシヤフトが四方に擴がつて居る。磨いたアルミニウムとクリスタルの頂上飾が丸屋根の頂上から突出する。丸屋根の表面には夜間內部から照らされるランセツト型の窓が有る。丸屋根の底部に在る強い烽火は丸屋根及び頂上飾を照して夜の空にきら〳〵と輝やく。

◇

後退部の擁壁上の磨かれたアルミニウム製の笠は、灰白色の煉瓦に對照して銀色の水平線を畫いて居る。磨かれた文樣に光る鑄造アルミニウムのスパンドレルが第一及び第二後退部の間、十九階から二十二階に達する白色煉瓦柱の間に光る。



The Chrysler Building

形大なクライスラー射光柱頭の型に於ける模樣が、三十層の隅の出を示し、其處には自動車を圖題とした灰白色の煉瓦の意匠によつて裝はれて居る。アルミニウム製の甍が第二後退部と丸屋根下部の手摺の四隅とに飾つてある。窓臺は全部アルミニウムで出來て居る。是れは實用向且つ嶄新な使用法とも云ふ可きで有る。全內部も建具金物を始め種々金屬工事が、外部同樣銀の如き色彩光澤を放つて居る。色彩計畫に於て金屬がよく人目に觸れる爲めに、三本の大通に在るベースと出入口にはチユストン・スウエーヂッシュ・グラニツトが使用されて居る。第二第三第四階は白色ジヲルジヤ大理石が使はれて居る。第一の後退が始まる第五階から十六階迄の表面は、バスケツト・ウィーヴを型どつて白色化粧煉瓦と白色ジョージア大理石の張交ぜになつて居る。第二後退の始まる十七階から二十三階迄は壁には白色煉瓦を使用し、水平線と鏡板は灰色煉瓦の背景によつて一層引き立つて居る。此點以上の建物を取卷く水平線は黑色エナメル塗煉瓦を使用して眼立たしめ、壁面は艶消し白色煉瓦を用ゐて居る。かく色彩計畫の一般觀念は灰色裝飾を持つた黑と白の組合せで其白色表面にはアルミニウムの使用によつて完成せられる銀色の緣取がしてある。

三つの異なつた問題によつて考案せられた百八十五箇のアルミニユウム製浮彫は、第二十一階から第二十四階迄の窓の上列及び下列の中間に取附けられて居る。第二十四階二十七階三十一階の後退部には窓手摺及其支持がアルミニウム製である。主なる出入口の上第五階の上に、クライスラー商標を型どつた大きな旗さほが有る。此フラッグ・サツポートは全部第四十三號アルミニウム合金で鑄られ巾八呎十吋、長五呎五吋、高八呎十吋である。其重量九百二十五ポ

ンド、表面は強く磨かれて居る。第四十三號リチイト合金の裝飾的浮彫は四呎十一吋角で厚〇・二三六吋である。各鏡板の重量は其型に依り百四十ポンド或は百二十ポンドで有る。其表面は砂吹き仕上で高度の裝飾的光澤を放つて居る。(未完)

建築工事の計劃と實施

(3)

渡部圭吾

3 指導と訓練(つゞき)

1、指導

現今の土木建築工事の作業に當りましては、この指導勞働者たる世話役、小頭は概ね下請の代人であり、指導勞働者たる外に下請人の業務員でもあります。而して學力や研究心に乏しい世話役や小頭は、最近工法の著しき進歩に追從して悉くの技術を習得することが出來なくなつて來ました。そこで更に元請負人側に指導者が必要となるのであつて、今後の元請の監督者は、各作業の連絡協調を司り全般の工事を都合よく進捗せしめねばならないばかりでなく下請の世話役や小頭並に多數從業者に對する指導者ともならねばならないのであります。この種の指導者の配置は、その能力にもよりますが普通二十人乃至三十人に對して一人づゝ配置し、尙この集團が五乃至六組に亘る時は、更に之を統率指導するものがなければなりません。

指導方法は其の作業によつて必ずしも一定いたしませんが、個人指導の場合と集團指導の場合とは自ら其の方法が異なるのであります。又職業によつて從業者の性質も著しく異りますから、その指導方法も亦自ら異らねばなりません又同一作業にありましても、凡てが同一の行爲をなすものでありませんから、夫々その指導方法を異にせねばならないのであります。

指導方法は命令の場合と同じく指導する事柄を徹底する樣にせねばならぬ。即ち明瞭にして簡單、且要領を得ねばならぬのであります。然も作業の標準を明かに示すことが必要であります。類似の作業に對しは、誤解を來さぬためその異つた點又は類似の點を指示して、尙一度は指導しながら作業を實施せしめねばなりません。集團に對しては、暗示による心理傳播が强烈に作用するものであり、又模倣の心理現象が無意識的に働くものであります。之等の心理作用をも考慮して指導に當らなければ、意外の失敗を招くことがあります。

ロ、訓練

昔時の徒弟は、親方の下にあつて、三年乃至七年と言ふ長期の年限を切つて奉公し、見樣見眞似によつて其の秘傳や手練を會得したものでありますが最近は斯樣なことは到底行はれない事情を生ずるに至りました。今日の補習學校や徒弟學校は、未だ其の手練を會得せしむるまでに進歩しては居りません。日や耳で教へらるゝとしても眞の味までは解らぬのであります。從つて現今では、下請の世話役や元請の監督が之を教示するより外に方法がないのであります。

而も土木建築工事に於ける職工移動性は、著しく大なるものでありますから、早く訓練し、早く一人前の作業が出來るやうにし、其工事の作業に役立てる方法をとらねばなりません。訓練とは、字義の通り訓え且練ることであつて、云ひ換へれば教へ込んで習慣化せしむることであります。尙眞の訓練は習慣の固定によつて單にその動作を機械的に動化するだけで滿足すべきではなく、その價値を意識し、自發的に益々良好な成績を得ることに努めるやう仕向けね

ばならぬのであります。即ち訓練の最終の目的は、短時間に作業分量を多くし且品質の良好なるものを作らしむることに存するのであります。

作業訓練の効果は、個性の適否（即ち動作及精神能力と）と大なる關係があります。殊に機械作業よりも勞力作業に於きまして著しいものがあります、故に簡單な器具を使用する勞力作業に從事せしめて訓練の結果、他に比して能率の上がらぬ者は、該作業に適せぬものであるから早く之を他に轉ぜしめた方がよいのであります。精巧な機械作業は、勞力作業よりも、個人的の影響は少ないものであり　すから之が從業者に對しては寧ろ機械調節者の訓練に重きを置いた方が効果が多いのであります

習慣的行動は本能と異なり生來のものではなく、經驗とその反覆とによつて成立するものであります。故にその經驗の始めに於きましては多少の苦痛を意識することがありましても、やがて律動化せらるゝ樣になりますれば、著しく疲勞を減少し得るに至りますもので、之は決意動作の省略と動作の律動化に原因するものであります、

暗示と訓練とは又大なる關係のあるものであります。例へば多數の從業者に先づ自ら強き信念を以つて暗示を與へれば、從業者も又指導者と同樣の強き信念を有するに至るものであります。

訓練は賞罰とも離れることの出來ない關係のあるものでありますから、公平に嚴正に賞すべきは賞し、罰すべきは戒めねばなりません。

米國勞働界の大立物シュリクター氏は、米國の産業界に於て職工の指導訓練が宜しきを得なかつた爲に、産業の發達を二十五年間遲らしたと言つて居ります。勿論この二十五年は形容詞でありませうが、産業界に於ける指導訓練の重要さを指摘した警句であると思ひます。

4　進行及能率の統制

現場管理の手段として進行及能率の狀態を明らかにしてをくことが最も必要であります。現在無駄がないと思つてやつてゐる仕事でもよく調べて見ると無駄が少なくないのであります。これは不合理な事をしてゐるから無駄が出來るのでありまして中には無駄と知りつゝ今までの行きがゝり上仕方なしにやつてゐる樣な場合すらあります。そしてどうにかしなければならないと考へながらも後もどりする樣になるまでその對策を講じにくいものであります。

工事現場に於きましては之れ等の無駄を省き更らに能率の增進が出來るやうになれば結局旨く、滑かに進行するやうになるのであります。然らば能率增進を計るには何うすればよいかと申しますと、先づ仕事の狀態（作業及事務）を明かにすることであります。かくして

一、理窟と實際とが一致しなかつた時には、どちらに誤りがあるかを探究するのであります。

二、機械や工人が止むを得ず遊んでをるとその遊びの時間を調査研究してこれを除くように努力するのであります。

三、材料のための手待や、材料が惡かつたために工事が遲れることをなくするやうにするのであります。

四、よく指導し、よく訓練するのであります。其の結果として

イ、適任でないものは他へ移します。

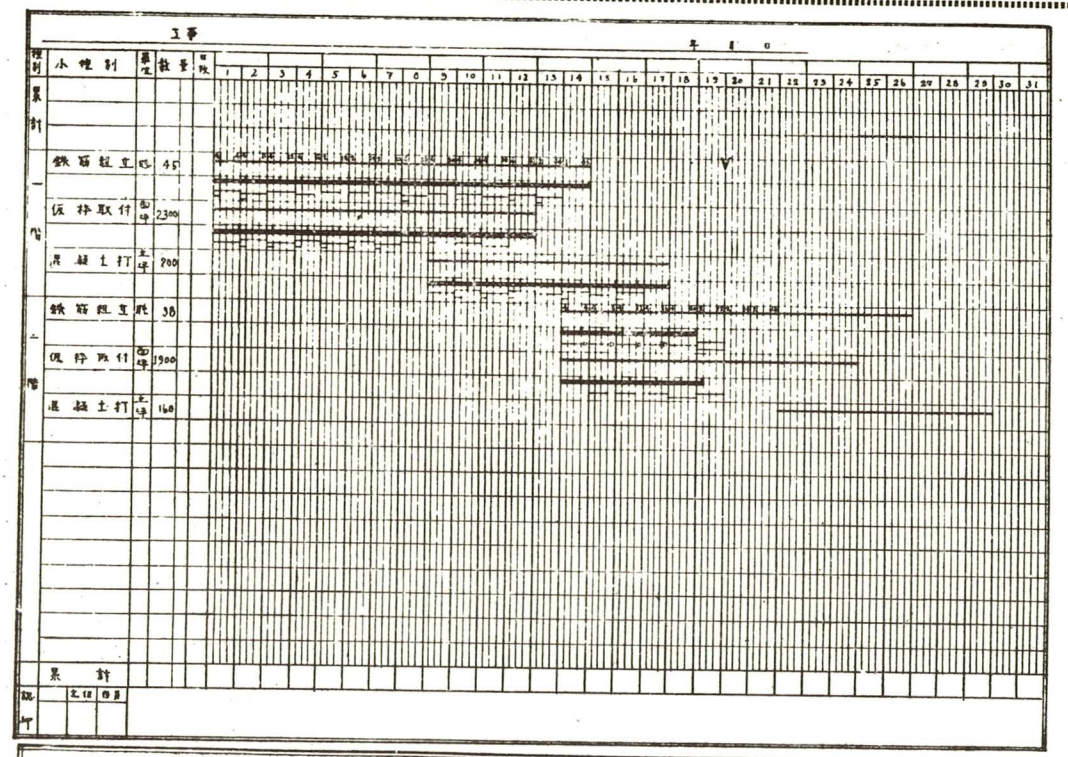
ロ、豫定の進行を阻害する故障を除くことに努め工人や係員が各自のなすべき仕事を知らしめます。その結果各職人は仕事に對して興味が出て來ますし、熱心に仕事をするやうになります。

かくの如き結果をもたらす方法は之れまで色々と考へられましたがその中に圖表式のものが最も有効でわかり易いのであります。中にもヘンリー、ローレンス、ガント氏の考案したものは最も優秀でありますのでこの方法を推奬するのであります。

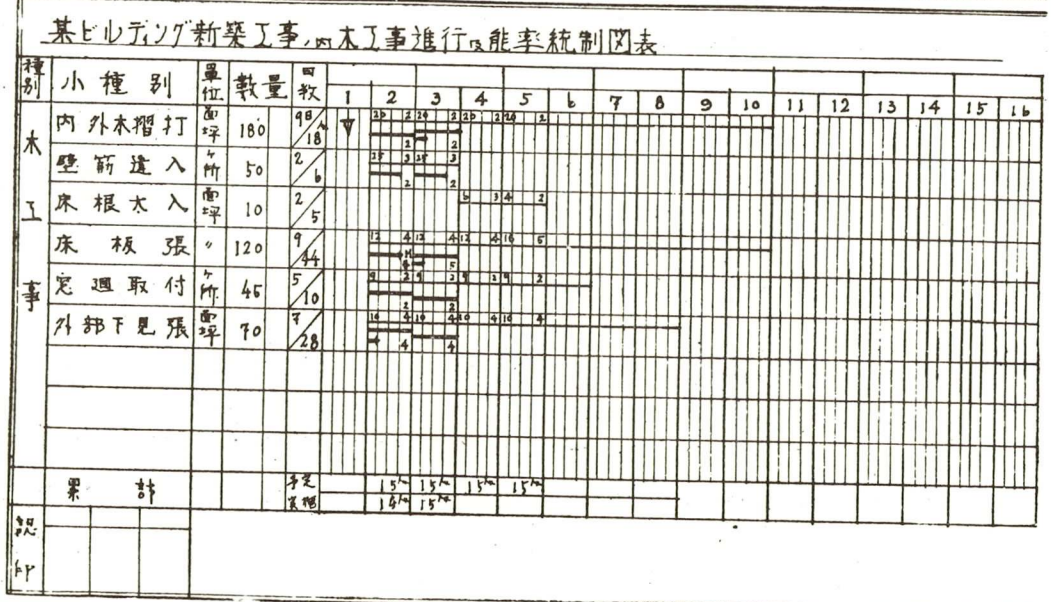
此圖表は計劃する上に於きましても、又此を實行せしめる上におきましても極めて有効なものであります。

此の方法によつて行きますと工事の進行する速さは常に時間の進行と比較されるから其の結果は仕事の進行を促すことゝなり或は能率を統制する事にもなるのであり

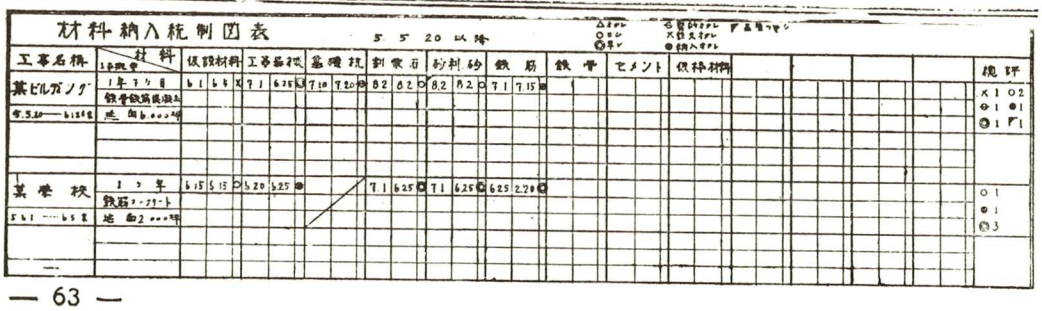
第三圖表



第四圖表



第五圖表



ます。そしてまた仕事が明かに記錄さるゝばかりでなく、現在と將來とを管理することが出來るものであります。その上、各係員の責任が明らかになり、よい點は益々助長せしめ、悪い點はその原因を追究して、よい方に導く有力なる手段となるのであります。

しかも此圖表は極めて廣く應用することの出來るものであります即ち一、進行表（計劃と實施との比較表）

二、配置及負擔表

三、人及機械の記錄表

等であり　すが尙此を更に他の分課や係りでもそれ〴〵記入の方法を變へ統制圖表に依つてその仕事を統制して行けるもので誠に都合のよいものであります。今日世界到るところ、この圖表が應用せられてゐることを見てもガント氏の偉大さが解るものであります。

次に圖表の型式について說明いたします、第二圖表（略）は基本圖表で一ヶ月分のものでありますが普通半月分のものが適當でありまず、記入の目的により異るが圖示の通り種別、小種別、單位、數量日數等の欄に分け、中央部は縱の線にて三十一日に割付けました小種別其他の欄には次の第三圖表第四圖、表第五圖表の如くに夫々適當に必要なる要項を目的に從ひ記入いたします。

第三圖表は主體工事の進行及能率統制圖表であつて種別欄を一、二階に分けます。

工事名稱、數量及稱呼の記入方法は圖示の通りで、圖表の引き方は始めに、

豫　定

日日の　實施出來高

同右の　累計

記入方法にて書き表はします。實施出來高累計線の所々に出てゐる短い縱線の區切りは日日の出來高の區切りを示します。即ち此圖表を見ますと鐵筋組立作業は第一日は豫定四噸に對して、五噸の組立が出來、此の數量を圖表の如き橫線で表はします。縱線の間を豫定の數量に割り込んで見ると一噸に讀める譯です左肩はその日の豫定で右肩の數字はその日までの累計を數字で表はします。此の作業は豫定が十四日までに對して一日早く十三日にすでに仕上がつた事を示してゐます。

十九日までの仕事の進行狀態を調べました所（V印）第二階の鐵筋組立は豫定通り進まず二十二噸の取付を完了すべきでありますのに二十噸だけしか出來ませんでした何故出來なかつたかを見ますと十四日より十七日まで毎日手不足のために四噸の豫定のものを三噸づゝしか出來ず十九日に二噸の豫定のものを四噸取付して結局二噸だけおくれた事を示します。手不足であつた事は記號Dで表はします第四圖表は木工事の進行及能率統制圖表であります。

豫定欄の左肩の數字は工事の豫定數量であり、右肩の數字は豫定出面數であります。

內外木摺打の欄に於きまして見まするに一日はV印調査した日であつた事を示し、二日は二人の出面で二十坪のものを豫定通りに仕上げ三日には二人の出面で二十坪の豫定のものを二十五坪仕上げた事を示して居ります。

此の樣にしまして下の累計欄ではその日の出面の豫定と實施との比較が出來るのであります。

床板張工事に於きましては第一日は休み二日には出面四人十二坪を張り上げる豫定のものがM印即ち材料不足のために四人の出面があつたのに拘はらず九坪しか出來なかつた事を示し、二日は豫定十五人に對し十四人で、一人不足でありましたために筋違入れの仕事が十八ヶ所しか出來ず七ヶ所だけおくれてゐることがわかるのであります。一月分の書き入れがすんで書き込みの餘地がなくなつた時には更に圖表に番號を附し、同じ方法でずつと繼續して行くのであります。

此等の圖表の形式を更に材料の納入工程にも、係員の分擔表にも應用することが出來ます。要するに現場に於て頻繁に起る事故等を一々文章で書き表はしたりするとは無駄な時間を取りますから、此等を適當な記號を用ひて一目瞭然たらしむるのに力あるのであります。以上の外にまた、中樞部の管理者は更に統制圖表を別の形式で作成いたしまして各現場に於ての概括的な進行狀態を明にして行くのであります。

次に其一例としまして材料納入統制圖表を作成いたしました（第

五圖表參照）工事名稱及工事概要を御覽の樣に記入いたしまして、上の欄の橫に各々主なる材料を記入する樣にいたします。假設材料の欄に於きまして六月一日は納入すべき豫定の日であり、六月五日は實際納入せられた日であります。その右にある×印は納入が四日おくれた理由即ち註文が遲かつた事を明示してゐます。同樣なる形式で各材料に就て記入しまして最後に右端總計の欄に所謂成績とも云ふ可き記入をなすのであります。此の樣にいたしますれば何のために納入がおくれたかが明らかに分り又、其の回數も分りますからその遲延の原因を除かうと努力する目あてがすぐつくのであります。以上に述べました圖表の形式は決して其の儘利用して頂く積りのものではありません、たゞ大體の仕組を示しましたので、御忙しい諸君の御研究の助けといたしたいと思ひまして例示いたしたのみであります。

5 原價計算

ある作業の實費が實施の後に始めの豫算に比して餘分かかゝり過ぎたときに、見積係又は單價の割出し係は必らず『現場の技術者がぼんやりしてをつたからだ』と云ひ又現場の技術者は『見積係りや割出係はこの作業の原價を知らず亂暴な見積をしてをるからだ』と云ひます。この言葉には何れにも眞理があります。見積係は漠としたこれまでの單なる經驗から又は研究調査のたらなかつた下請人のいふことを聞いてウカ〳〵と割り出したのであります。現場技術者は不可抗力の原因、不可抗力でない原因をも頓着なしに、又かゝる實費になつた設備や作業方法をも研究せずに所謂、事實かゝつた實費を報告したからで、この爭には見積割出係と現場技術者との双方に落度がある場合が多いのであります。かゝる見にくい爭をなくすることだけにでも實費記錄や實費計算の必要があります。況んやこの制度は近代の合理的管理には必要かくべからざるもので、正確なる原價を知らなければ、よいものを安く、早く仕上ぐるといふ技術者究極の理想にも近づけない譯であります。

原價計算の目的は

イ、最少の原價を得る爲に管理者が單價の分析と研究とをなし凡ての無駄を省き共工事の利益を增進せしむる事。

ロ、將來の工事見積の基礎材料を獲得すること。

之れがためには何等計劃なしに從來の方法を踏襲してをるやうな工事に之れを試みやうとすることは全く無駄ではないが効能が少く詳細な工事計劃をなし、精密な實行豫算を作つて着手した工事や作業に對して原價計算を適用すれば効力が多いのであります。斯して得たよい標準（單價ばかりでなく方法まで）次の工事に適用すれば益々進歩發達せしむることが出來ます。けれども從來のやりきたりの方法によつた工事に適用してもその目的の一部分は達せられるのでありますがよい標準を得ることは出來ません。かくしてこの結果をこれまでやつて來た同種類の仕事と比較いたしますと、次のやうなことが發見せらるゝのであります。

A、一つ建物を建てるに何程材料が無駄使ひせらるゝか。

B、過つた勞力の購入がどの位に原價を高むるものであるか

C、過つた材料の購入がどの位に勞力や、仕上りに影響するものであるか。

D、作業設備や、悪い機械がどの位に原價に影響するものであるか。

E、勞力や材料の手待がどの程度に工事進行に對して影響するか。

F、始めの見積は如何なる點が不正確であつたか。

この他にも色々な利益もあるが茲では此程度に止めてをきます。

（以下次號へつゞく）

誌上講座

都市・建築・音響（十一）

佐藤武夫
中野勉

第六章　建築防音構造

（四）學校建築に於ける防音構造

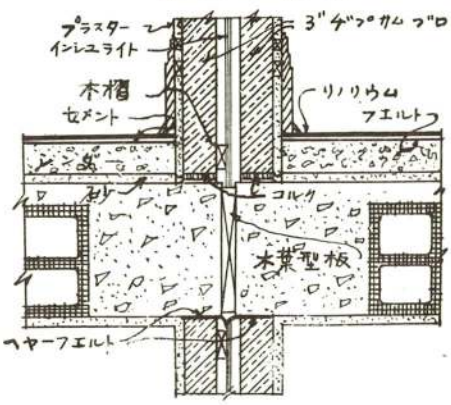
アパートメントハウスに於いても、その防音構造は遮音構造の方が遙かに重要性を持つてゐるが、その最たるものに學校建築、殊に音樂學校建築がある。正確な音の音程、强弱を練習せんが爲には　學校内の各教室が如何に靜寂にされるとも、靜かすぎると云ふことはない。然し實際上にかかる建築物をば完全に防音的に施工することは極めて困難なことである。建物内のある特殊な室のみを防音構造として取扱ふことは、特別な施工も容易であるが、建物全部を防音構造とする時には、必然的に構造上の種々なる制限を受けることとなる。換氣、採光、暖房等種々なる問題との關係も充分考慮しなければならないし、且つ之等の問題が完全にされた時に始めてその効果が表はれるのであつて、その中の一つでも不完全なものがある時には、往々にして不愉快な結果を見るものである。前項の病院に於けるボンプ室の遮音構造等はその良き例であらう。

遮音構造の良き實例として、ヂエームス・ホワイト教授 Prof. James M. White が設計して、ワトソン氏 F.R. Watson がその防音構造を擔當したイリノイ大學のスミス音樂學校 Smith Music Building に就き少しく詳細に述べて見よう。(一)

この建物は屋根裏に四十五の小さな練習室、一階及び二階に二十一のスタヂオ及びクラスルーム、並びに建物の中央に大きなコンサートホールを持つてゐる。フアンやモーター並びにエレヴエーターより發する騒音をなくするために特に注意が拂はれ、換氣煖房等のパイプも特別な方法により取扱はれてゐる。

建物構造は鐵筋コンクリート造りである故極めて剛であり、容易に振動はしない特徴を有してゐる。防音構造となすために、各室が一單位として取扱はれ外部に面する壁を除いては、床、天井、間仕切等總べて絶緣された。間仕切及び床構造は第三十八圖に示す如くであつて間仕切と柱、梁等の接觸部にはヘヤーフエルトを入れて直接の接合を避けた。床の厚さは十二吋の鐵筋コンクリートに重さを減ずる爲に十吋のホローターイルを入れ、床の仕

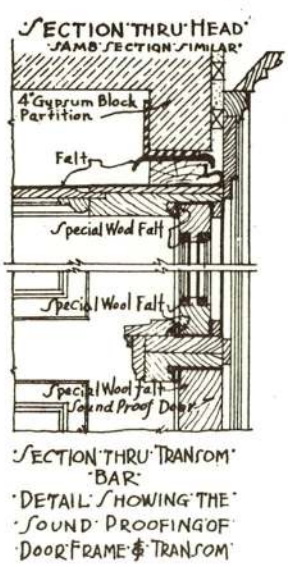
第三十八圖



上げとコンクリートの間には砂を入れ絶緣されてある。

三階練習室の天井はメタルラスに漆喰塗りの吊天井となし、二階のスタヂオの天井は床構造部の下部に漆喰二度塗りとし、室内の餘響時間を適當とするためにその表面に吸音材料が貼られた。練習室の扉は總てハムリン式 Hamlin 防音扉を用ひてゐる。之れは重い二重扉で中央に一吋厚のヘヤーフエルトが入つてゐて、扉の際間はレバーにより扉がフエルトに固く密着して、音の侵入を防ぐように出來てゐる。扉及び無目の構造は第三十九圖に示す如きものである。

第三十九圖



電線は總て外部か又は廊下の壁の中を縦に通して、各室から壁に口をあけて導かれる様にされてゐる。煖房用パイプは煉瓦壁の中に坑を作つてその中におさめ、坑にはスポンヂフエルトをつめて音が傳はるのを防いでゐる。スチーム・ラヂエーターは外側に支へる様にし、床からは離されてゐる。換氣は洗滌された新鮮な空氣を各室に送るよう出來てゐる故、窓を開く必要はない。全部の室は四組に分たれて機械的に換氣される様出來てゐる。

建物内の廊下の床は、リノリウム又はコルクで張られ、足音を立てない様にされてゐる。ホールを通して音が傳へられるのを防ぐために數ケ所にドアーが取付けられた一箇のエレヴエーター・シヤフトは音樂室から離れた位置におかれ、壁の中にかくされ、且つエレヴエーターの扉は固く密閉する様に作られた。換氣のファンは雜音を消すために、速度の遲いものが用ひられ、特別の室に設置された。

コンサートホールは建物の中央部に位置し、その周圍は廊下により圍まれてゐるために、スタヂオからは絶緣されてゐる。三階の練習室は十七吋の際間を有してゐる四吋のホロータイルからなる二重壁でホールからは絶緣されてゐる。而して之等の壁は何等の開口部を有せず三階の床に接續してゐる。

防音構造の結果が試驗された。練習室内で人が大聲で叫んでも廊下にゐる人には殆ど聞きとれなかつたけれども、音樂の場合には少しく傳達度は大きかつた。又練習室にある學生は他の部屋から洩れて來る音は彼等の練習中には何の妨害にもならないことを告げた。間仕切の防音構造は完全ではないが、充分効果のあることを示した譯である。壁をば更に完全に防音的となすことは出來るけれども、普通の建築物にあつては之以上に完全にすることは、費用も莫大となり要求され得ることではない。

クラスルーム等の特別に防音的構造としなかつた室では、意外な音が洩れて來るものもあつた。然しこれは當然の結果である。各ホールでは方々の室からの音が、戸の際間や其の他の際間から洩れて來て少しく騷々しかつた。然し之れは大して邪魔になる程騷々しいものではなかつた 若し廊下の天井に吸音材料を貼れば結果は更に良好であつたと考へられる。換氣用ダクトは間仕切りよりも遙かに多くの音を傳へるものであるのに反して、防音扉は非常に有効であることが證明された。

以上のものは防音構造としては相當以前に最初の試みとして作られたるものであるが、又それらの構造の遮音率に對する數字的な結果は何等示されてはゐないが、今後の此の種の防音構造に對して良き指針たりうるものと信ぜられる。

換氣設備に於ける防音裝置

ヴエンチレーションダクト Ventilation ducts 内を通る音は、その通路内では極少量の音しか消滅しない。この場合に於ける音の現象は

全く通話管 Speaking tube 内の音と同じである。通話管では一つの建物内で遙かに離れてゐる二室間で、自由に會話が出來る。同樣に建物のある一室でピアノを奏した場合、又人の話聲等は、その室内に開いてゐる換氣孔より、パイプを通して他の室に導き出される。この場合音波は、空中に於いて發せられ四方に擴る代りに、パイプの中を極く少量の音を消散さすのみで進行する。

一般にはパイプを曲げると、音波の進行に對して妨害となるものと考へられてゐるけれども、之はある特殊な場合のみ眞實であつて、振動數の少ない即ちピッチの低い音にあつては、波長が管の直徑に比して大であるために曲つてゐても容易に通り越して了ふ。例へばアメリカ海軍省の實驗報告によれば、二吋の長さ二百呎の管は七十五の普通狀態の屈曲を有してゐても、完全に會話が出來ることを報告してゐる。人間の聲の平均波長は、六呎から十二呎位の範圍である故に、之等の音波の邪魔をするためには六呎以上の直徑を有する管でなければならないことになる。又この場合假令曲つてゐる部分が、四十五度の反射面を有してゐても、大して効果はない。管を九十度に曲げると、ある音は、特に音波の短い倍音は反射せられる。

ヴエンチレーションダクト内を通る溫い空氣は、普通毎秒四呎から三十呎の速力であるが、之に對して音波の速度は、毎秒千二百呎もある。故に音波の速度から見れば、ダクト内を通る空氣は靜止してゐると見ても差支へなき程度のものである。音波が空氣と同方向に進む時にも、又逆の方向に進む時にも殆んど變りはないが、同方向に進む時には僅かばかり影響が大きい。小さな管で空氣の流れの速いものは、大きな管で空氣の流れの遲いものよりも音波に對する影響は大である。管内に空氣の渦が生ずるのと、空氣との摩擦面が管の斷面積に比して大きくなるからである。

管内に於ける音の消散には、三つの主なる原因がある

1、管の側面と振動せる空氣との摩擦により、熱のエネルギーに變化するもの。

2、管が作られてゐる材料の性質により、音のエネルギーから機械エネルギーに變ずるもの。

3、管の繼目及び側面の裂目から外部に逃げるもの。

之等の三つの原因は、ヴエンチレーションパイプ内を傳はる音を減殺する實際的方法の何等かの手懸りとなるものを考へられる。又管内を流れる空氣と、音波の進行とはその性質が全く異なるものであることも見逃してはならない。即ち管内の空氣は一定の方向に常に前進するものであるのに對して、音の進行は、空氣の微分子による單なる前後運動であるに過ぎないから。故に換氣流に影響することなく、管内の音を減殺する方法は可能の如く考へられる。

建物内の相隔たる部分に於いて、換氣用ダクトを通じて傳へられる音を如何にして防ぐかは現在に於いて信賴すべき方法は示されてはゐない。ある場合には、空氣を供給する室から、幾本もの小さなパイプにより各室へ空氣を送ることが、良い結果を得ることを示してゐる。かくすればある一室内で發せられた音は、長いパイプを通して一旦供給室へ達し、更に他のパイプを通して他の室に傳へられるから、その間に於ける摩擦が相當音を弱めるものと考へられる。又小さなパイプでは空氣の速度は大となり、前述の如き障碍を起す故である。供給室の壁面を柔かくすることは更に結果を良好ならしむるものと考へられる。次に前項のスミス音樂學校に採用された換氣設備ここに就き述べて見よう。

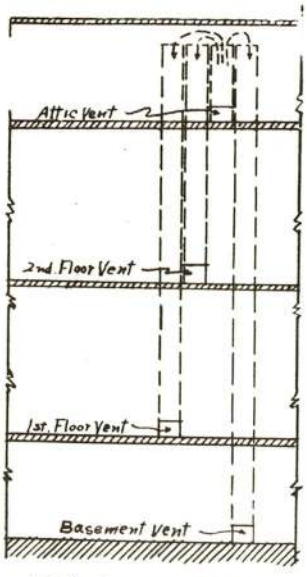
この建物の換氣設備は四系統に分たれてゐて、建物内の各室は四つの群に分たれ、互に絶緣されてゐる。各室へは主管から小さなダクトが引込まれ、各自の室から別々のヴエントパイプが屋根裏の共通の室に通じており、其處では使用された空氣が建物外に吐き出されてゐる。ヴエンチレーテイング、ファンは大きく、廻轉速度は遲くとも空氣を送給するに充分であり、ファンが廻轉されても騷音は殆ど發生されない。ファンと外部に導き出されるパイプとはカンヴスで連結されてある故に、金屬の直接の連結を斷ち、ファンルームから騷音が傳へられ

るのを弱める。並んでゐるパイプは各自インシュライトで分離されてゐる。

使用された空氣を屋根裏の一室に導き出すために、各室からヴエントパイプが通じてゐるが、之等のパイプを通して各階各室内で發生された音は屋根裏の室に集められ、又他のパイプを通して他室にまで擴げられる譯である。故に最初は屋根裏の室の内部にフエルトを張り、パイプを通して來る音を吸收することが考へられたけれども、更に効果のある別の方法が發見された。

第四十圖はヴエントパイプの配置を示せるものである。各階の室からパイプを通して屋根裏に到つた音が、更に他のパイプを通して各室

第四十圖



Vent pipe 配置圖.

に傳はる樣子が明かにされてゐる。故に異なる二室間でパイプを通して會話をすることは容易である　一二階のスタヂオでは三階の練習室から聞こえて來るピアノその他の樂器の音のために　教授が屢々困らされることが起つた。

之等の音の傳達を防ぐために、第四十一圖に示す如き形の、内側にヘヤーフエルトを貼つた蕈帽 "Mushroom Cap" がパイプの上端に嵌せられた。之がためにパイプを通して來る空氣及び音は、室内に出るためには曲折された通路を通らねばならない。この帽子が一つのパイプに嵌せられ

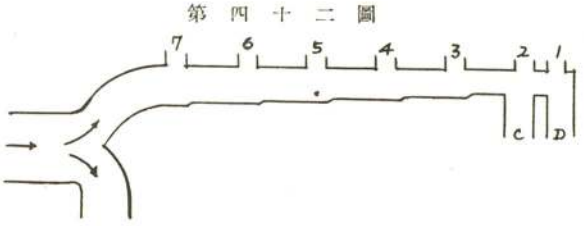
第四十一圖



Vent Stop

た時、音の傳達は相當減ぜられた。二箇のパイプに夫々帽せた時には、それ等の各室間の音の傳達は著しく減じた　且つ全部のパイプにこの帽子を被せてもヴエンチレーションには殆ど影響しない程度のものであつた。

第四十二圖



Ventilating pipe 配置圖.

以上は排氣用パイプに對して考案せられたものであるが、給氣用のパイプに對しては又別な方法が考案せられた。第四十二圖は一階、二階及び地下の各階にある室に對するパイプの連結狀態を示すもので、全システムの半分を圖示せるものである。省略されてある部分は圖示せられたものと全く同形のものである。主管から各室に導き出されてゐるパイプは總て、C及びDの記號のものを除いては同側に出てゐるものである。後にも述べる通りこの配置は音を減殺するには良き方法である

調査は一室に於いて一定の音を發生し他の室にあつてそれを聞く方法をとつたヴエンチレーション、ダクト以外の他の通路より來る音はすべて、二重壁及び防音扉のために實際的には影響しなかつた。

結果は主管に入つてから、反對側の管に傳達されるものが最も著しかつた。例へば一階のある室で發生された音が、四十二圖で(1)の記號のある管を通つて主管に入り込み、C及びDの管を傳はつて三階の室に手にとる樣に聞こえ、之等二室間では會話は自由になされた　實際會話でも音樂でも之等の室の間では筒抜けに聞こえ、これをなくするためにはC及びDの管を完全に密封するより他にはなかつた。その次には(1)の管を通つた音は(2)の管を傳つて最も多く傳へられた。次に(3)

(4)と順次に比例して音が傳達され、(6)の管を通つて室内に入り來る音に到つては實際には最早何も聞こえなかつた。若し(1)及び(　)の如き相隣れる管の間の音響傳達が統禦出來るならば、音響遮斷の實際的方法が考へ出される譯である。完全に之を改正せんがためには、相隣れる二管に接續する各室で――結局それは全部の管と云ふことになるが、――同時に音樂を奏し得る樣にされねばならない

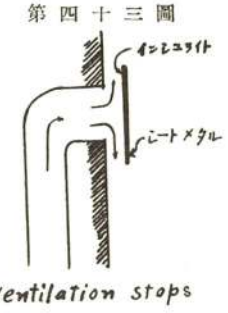
これを決定せんがために、(1)のパイプに接續せる室内で一定の音を發し、(2)のパイプに接續せる室で傳達される音を調査した。減音板"Spreader" Stop なるものを第四十三圖に示せる如く、各管の室内の開口部の上に覆つた。之れは金屬板の内側にインシュライトを張つたものであつて、之がために管よりの空氣及び音は室内に直接入り來らず、狹い通路を曲折し、且つ其の間に相當音響が吸收される樣になつてゐる。之等の減音板は種々組み合はされて試驗された　即ち(1)のパイプの上に之をおき、(2)のパイプの上にはおかずにその儘としたり、又兩者共に之をおいたり、取り去つたりして試驗された。然し試驗の結果、何れも著しい差異は認められなかつた。故にこの種の減音板は使用される丈の價値がないことが結論された

妨音板 Baffle plate　をばパイプの内側に挿入した方が著しい効果があつた。この板の上をばヘヤーフエルトで被ひ、その上に空氣の流れのために毛が飛ばない樣に布で被つておく必要がある。

各室内に開いてゐる排氣管の開口部に對しても種々實驗が試みられたけれども、これぞと云つて決定的な方法は案出されなかつた　然し氣流に大した影響を與へず、而かも音響の傳達を防止し、且つ全く金屬より出來てゐるものを工夫することは事實可能のとのやうに思はれる。

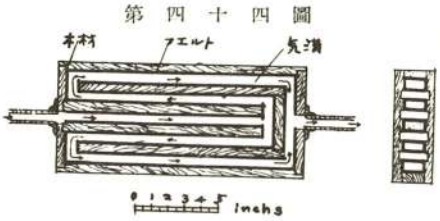
同樣の種々なる實驗が、三階の各練習室の間で行はれた　給氣管を通して傳達される音が隣室では最も著しかつた。減音板は換氣口が通風を全く止めて了ふまで閉ぢられない限り効果はなかつた

ミュージツク、ビルデイング Music building に於けるイーストマン、スクール Eastman School の換氣設備をワトソン氏は其の後取扱ひ次の如く述べてゐる。空氣供給室から各自のスタヂオへ別々に小さなパイプで空氣を送る方法は、從來の缺點を減じ、パイプを通して傳達される音響は邪魔にならぬ程度のものであつた又各室をば最適の餘響時間を保たしむる樣、室内に吸音材料を貼つた爲に、室内に發生される音響强度を弱め、それに比例して傳達される音響も弱められた



第四十三圖
Ventilation stops

英國のナショナル、フイジカル、ラボラトリー National Physical Laboratory で使用され、非常に有効なりと稱讃せられた裝置に第四十四圖の如き妨音箱 Baffle box がある。圖に示された如く、氣流は屈折された通路を流れ、其の間に貼られた吸音材により音響を吸收する樣に出來てゐるものである。實驗の結果によれば、氣流は容易にその間を流れ、而かも其の間に音響は非常に弱められた　例へば隣室のオルガンパイプの音を遮斷したり、又騷々しいポムプの音を遮ぎるのに成功したと報じてゐる。但し一般にこの種の毛類を用ふる場合にあつては、それが氣流により吹き飛ばされない樣にすることが必要であり、通路をば複雜に折り曲げることは、氣流を著しく弱める結果に陷り易いと考へられる。寧ろ更に他の妨音箱を用ふるならば、その氣流と音響の傳播とからして、適當な工夫が考案され得るのではなからうかと考へられる。



第四十四圖
Air duct ノ防音裝置

最近のアメリカの傾向では、地下が次第に膨起しつつあるためにダクトの面積を出來る丈限縮しなければならないので、勢ひ在來のものよりも氣流の速度を高めねばならない。ワトソン氏の研究では廻轉速

度の遅いファンを用ひ、そのために起る騒音をば出來得る限り減少したのであるが、近來の傾向ではそれが許されなくなつて來たのである。從つて速度を出すために騒音も增加し、費用も增大する。ファンから直接傳へられる騒音を減ずるための研究がラーソン氏 G.L. Larson 及びノーリス氏 R.F. Norris により最近に發表された。(三)この研究には十吋角の全長三十呎のダクトが使用され、このダクトは二呎づつで區切られてゐる。實驗はダクトの內側に吸音材を貼り、速度と騒音の關係を調査せるもので、測定器としてはアコースチメーターが用ひられた。

騒音は速度と共に增加するけれども、速度の大なるに從ひその率は低下する。ダクト內部全部にブランケツトを貼つたものと、貼らないものとでは非常な差がある。例へば兩者が四十デシベルの騒音を示す時にはその速度に於いては前者は後者の一・八倍に上つてゐる。又二十六デシベルの時には前者は後者の二・五倍の速度を有してゐる。逆に言つて一分間八百呎の速度の時には兩者の騒音の差は十デシベルからある。ダクト內部にブランケツトを貼つたものと、更にその上に穴のあいてゐる金屬板を貼つたものとでは殆ど差異がなかつた。特に注意すべき點は、ダクトの送氣口に貼られた吸音材はその排氣口に貼られたものよりも遙に効果があることである。例へば送氣口の部分の六呎の吸音材は排氣口の部分の十八呎のものよりも尙僅かばかり効果があつた。全長に貼られたものが最も効果があることは云ふまでもないが、それが不可能なる時にはダクトの送氣口に貼ることが最も良い譯である。

(註)

(1) F.R. Watson, Acoustic of Buildings, 1930.

(2) E.Snow, U.S. Naval Inst. Proc, Vol. 35, 1909.

(3) G.L. Larson & R.F. Norris, Some Studies on the Absorption of Noise in Ventilating Ducts. J. of Am. Soc. of Heating & Ventilating Engineers, Jan. 1931

『建築と社會』昭和六年度特輯計畫

新年號（一月發行賣切殘本なし）
震火災と建築（二月發行賣切殘本なし）
保健と建築（三月發行賣切殘本なし）
小住宅（四月發行濟殘本あり）
鄉土建築（五月發行賣切殘本なし）
新興建築事務（六月發行濟殘本あり）
建築と都市問題（七月發行濟殘本なし）
小住宅（冬の卷）（八月發行濟殘本あり）
小賣店・百貨店・市場（九月發行豫定）
映畫館と劇場（十月發行豫定）
高層建築（十一月發行豫定）

本年の特輯計畫は右の通りであります、特輯題目のうち御研究のものはどし〳〵御投稿下さい、歡迎致します、原稿の締切日は前の月の十三日です、なほ九月は「小住宅」十月は「小賣店・百貨店・市場」十一月は「映畫館と劇場」十二月は「高層建築」に就て夫々特輯の豫定です。

『建築と社會』編輯部

本誌定價表

冊數	定價	郵稅
一冊	五拾錢	貳錢
十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告掲載料金

		円			
普通紙	一頁一回	一五・〇〇	普通紙半頁一回	八・〇〇	
普通紙（前附第一頁）	一頁一回	四五・〇〇	普通紙（前附第二頁）	一頁一回	四〇・〇〇
普通紙（後附第一頁及最終頁）	一頁一回	三五・〇〇	アート紙（中揷）	半頁一回	二〇・〇〇
表紙二	一頁一回	六〇・〇〇	表紙三	一頁一回	四五・〇〇
表紙三	一頁一回	八〇・〇〇			

昭和六年七月廿七日印刷
昭和六年八月一日發行（毎月壹回一日發行）

兵庫縣武庫郡今津町浦風五六番地
發行兼編輯人　鷹取陽

大阪市東區內淡路町一丁目七番地
印刷人　大阪活版所

大阪市西區土佐堀通一ノ一大同ビル
發行所　社團法人日本建築協會
電話土佐堀四二六五番
振替口座大阪三九、九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話土佐堀二四四〇番
振替口座大阪二二〇八四番

御購讀の向は本會直接又は特約店へ振替又は爲替で前金御拂込を願ひます。



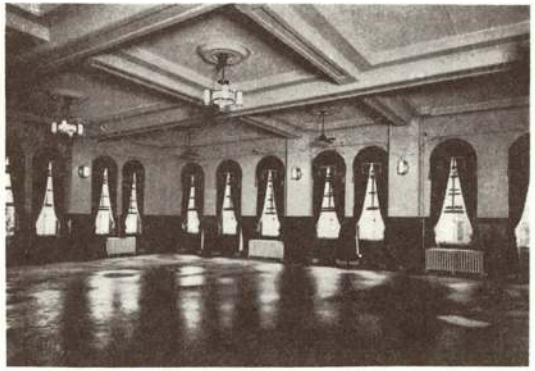
玄關詳細



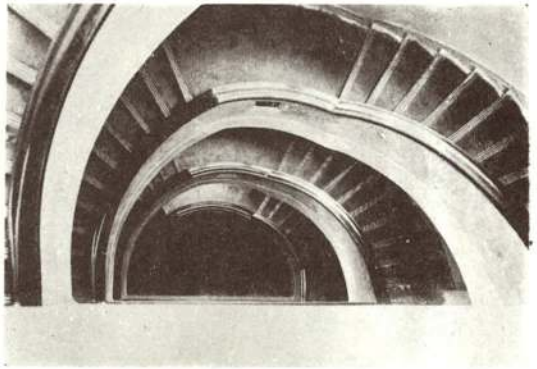
正面外觀



應接室



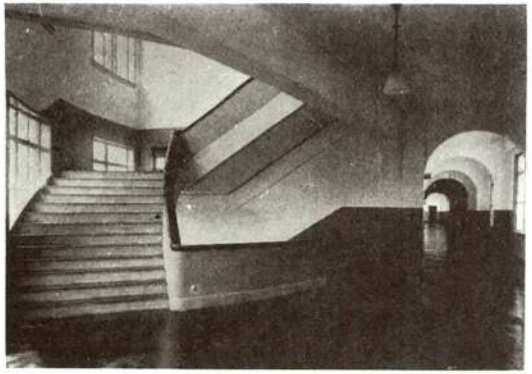
集會室



階段俯觀

神戸（中山手通四丁目）・**兵庫縣產業奬勵館**（1）

設計 兵庫縣營繕課　**施工** 株式會社中島組



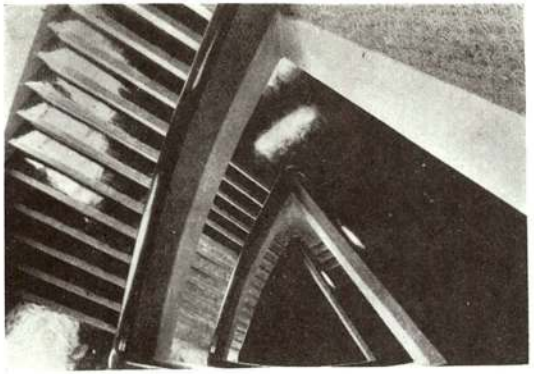
階　段　室



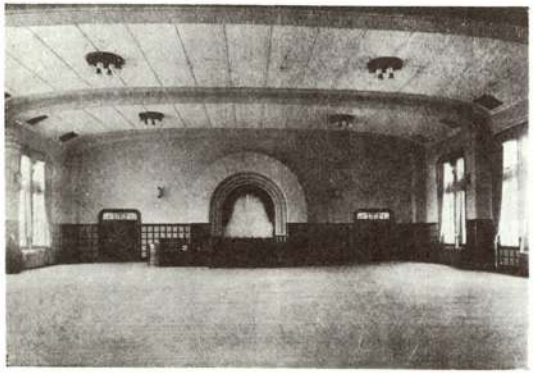
玄關ホール



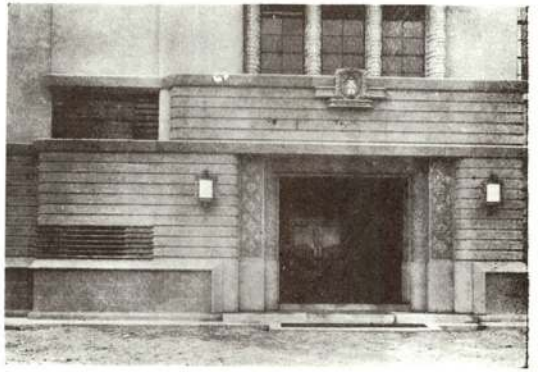
正　面　外　觀



階　段　俯　觀



講　堂　內　部

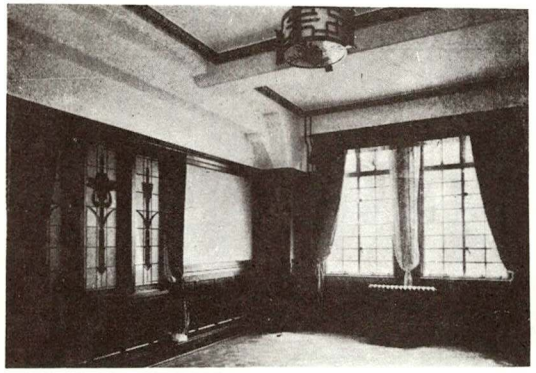


玄　關　詳　細

神戸（市外垂水）・兵庫縣立神戸高等商業學校（1）

設計　兵庫縣營繕課　施工　株式會社大林組

神戸（市外垂水） 兵庫縣立神戸高等商業學校(2)



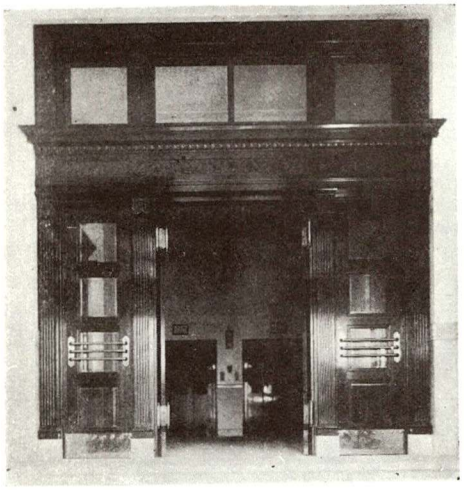
神戸高商・應接室



神戸高商・廊下詳細



日本生命館第一號館外觀



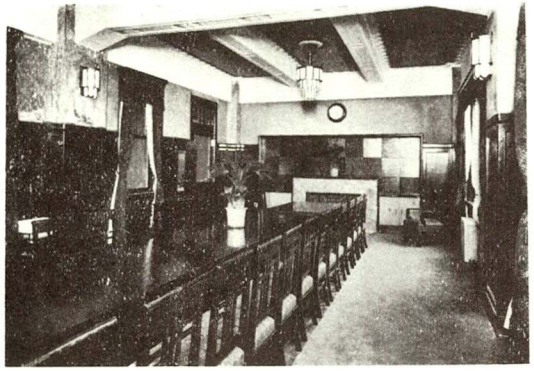
日本生命館第一號館玄關



菊水橋警察署外觀

大阪（東區今橋四丁目）・日本生命館第一號館　設計 片岡石本建築事務所　施工 株式會社大林組

神戸（荒田町三丁目）・兵庫縣菊水橋警察署（1）
設計 兵庫縣營繕課　施工 西本組



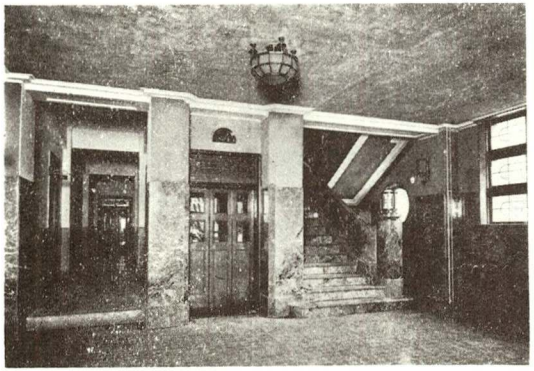
會議室



外觀



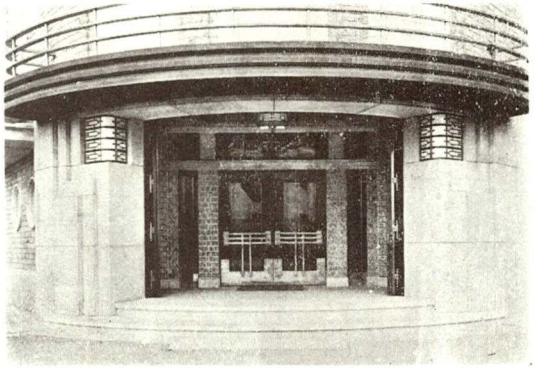
南面外觀



一階階段室



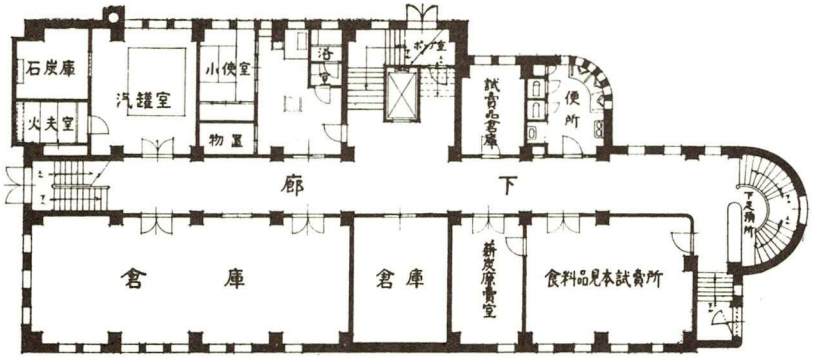
一階ホール



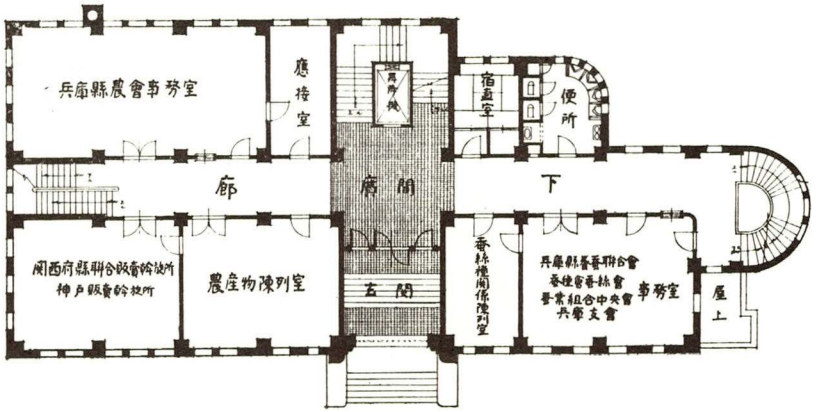
玄關詳細

神戸（神戸稅關構內）• **神港相互館（1）**

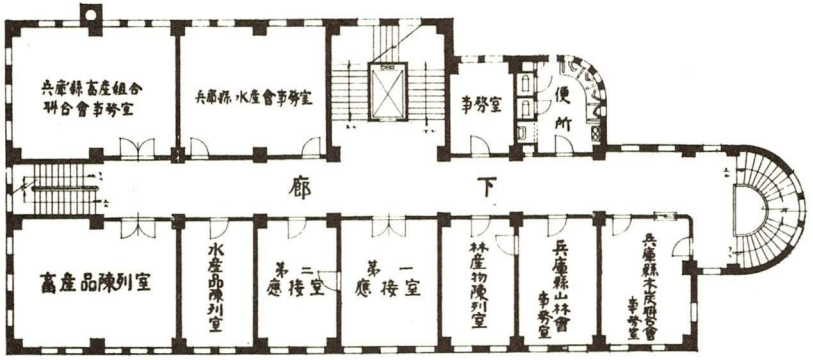
設計　株式會社神港相互館　　**施工**　株式會社中島組



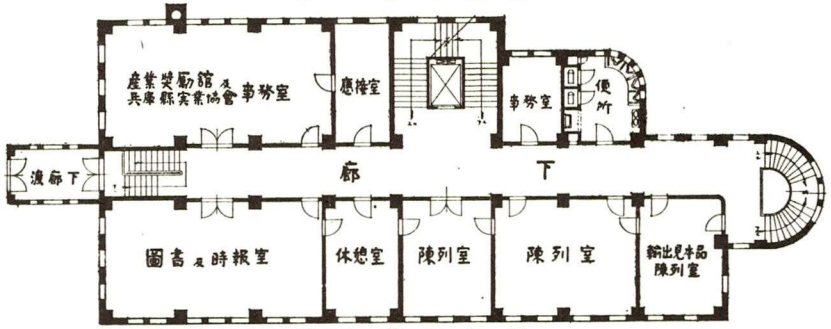
地階平面圖



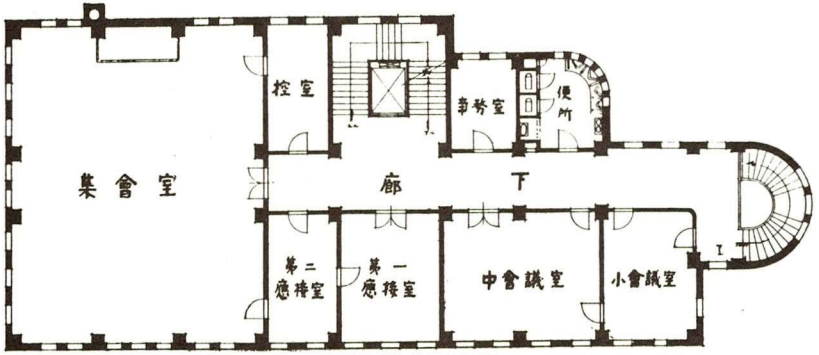
第一階平面圖



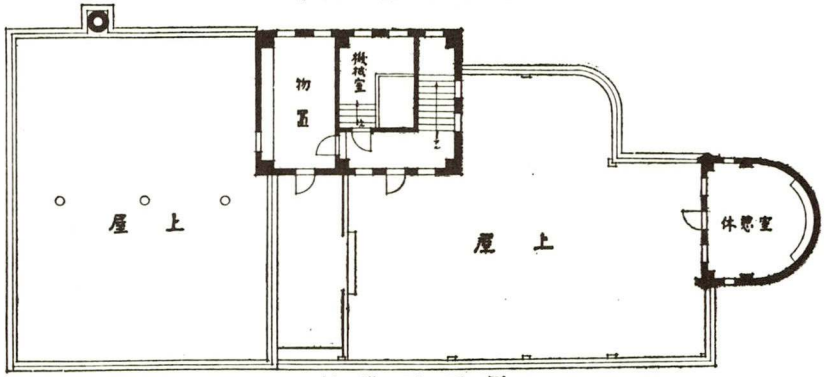
第二階平面圖



第三階平面圖



第四階平面圖

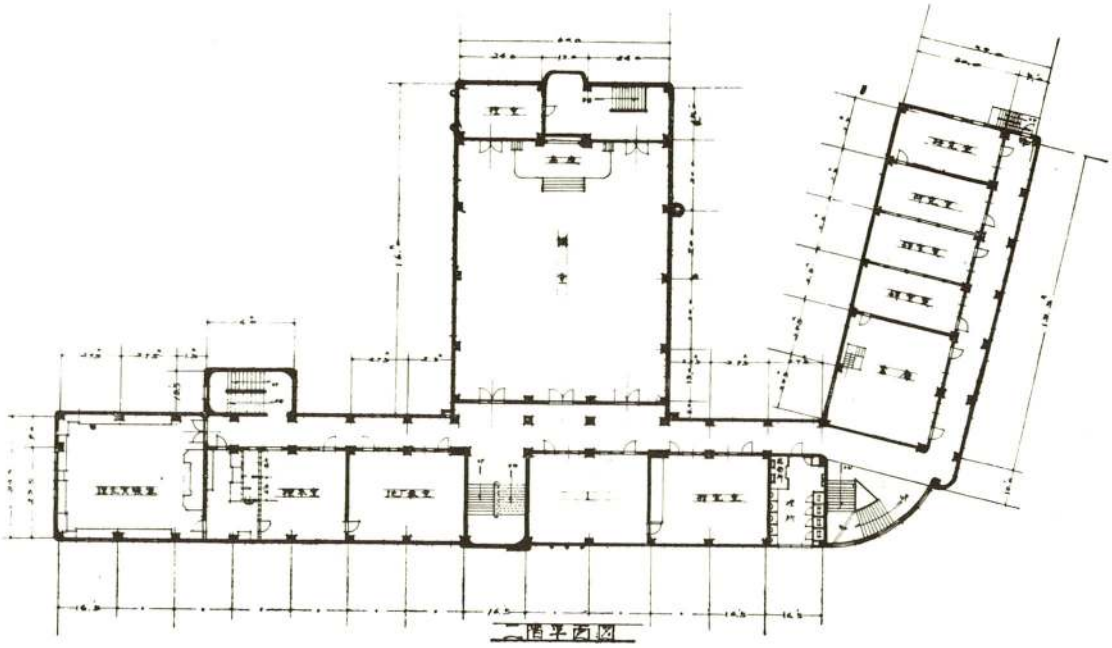


屋階平面圖

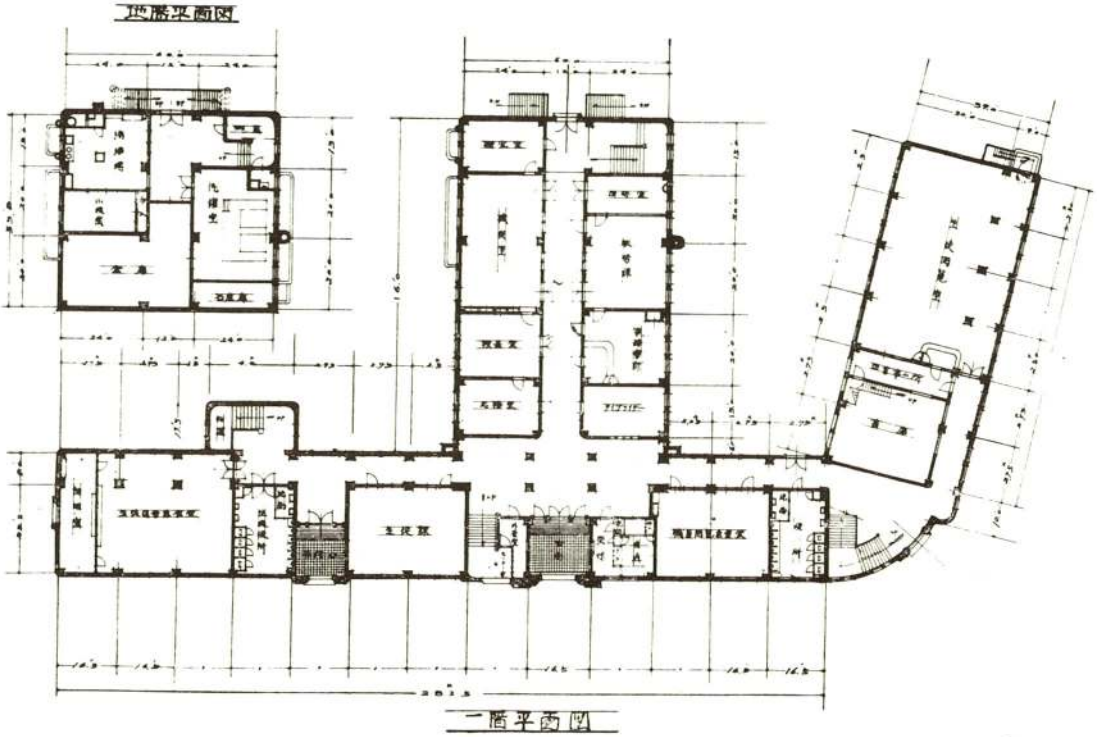
神戸（中山手通四丁目）・兵庫縣産業獎勵館（2）

設計　兵庫縣營繕課　　施工　株式會社中島組

神戸高等商業學校各階平面図



一階平面図

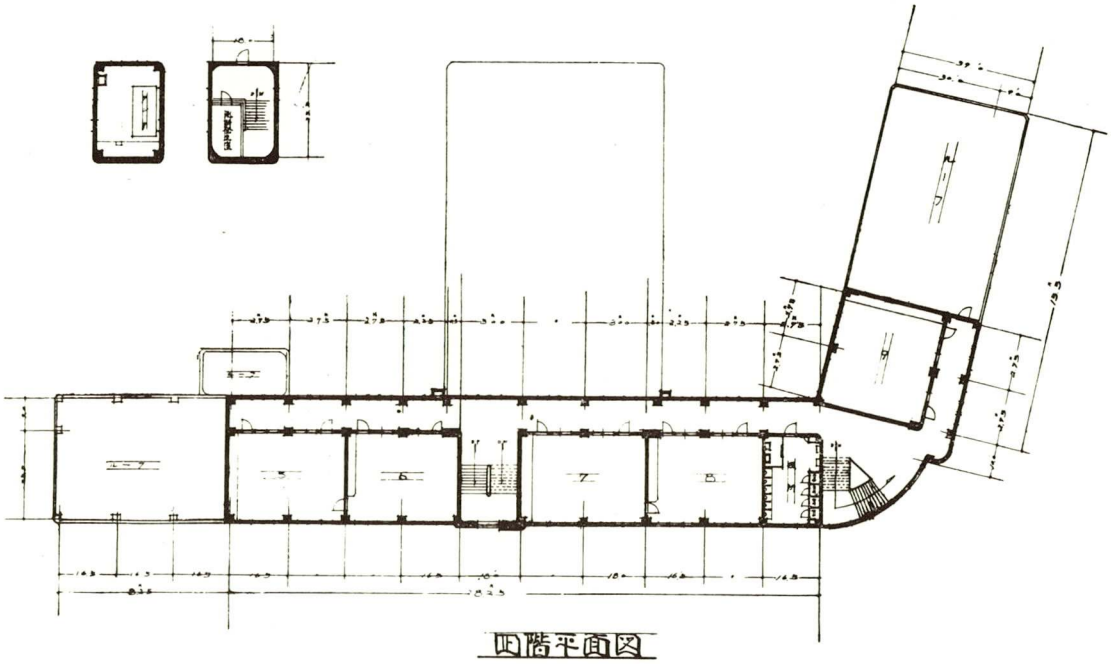


地階平面図

一階平面図

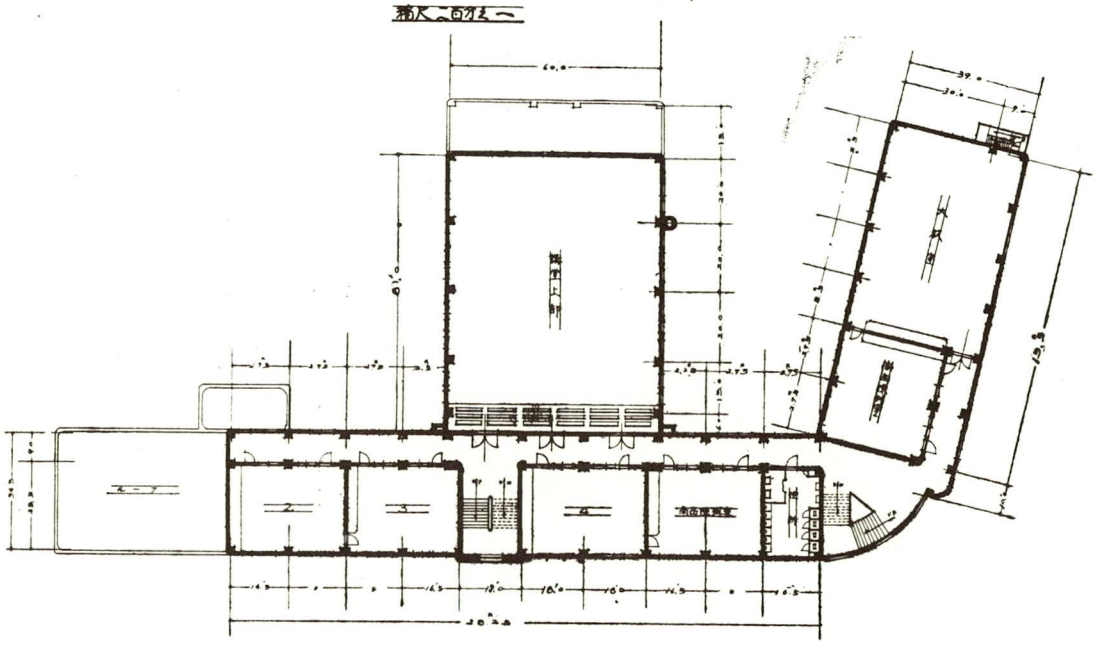
神戸（市外垂水）・兵庫縣立神戸高等商業學校（3）　　設計　兵庫縣營繕課　　施工　株式會社大林組

塔屋平面図



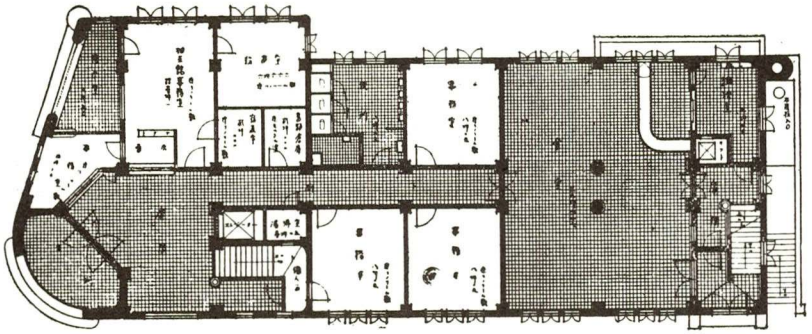
四階平面図

神戸高等商業學校各階平面図

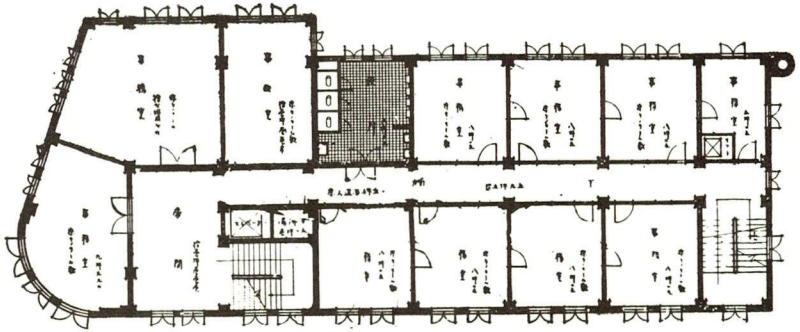


二階平面図

神戸（市外垂水）・兵庫縣立神戸高等商業學校（4）　　設計　兵庫縣營繕課　　施工　株式會社大林組



1. 第一階平面圖

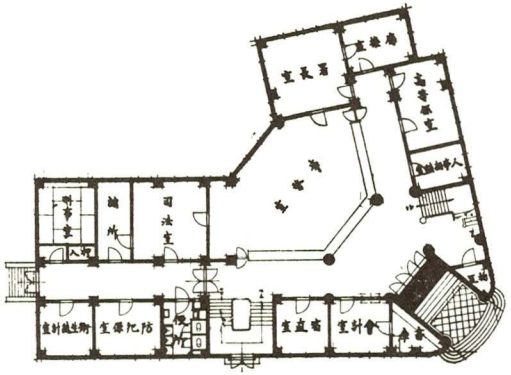


2. 第二階平面圖

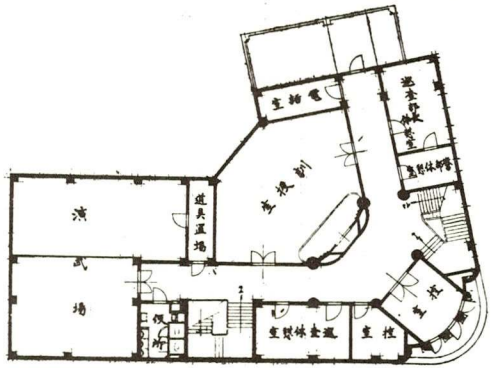
1—2 神戸(神戸稅關構內)・**神港相互館** (2)

設計　株式會社神港相互館

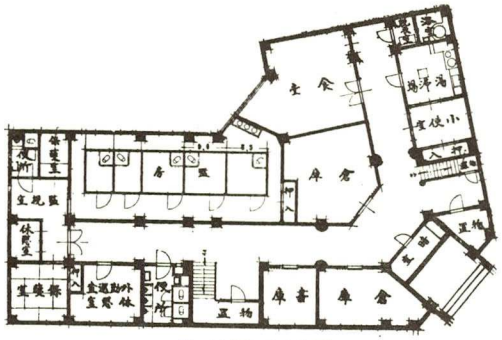
施工　株式會社中島組



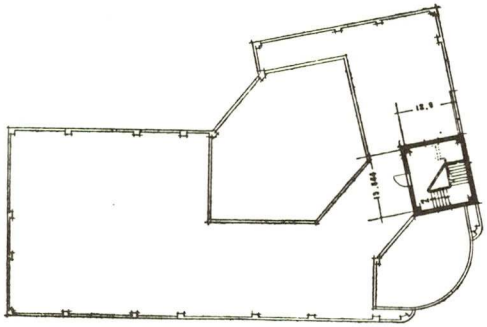
4. 第一階平面圖



5. 第二階平面圖



3. 地階平面圖



6. 屋階平面圖

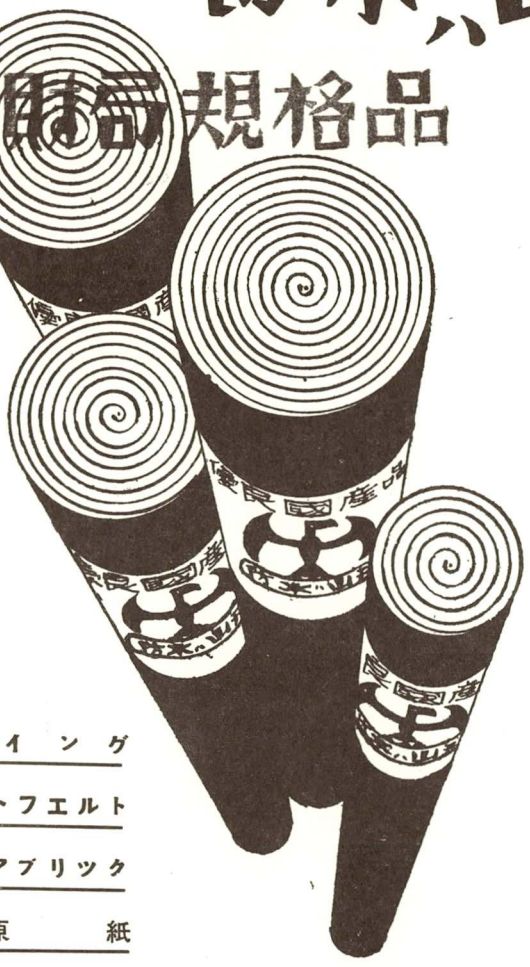
3—6 神戸(荒田町三丁目)・**兵庫縣菊水橋警察署**(2)

設計　兵庫縣營繕課

施工　西　本　組

防水、山形

營繕管財局規格品



山形ルーフィング

山形アスファルトフエルト

山形コツトンフアブリック

山　形　原　紙

新發賣

山形シルクフアブリック

防水、山形

山形製紙株式會社

東京出張所　東京丸ノ内海上ビル 603
電話丸ノ内（23）2757

大阪出張所　大阪西區江戸堀南通5135
電話土佐堀 7154

建築と社會第十四輯第八號

廣告目次

ア
有山組……一四
安藤組大阪支店……一四
旭硝子株式會社……五五
淺野スレート株式會社……二七
淺海商店……五〇

イ
池田建築事務所……一一
池田谷建築事務所……一一
池田組……一四
伊藤建築事務所……一一
石川商會建材部……五七

エ
榮進社……二五

オ
オリエンタルメタル製造所……四九
オキナ商店……四八
大阪ピトロライト工事合資會社……二八
大阪製鎖所エレベーター部……一五
大阪窯業セメント株式會社……三
大阪瓦斯株式會社……七〇
大阪伊丹商店……四六
大阪橋本組……一五
大林組……一五
大倉土木株式會社大阪出張所……一四
大野製作所……一一
小笠原建築事務所……一一
奥村重兵衛商店……四〇
岡部建築事務所……一一
岡本工務店……一五
置鹽建築事務所……一一

カ
片岡、石本建築事務所……一一
葛野建築事務所……一一
龜谷開作商店……一六
川島織物所裝飾部……二九
金岡養樹園……七
キ
木下謹三商店……四六
桐田商會……四七
ク
國枝工務所……一二
熊取谷熊次郎商店……一六
黒川化學工業所……六五
コ
鴻池組……一六
駒井喜鐵工所……一六
工材社(阪口芳三郎)……八
後藤商店……二四
金剛商會大阪支店……六六
サ
佐伯組……一七
佐久間建材工業所……一九
佐渡島西店建材部……三四
笹岡家具裝飾店……三六
三稜社……二八
阪本商會大阪出張所……三八
シ
清水榮二建築事務所……一二
清水組大阪支店……一七
城口研究所大阪支店……五九
設樂建築事務所……一二
島貿易株式會社建材部……六一
集成社塗料部……三五
ス
須賀商會……四三
住江織物合資會社……二四
ゼ
錢高組……一七
ソ
宗建築事務所……一二
タ
竹中工務店……一七
大正エレベーター製作所……六三
淡陶株式會社……七四
太陽社書店……七一
田中昌司商店……三六
田中工業株式會社……六二
ダ
ダンロップ護謨株式會社……五
WCフラッシュバルブ製作所……五二
大鐵電車……二〇
大理石工業株式會社……五二
大和工業株式會社……七三
テ
寺井洋家具部……三八
ト
朝永建築事務所……一二
東洋工業株式會社……三二
東洋リノリューム株式會社……四四
東洋陶器株式會社……五八
ナ
ナンコク商事株式會社……三三
中村建築事務所……一二
中川辰藏店……一八
內外土木建築材料合資會社……五六
南滿鑛業株式會社……六三
南滿建材工業所……三二
ニ
日本パイプ製造株式會社……二二
日本ペイント株式會社……三九
日本木材工藝株式會社……七二
日本建築紙工株式會社大阪出張所……四五
日本金具株式會社……六
日本鋼材株式會社……六八
日本石綿盤製造株式會社……三〇
西原衛生工業所大阪支店……五一
西孫商店建築金物部……三七
ノ
野村建築事務所……一二
野澤幸三郎商店……六〇
ハ
橋本建築事務所……一三
原科建築事務所……一二
ヒ
日之本建材商會……七一
フ
古塚建築事務所……一三
藤木工務店……一八
藤田商會……二六
福原工場……六七
冨士洋紙店……二三
ヘ
ベニス工房……二〇
マ
眞水三橋建築事務所……一三
松村組……一八
松原木工所……五〇
政正合資會社……六九
ミ
ミナト製作所……四二
三井物產株式會社……二一
宮島康夫商店……六七
ム
村上建築事務所……一三
モ
森本建築社……一八
ヤ
安井建築事務所……一三
山形製紙株式會社……九
山中商會……五三
山泰商店……四五
矢橋大理石商店……二六
ユ
ユニオン、トレーヂング、コンパニー六四
ヨ
横河工務所……一三
横河橋梁製作所……四一
米本商店……五四
米野商店……四二
ラ
ラバロイド商會……三一
レ
玲光社(木內眞太郎)……五四